

ブラジル国における農牧林業の生産流通状況（一九九二～一九九三）

ブラジル国における
農牧林業の生産流通状況
(1992年～1993年)

国際協力事業団サン・パウロ事務所

農業情報室

S	P
J	R
94-3	

703
8/1
SP
BRARY
所

ブラジル国における
農牧林業の生産流通状況
(1992年～1993年)

27549

JICA LIBRARY



1119693(8)

国際協力事業団サン・パウロ事務所
農業情報室

国際協力事業団

7649

〈目 次〉

1. 国内経済概況	1
1・1 1992年の国内生産状況	1
1・1・1 工業生産状況	2
1・1・2 エネルギー部門	3
1・1・3 農牧生産状況	5
1・2 投資状況	10
1・3 雇用水準	11
1・4 物価及び賃金	11
1・5 対外部門	12
1・5・1 概況	12
1・5・2 対外収支	14
イ) 貿易収支	15
ロ) 輸出	16
ハ) 輸入	21
ニ) 貿易相手国	23
1・5・3 サービス収支	24
1・5・4 資本収支	25
1・6 1993年度の経済指標	27
1・6・1 物価動向	27
1・6・2 貿易状況	28
1・6・3 農業生産状況	30
2. 農業界の動向	32
2・1 農業政策	32
2・2 生産資材部門の動向	38
2・2・1 肥料	38
2・2・2 農薬	43
2・2・3 農業機械	45
2・2・4 種子	48
3. 主要農産物の生産流通状況	50
3・1 穀類	50
3・1・1 とうもろこし	50

3・1・2	米	55
3・1・3	フェイジョン	60
3・1・4	ソルガム	63
3・1・5	小麦	65
3・1・6	大麦	67
3・1・7	からす麦	68
3・1・8	ライ麦	69
3・2	油脂原料作物	70
3・2・1	大豆	70
3・2・2	綿	78
3・2・3	落花生	85
3・2・4	ヒマ	90
3・3	工業原料作物	91
3・3・1	砂糖キビ	91
3・3・2	マンジョカ	98
3・3・3	煙草葉	101
3・3・4	サイザル	103
3・3・5	ジュート及びマルバ	104
3・3・6	ラミー	106
3・4	嗜好作物	107
3・4・1	コーヒー	107
3・4・2	ココア	110
3・4・3	ピメンタ	113
3・4・4	グアラナ	114
3・5	果実類	116
3・5・1	オレンジ	116
3・5・2	バナナ	124
3・5・3	バインアップル	127
3・5・4	ぶどう	129
3・5・5	ココヤシ	132
3・6	野菜類	134
3・6・1	じゃがいも	134
3・6・2	玉ねぎ	135
3・6・3	トマト	137
3・6・4	にんにく	138
3・7	牧畜部門	140
3・7・1	牛	140
3・7・2	鶏	142
3・7・3	豚	143

〈図表索引〉

表	1	PIB (国内総生産) 成長率	1
	2	PIB (国内総生産) の推移	1
	3	工業生産、部門別成長率	3
	4	石油副産物及び燃料用アルコールの推定消費量	4
	5	電力消費量	5
	6	過去5ヶ年間の農業生産状況 (面積)	7
	7	過去5ヶ年間の農業生産状況 (生産量)	8
	8	過去5ヶ年間の農業生産状況 (反収)	9
	9	ブラジルの固定資本形成率	10
	10	INPC (全国消費者物価指数)	12
	11	IGP (総物価指数)	12
	12	1992年の為替レート (各月末レート)	13
	13	ブラジルの対外収支	14
	14	ブラジルの貿易収支	15
	15	外国貿易：価格及び重量指数	16
	16	コーヒー：世界とブラジルの生産、消費及び輸出货量	16
	17	砂糖：世界とブラジルの生産、消費及び輸出货量	17
	18	大豆：世界とブラジルの生産、消費及び輸出货量	17
	19	ココア：世界とブラジルの生産、消費及び輸出货量	18
	20	品目別輸出実績 1991年92年対比	18
	21	石油及び副産物の生産、輸出入及び消費量	21
	22	小麦の生産、消費及び輸入	22
	23	輸入実績 1991、92年対比	22
	24	ブラジルの貿易相手国と実績	24
	25	サービス収支	25
	26	資本収支	26
	27	ブラジルの外貨にかかわる指数	26
	28	INPC (全国消費者物価指数)	27
	29	IGP (総物価指数)	27
	30	為替レート (月末レート) 1993年度	27
	31	その他の指数 (1993年)	28
	32	1993年の輸出先市場 (1～12月)	29
	32-A	1993年の輸出実績 (1～12月)	29
	33	1992/93農年の農業生産状況	30

34	年度別農業融資資金量と収穫量	32
35	作物別生産者カテゴリー別融資限度	33
36	最高融資額(US\$200,000)によって耕作出来る面積と収量	33
37	主要作物別VBC 93/94農年	33
38	VBCと生産コストとの比較	34
39	93/94農年の最低価格	35
40	93/94農年の融資額	36
41	主要農産物の輸入関税率	37
42	ブラジルの肥料需給	38
43	作物別肥料の推定消費量	38
44	作物別肥料の推定消費量(単位面積当り)	39
45	肥料1トンを購入するために必要とした作物量	39
46	肥料及び原材料の国内生産推移	40
47	国内肥料価格の推移	41
48	肥料の国際価格(各年6月時点)	41
49	主要作物別肥料の平均価格(1993年上半期)	42
50	肥料の州別配布状況	42
51	農薬の販売高(1992年)	43
52	農薬別販売高(1988~92)	44
53	サンパウロ市における農薬価格(実質価格)	44
54	農薬:93年上半期の販売状況	45
55	トラクター及び農業用機械の販売台数	46
56	トラクター(61CV)1台を購入するために必要とした作物の量	47
57	農業機械、92、93年の生産、販売、輸出比較	48
58	ブラジルの改良種子生産量	48
59	サンパウロ州の改良種子需給	49
60	サンパウロ州の主要種子生産量	49
61	サンパウロ州の改良種子価格(CR/Kg)	49
62	とうもろこし : 1992年の生産実績	50
63	〃 : 1993年の生産状況	50
64	〃 : 過去5ヶ年間の生産推移	51
65	〃 : 主要生産地の反収	51
66	〃 : 需給状況	53
67	〃 : 生産コスト予想(93/94)(A)	54
68	〃 : 生産コスト予想(93/94)(B)	54
69	米 : 1992年の生産実績	55
70	〃 : 1993年の生産状況	55
71	〃 : 過去5ヶ年間の生産推移	56
72	〃 : 主要生産地の反収	56
73	〃 : 需給バランス	58

74	米	: 生産者受取価格	58
75	〃	: サンパウロ州の生産者受取価格	58
76	〃	: 生産コスト予想 (93/94) 水稲	59
77	〃	: 生産コスト予想 (93/94) 陸稲	59
78	フェイジョン	: 1992年の生産実績	60
79	〃	: 1993年の生産状況	60
80	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	61
81	〃	: 主要生産地の反収	61
82	〃	: 需給状況	62
83	〃	: 生産者受取価格	62
84	〃	: 生産コスト予想 (93/94)	63
85	ソルガム	: 1992年の生産実績	63
86	〃	: 1993年の生産状況	64
87	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	64
88	〃	: 主要生産地の反収	64
89	小麦	: 1992年の生産実績	65
90	〃	: 1993年の生産状況	65
91	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	65
92	〃	: 主要生産地の反収	66
93	大麦	: 1992年の生産実績	67
94	〃	: 1993年の生産状況	67
95	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	67
96	〃	: 主要生産地の反収	67
97	からす麦	: 1992年の生産実績	68
98	〃	: 1993年の生産状況	68
99	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	68
100	〃	: 主要生産地の反収	69
101	ライ麦	: 1992年の生産実績	69
102	〃	: 1993年の生産状況	69
103	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	69
104	〃	: 主要生産地の反収	70
105	大豆	: 1992年の生産実績	70
106	〃	: 1993年の生産状況	70
107	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	71
108	〃	: 主要生産地の反収	71
109	〃	: 油脂作物主要10品種の世界需給状況	72
110	〃	: 大豆の国際価格	72
111	〃	: 大豆及び副産物の輸出実績	72
112	〃	: 大豆(豆)の輸出実績	73
113	〃	: 大豆(豆)の輸出先市場(1993年)	74

114	大豆	:大豆粕の輸出実績	74
115	〃	:大豆粕の輸出先市場(1993年)	75
116	〃	:大豆油の輸出先市場(1993年)	75
117	〃	:大豆の国内需給	76
118	〃	:生産者受取価格(サンパウロ州)	76
119	〃	:生産者受取価格(リオ・グランデ・ド・スール州)	77
120	〃	:生産コスト予想(93/94) A	77
121	〃	:生産コスト予想(93/94) B	78
122	綿	: (草綿) 1992年の生産実績	78
123	〃	: (木綿) 1992年の生産実績	78
124	〃	: (草綿) 1993年の生産状況	79
125	〃	: (木綿) 1993年の生産状況	79
126	〃	: (草綿) 過去5ヶ年の生産実績	79
127	〃	: (木綿) 過去5ヶ年の生産実績	80
128	〃	: (草綿) 主要生産地の反収	80
129	〃	: (木綿) 主要生産地の反収	80
130	〃	:世界の繰綿需給状況	82
131	〃	:繰綿の国際価格	82
132	〃	:繰綿の国内価格(サンパウロ取引所)	83
133	〃	:綿花の生産者受取価格	83
134	〃	:綿花の最低保証価格	84
135	〃	:繰綿の需給バランス	84
136	〃	:生産コスト予想(93/94) A	84
137	〃	:生産コスト予想(93/94) B	85
138	落花生	: 1992年の生産実績	85
139	〃	: 1993年の生産状況	86
140	〃	:過去5ヶ年間の生産推移	86
141	〃	:主要生産地の反収	86
142	〃	:世界の主要生産国	87
143	〃	:世界の貿易量	87
144	〃	:主要国の輸出価格	88
145	〃	:生産者受取価格	88
146	〃	:生産コスト予想(93/94) A	89
147	〃	:生産コスト予想(93/94) B	89
148	ヒマ	: 1992年の生産実績	90
149	〃	: 1993年の生産状況	90
150	〃	:過去5ヶ年間の生産推移	90
151	〃	:主要生産地の反収	91
152	砂糖キビ	: 1992年の生産実績	91
153	〃	: 1993年の生産状況	92

154	砂糖キビ	: 過去5ヶ年間の生産推移	93
155	ク	: 主要生産地の反収	93
156	砂糖	: 世界の需給バランス	94
157	ク	: 主要12ヶ国の生産、輸出入動向	94
158	ク	: 砂糖の輸出実績	95
159	ク	: 粗糖の輸出先市場	95
160	ク	: 結晶糖の輸出先市場(1993年)	96
161	ク	: 精製糖の輸出先市場(1993年)	96
162	ク	: 92/93農年のアルコール生産実績及び生産計画達成率	97
163	ク	: アルコールの推定消費量	97
164	マンジョカ	: 1992年の生産実績	98
165	ク	: 1993年の生産状況	99
166	ク	: 過去5ヶ年間の生産推移	99
167	ク	: 主要生産地の反収	100
168	ク	: 工業原料用マンジョカの生産者受取価格	100
169	ク	: サンパウロ市卸市場のマンジョカ粉価格	101
170	ク	: マンジョカの生産コスト予想(93/94)	101
171	煙草葉	: 1992年の生産実績	102
172	ク	: 1993年の生産状況	102
173	ク	: 過去5ヶ年間の生産推移	102
174	ク	: 主要生産地の反収	103
175	ク	: 煙草葉の輸出先市場	103
176	サイザル	: 1992年の生産実績	103
177	ク	: 1993年の生産状況	103
178	ク	: 過去5ヶ年間の生産推移	104
179	ク	: 主要生産地の反収	104
180	ジュート	: 1992年の生産実績	104
181	ク	: 1993年の生産状況	105
182	ク	: 過去5ヶ年間の生産推移	105
183	ク	: 主要生産地の反収	105
184	マルバ	: 1992年の生産実績	105
185	ク	: 1993年の生産状況	106
186	ク	: 過去5ヶ年間の生産推移	106
187	ク	: 主要生産地の反収	106
188	ラミ	: 1992年の生産実績	106
189	ク	: 1993年の生産状況	107
190	ク	: 過去5ヶ年間の生産推移	107
191	ク	: 主要生産地の反収	107
192	コーヒー	: 1992年の生産実績	107
193	ク	: 1993年の生産状況	108

194	コーヒー	: 過去5ヶ年間の生産推移	108
195	〃	: 主要生産地の反収	108
196	〃	: コーヒー(豆)の輸出推移	109
197	〃	: インスタント・コーヒーの輸出推移	109
198	〃	: コーヒーの輸出先市場(1993)	109
199	〃	: インスタント・コーヒーの輸出先市場(1993)	110
200	ココア	: 1992年の生産実績	110
201	〃	: 1993年の生産状況	110
202	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	111
203	〃	: 主要生産地の反収	111
204	〃	: ココア豆の輸出推移	111
205	〃	: ココア・リコールの輸出推移	112
206	〃	: ココア・バターの輸出推移	112
207	〃	: ココア及び副産物の輸出先市場	112
208	ビメンタ	: 1992年の生産実績	113
209	〃	: 1993年の生産状況	113
210	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	114
211	〃	: 主要生産地の反収	114
212	グアラナ	: 1992年の生産実績	114
213	〃	: 1993年の生産状況	115
214	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	115
215	〃	: 主要生産地の反収	115
216	オレンジ	: 1992年の生産実績	116
217	〃	: 1993年の生産状況	116
218	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	117
219	〃	: 主要生産地の反収	118
220	〃	: ニューヨーク取引市場の濃縮オレンジ・ジュース相場	118
221	オレンジ	: 濃縮オレンジ・ジュースの輸出推移	121
222	〃	: 濃縮オレンジ・ジュースの輸出先市場(1993)	121
223	〃	: 濃縮オレンジ・ジュースの対日輸出状況(1993)	122
224	〃	: 濃縮オレンジ・ジュースの主要輸先国別実績	122
225	〃	: 濃縮オレンジ・ジュース月別輸出状況(1993)	122
226	〃	: オレンジの生産コスト予想(93/94)(A)	123
227	〃	: オレンジの生産コスト予想(93/94)(B)	123
228	バナナ	: 1992年の生産実績	124
229	〃	: 1993年の生産状況	124
230	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	125
231	〃	: 主要生産地の反収	125
232	〃	: 世界生産に占めるブラジルの位置	126
233	〃	: 輸出推移	127

234	バナナ	: 輸出先市場	127
235	パイナップル	: 1992年の生産実績	127
236	〃	: 1993年の生産状況	127
237	〃	: 主要生産地の反収	128
238	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	129
239	〃	: 輸出推移	129
240	〃	: 輸出先市場	129
241	ぶどう	: 1992年の生産実績	129
242	〃	: 1993年の生産状況	130
243	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	131
244	〃	: 主要生産地の反収	131
245	〃	: 輸出推移	132
246	〃	: 輸出先市場	132
247	ココヤシ	: 1992年の生産実績	132
248	〃	: 1993年の生産状況	133
249	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	133
250	〃	: 主要生産地の反収	134
251	ジャガイモ	: 1992年の生産実績	134
252	〃	: 1993年の生産状況	134
253	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	135
254	〃	: 主要生産地の反収	135
255	玉ねぎ	: 1992年の生産実績	135
256	〃	: 1993年の生産状況	136
257	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	136
258	〃	: 主要生産地の反収	137
259	トマト	: 1992年の生産実績	137
260	〃	: 1993年の生産状況	137
261	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	138
262	〃	: 主要生産地の反収	138
263	にんにく	: 1992年の生産実績	138
264	〃	: 1993年の生産状況	139
265	〃	: 過去5ヶ年間の生産推移	139
266	〃	: 主要生産地の反収	140
267	牛肉	: 牛肉の生産、輸出入及び消費量	140
268	〃	: 牛価格の推移 (肥育牛)	141
269	〃	: 牛価格の推移 (放牧牛)	141
270	〃	: 牛価格の推移 (仔牛)	141
271	〃	: 加工牛肉 (コーン・ビーフ) の輸出先市場	142
272	鶏	: プロイラーの輸出先市場	143

1. 国内経済概況

ブラジル中央銀行の年次報告書によると1992年における国内生産、物価動向、国内投資、対外取引等々の状況は次の通りであった。

1・1 国内生産状況

IBGE (ブラジル地理統計院) のデータによると、1992年度におけるPIB (国内総生産) は、前年と比較して(-) 0, 9%の下降であった。これは主に工業部門の生産減退にもとづくもので、前年比(-) 4, 1%の下降を記録しており、農業部門における6, 0%の成長をもってしても、全体のマイナス成長を回復することはできなかった。工業部門の中では、PIBの約30%を占める製造工業と建築部門がそれぞれ(-) 4, 9%、及び(-) 4, 4%の落ち込みをみており、これが全体の成長率に影響する結果となっている。

1992年の1人当り所得は、US\$ 2, 796, -に相当し、これも又、前年比(-) 0, 2%の減少であった。過去3年間で見ると人口の5, 9%増加に対し、1人当り所得は(-) 4, 4%の減退である。

表 1 PIB (国内総生産) 成長率 %

部 門 別	1988	1989	1990	1991	1992
農業部門	0,9	2,5	-3,7	2,5	6,0
工業部門	-2,6	2,9	-8,0	-0,6	-4,1
鉱業	(0,4)	(4,0)	(12,7)	(0,3)	(- 0,3)
製造業	(-3,4)	(2,9)	(-9,5)	(-0,5)	(- 4,9)
建築	(3,0)	(3,3)	(-8,4)	(-4,0)	(- 4,4)
公共工業サービス	(5,8)	(1,6)	(1,8)	(4,3)	(1,9)
サービス部門	2,3	3,9	-0,8	2,0	-0,1
商業	(-2,7)	(3,0)	(-6,3)	(1,4)	(- 3,2)
輸送	(4,2)	(3,8)	(-2,8)	(2,5)	(2,4)
通信	(10,6)	(19,2)	(9,0)	(19,6)	(5,8)
金融	(0,3)	(1,4)	(-3,1)	(-8,0)	(- 4,6)
公共サービス	(2,1)	(2,1)	(1,9)	(1,9)	(1,9)
平均	-0,1	3,3	-4,4	0,9	-0,9

出所：IBGE

前年、比較的高い成長率を残したサービス部門も92年には-0, 1%の下降で、生産部門の後退を反映した成長率であった。サービス部門の中でもっとも高い成長を示した(5, 8%)通信部門も89年と91年に記録された19%、88年と90年の10%前後の高い成長のリズムを大巾に落している。

表 2 PIB (国内総生産) の推移

年 度	ドル換算額 (1992年価格)10億ドル	指 数 (1980年=100)	年間成長率 (%)	推定人口 (100万人)	1人当り所得 (1992価格US\$)	指 数 (1980年=100)
1983	334	93	-3,5	126	2.659	88
84	352	98	5,3	128	2.747	90
85	380	105	7,9	131	2.908	96
86	408	113	7,6	133	3.069	101
87	423	117	3,6	136	3.120	103
88	423	117	-0,1	138	3.057	101

89	437	121	3,3	141	3.098	102
90	417	116	-4,4	144	2.906	96
91	421	117	0,9	146	2.877	95
92	417	116	-0,9	149	2.796	92

出所：IBGE

1・1・1 工業生産状況

1990～92年間の工業生産高は(-)14%の大巾な落ち込みであったが、中でも1992年の(-)4,7%は国内経済のリセッション傾向を明らかとした指数であった。工業部門の中では、製造工業部門における生産の減退が大きく、鉱業部門には大きな変動はない。

製造工業部門では、タバコ(+4,8%)、ゴム(+1,7%)及び輸送機器部門(0,9%)のみが生産の増加を記録したほかは、すべてがマイナス成長であった。中でも電気通信機器、機械及び非鉄工業部門の減速が全体に大きな影響を与えている。

工業部門の中、主要部門とされるのは、70～89年間の生産高平均をベースとすると、化学(13,5%)、食品(12%)、金属(11,8%)、機械(10,0%)、輸送機器(7,6%)、電気通信機器(7,0%)、繊維(6,7%)の順である。

主要工業部門別にみると、化学部門は92年中、国内及び国外市場に対し量的に販売を落したが、価格の上昇から国内市場で2,2%、国外市場で2,0%の増加があった。この増加率は小さなものではあったが、化学部門が工業部門全体に対し、大きな比重を持つところから、大きな意味を持つものであり、全体の減少率を最少限に止めさせる役割を果たした。

食品工業部門は国内経済のリセッションにかかわらず、1,0%の成長を残した。これは輸出の増加、乳製品及び冷凍部門の投資の結果にもとづくものであった。ブラジル食品工業連盟によると、1992年中には輸入品との競合にそなえて機械設備の近代化に約20億ドルの投資が行われた。

金属工業部門で粗鉄の生産が24百万トン、薄板の生産も前年を6,1%上回る実績であった。国内消費量は減退したが、自動車工業界の需要が増加したため極度の不振をまぬがれている。この部門のポジティブな結果としては、輸出が前年を10%増加したことで、年間を通じて36億ドル(FOB)の外貨を得ている。しかし、輸出価格の下落から輸出額の増加率は、輸出重量の増加率を大きく下廻った。輸出価格の下落は、主に米国の保護主義に影響されたものである。

機械工業部門は、92年中137億ドルの売上高を記録したが、前年の152億ドルを大きく下廻った。ここでも輸出の成長率が9%(22億ドル)に達したことが、部門の大巾な下落をまぬがれている。この部門は多額の投資を必要とするだけに、92年にみられた低位の資本形成(PIBの15%)がこの部門の直面した問題点であった。

輸送機器部門は一部において不振であったが、全般的には、88年以降最高の成績を残し、自動車生産量を11%増加した。この成果は基本的に輸出の72%増によるものであり、国内市場への販売数は前年比(-)3,9%の減少であった。自動車部品工業部門でも輸出の増加により1,5%売上増を記録している。この部門では政府、メーカー及び労働組合の協定により、国内市場への販売減少を最少限に止める努力が行われた。又、この協定により自動車メーカーは、年間を通じて雇用レベルの安定を図った。

電気機器及び通信部門に含まれる電気電子部門の販売も減少しており、前年と比較して量的、金額的に約10%の下落であった。このような売上減少は、年間を通じた需要の低下や外国製品との競合の中で価格の低下をひきおこしたためであった。ABINEE(電気電子工業連盟)のデータによると、輸出は全額で前年比20%の増加をみたが、総売上に占める輸出の割合が14%にすぎないため、輸出の増加も部門の総売上に大きな影響はなかった。

繊維部門は1992年に(-)8～10%の売上減少を招いた。毎年季節的に売上が減少する12月に売上が上るという特殊な現象もあったが、全般的に国際市場における競争の激化とそれに伴う国際価格の低下による大きな影響があった。このため国内市場では、工業界の平均的な価格上昇率以下に終り、年末の需要増加

で若干の回復をみたにすぎなかった。

製造工業製品を使用目的別に分類すると、資本財における落ち込みが大きく、年間を通じて(-)12.4%の減少であり、過去3ヶ年間の減少傾向を続けている。

部門別工業生産成長率は次表の通りである。

表 3 工業生産：部門別成長率 (%)

区 分	生産高比率 (1980年度値対入)	成 長 率				
		1988	1989	1990	1991	1992
鉱業部門	2.9	0.4	4.0	2.7	0.3	0.3
製造工業部門	97.1	3.4	2.9	9.5	0.5	4.9
計	100.0	3.2	2.9	8.9	0.5	4.7
製造工業部門別内訳						
非鉄金属	6.4	4.2	3.8	-11.0	1.5	8.5
金 属	12.6	3.2	5.0	-12.6	0.2	0.7
機械機具	11.0	8.6	5.0	-16.9	-12.6	9.6
電気、通信機器	7.0	4.4	5.7	5.5	4.5	18.4
輸送機材	8.3	9.1	2.8	-15.9	0.3	1.0
製 紙	3.3	1.6	5.6	6.2	5.6	1.0
ゴ ム	1.4	2.1	1.9	4.4	0.8	1.7
化 学	16.1	3.0	0.3	8.1	4.3	2.1
薬 品	1.8	-14.2	4.7	9.7	2.5	14.0
香料石けん	0.9	7.8	11.5	5.7	5.3	1.4
プラスチック	2.7	7.2	12.4	-15.6	1.1	9.7
織 維	7.0	6.1	0.5	-10.1	5.3	4.0
衣類靴	5.3	6.8	1.8	-14.0	-13.2	13.9
食 品	11.0	2.4	1.3	1.8	4.0	0.6
飲 料	1.3	2.2	14.7	2.3	5.0	18.4
煙 草	0.9	1.0	5.1	1.3	1.5	4.8
使用目的別分類						
資 本 財	10.1	2.1	0.3	-15.5	-10.7	12.4
中 間 財	56.0	2.1	2.4	8.7	1.3	1.6
消 費 財	33.9	3.5	3.6	5.3	0.0	7.1
耐久消費財	5.9	0.6	2.4	5.8	4.8	7.8
非耐久消費財	28.0	4.4	3.9	5.2	1.2	6.9

出所：IBGE

1・1・2 エネルギー部門

毎年エネルギー省が発表する国家エネルギー・バランス1991年版によると、第1エネルギー源の生産は1991年中に前年比2.6%の増加であった。これは第1次エネルギー源の7.3%を占める再生可能エネルギー（水力発電、バイオマス等）の生産が3.6%の増加をみたためであった。中でも水力発電量は5.4%増加し、国内エネルギー源の4.1%を占めた。逆にブラジルのエネルギー源に占めた石油生産の比率は前年の2.2%より91年は2.1%に落ちた。

天然ガスを含む石油の1日当り平均生産量は653千バレルで、前年比僅かに1.1%の増加に止まった。これは石油部門に対する投資が低い水準に止まったのを大きな理由としている。

この結果、国内のエネルギー消費に占めた石油の比率は91年の5.4%より、92年には5.3%へと落ちた。

生産の停滞は必然的に石油の輸入を増加させ、石油副産物の輸入量は前年の1日当り103千バレルより91年には157千バレルへと増加している。ただし原油の輸入は、1日当り前年の526千バレルより495千バレルへと減少している。

石油副産物の推定消費量は92年中に3,1%増加し、1日平均1,233千バレルに達した。中でも最も消費量を増加させたのは燃料油の5,9%で、価格が低下したため電力を燃料油に替えた工場もあり消費量を増やした。

ベトロラス（石油公団）の石油精製能力は1日当り242千 m^3 で前年と変わっていない。又精製石油の総量に占めた国産石油の割合は、91年の55%より92年は50%へと減少した。

4月に開始された92/93農年のアルコール生産量は113億リットルで、前年比(-)6,4%の減少であった。この中、90億リットルがアルコール専用車用の含水アルコール、22億リットルがガソリン混入用の無水アルコールであった。

国内の無水アルコール消費量は、車輛の販売台数に占めたアルコール車の割合が91年の20%より92年には26%へと増加したにもかかわらず、前年を(-)5,5%減少する167千バレル（1日当り）に止まった。これに対してガソリンに混入される無水アルコールの消費量は92年中に16%増加し、1日当り33千バレルの消費量に達している。これは、90年に発生したアルコール危機の際、その消費量を押さえるため、ガソリンへの混入率を大サンパウロ圏を除き、13%に減少していたのをアルコール生産の回復により、再び全国一率に22%の混入率に戻したためである。

表 4 石油副産物及び燃料用アルコールの推定消費量 1,000バレル/1日

内 訳	1991			1992		
	量	前年比 (%)	構成比 (%)	量	前年比 (%)	構成比 (%)
石油副産物						
燃料油	176	-2,9	15	185	5,4	15
ガソリン	176	8,3	15	175	-0,7	14
ディーゼル油	441	4,4	37	452	2,4	37
液体ガス	157	0,0	13	165	4,9	13
飛行機用ケロシン	52	5,0	4	49	-6,5	4
その他	194	-4,6	16	207	7,1	17
計	1.196	1,7	100	1.233	3,1	100
燃料用アルコール						
無水	28	34,6	14	33	15,5	16
含水	177	1,3	86	167	-5,5	84
計	205	4,9	100	200	-2,6	100

出所：DNC

電力の総消費量は1992年中219GWhに達し、前年比2%の増加であった。電力消費の50%を占める工業部門は、その需要を1,2%増加したが、これは基本的に第1次アルミ加工、粗鋼、紙及びセルローズ部門の需要増加にもとづくものであった。地域別では、最も電力消費の大きいアルミ部門が所在する北部地方の電力需要がもっとも大きな増加率(6%)を示している。国内工業の63%が集中する南東地方では、前年比(-)0,4%の減少、南部、東北及び中西部地方はそれぞれ4,2%、3,8%及び(-)0,2%の増減を示した。

1992年中の国内発電能力は58GWで、91年末よりも988MWの増加、92年中操業に入った大型発電所としては、SALTO/SEGREDO/COPEL(630MW)及びTUCRUI/ETRONORTE(350MW)があげられる。

表 5 電力消費量

区 分	1990	1991	1992		
	1,000GWh	1,000GWh	1,000GWh	構成比 (%)	92/91 (%)
部門別：商 業	23	25	26	12	4,1
住 宅	48	51	52	24	2,0
工 業	104	107	109	50	1,2
その他	29	31	32	14	2,8
地域別：北 部	9	10	11	5	3,9
北東部	31	34	35	16	3,5
南東部	128	131	133	61	1,1
南 部	28	30	31	14	3,6
中西部	9	9	9	4	1,2
計	205	214	219	100	2,0

出所：ELETROBRAS

1・1・3 農牧生産状況

1992年の農牧生産高は、農耕部門において6,4%、牧畜部門が5,3%、平均して前年比6,0%の成長であった。穀類の収穫量は、68百万トンで前年を2,0%増加し、89年のように劣る大型のものであった。多くの要素がこの良好な成果に影響したが、中でもほとんど全国的に天候に恵まれたこと、適期に農業融資が実施されたことが特記される。92年の農業融資量は前年の規模が継続された。

1991年10月及び92年3月に政府が採用した農業部門に対する政策の中では、各地域別の最低保証価格を画一化したこと、90/91年と同様にその価格調整をTR（インフレ指数）基準としたことがあげられる。これらの結果、農業収益は満足すべきものとなり、国内の食糧供給は保証された。年間の農産物価格も大型収益により、良好な影響を受け安定した。他の政策として重要なのは、すべての作物について生産費融資を継続して販売融資に切り替える制度を設けたことで、生産者に適期の販売を可能とさせた。

主要作物についてみると、とうもろこしの生産は30,6百万トンで前年を2,9%上回る史上最大の規模に達した。栽培面積は前年をわずかに2,7%増えただけだったので、大巾な生産性の向上があったことが示されている。とうもろこしの国内消費量は26百万トンと推定されるため、多くの余剰を生じ、政府の在庫量がほぼ大きなものとなることが予想されたため、次期作付けを押さえる一つの手段として最低価格を(-)5%落すことを決定。この政策の反響で多くのとうもろこし作付けが大豆作りに切り換えられている。92年の大豆作は他の競合作物（とうもろこし、綿、及びフェイジョン）と比較して収益性が高く、作付の興味を呼んだ作物である。

92年度における大豆の収穫量は、19百万トンでこれ又、史上3番目の大型収穫であった。とうもろこしと合わせた生産量は、49,7百万トンに達し、穀類生産の73%を占めている。生産者が高度の栽培技術を採用したこと、生産地帯の各地で順調な降雨があったことが、二大要因となってその反収を前年比31%に引き上げ、大型生産（前年比28%増）をもたらしたものであった。収穫面積の方は、前年を(-)2,1%減少した9,43百万ヘクタールであった。国内の生産地帯の中で全国生産の増加にもっとも大きく寄与したのは、リオ・グランデ・ド・スール州（南部地方）及びマット・グロッソ州（中西部地方）であったが、この中セラード地帯のマット・グロッソ州は、数年間の中に最大の面積増加率を作っただけでなく、92年には全国最高の反収（2,5 t/ha）を達成している。

大豆の販売は過去2年間と比較して高い価格で取引され、年間の大半が国際価格を上回るものであった。このため高い大豆を原料として用いる製油工場のマージンが極意に低下した年でもあった。全般にEGF（政府の販売融資）の利用は少なく、民間よりの融資が多く利用されている。92年における大豆（豆）の輸出量は3,8百万トン、輸入量は550千トンであった。

フェイジョンの場合も大豆の収穫が行われており、81/82農年のみに劣る2,8百万トンの生産をあげ

た。前年と比較して栽培が(一)5,3%減少したにもかかわらず、生産量を2,0%増加させたのは、南部地方において、とくにその成果がみられた栽培技術の向上、良好な天候、十分な農業融資によるところが大きく、とうもろこしや大豆と類似した収穫状況であった。地域別の生産状況を見ると、南部地方が国内最大の生産(100万トン)をあげて、他地域における減産をカバーしたのに引きかえ、前年最高の成績を残した東北地方では、生産コスト増大を理由に面積を(一)5%減少したほか、4月以降の長期乾燥により、生産量を大中に(一20%)落し、南東及び中西部地方も天候不順により、生産量を減少したほか品質の低下をも招いた。このような地域別の問題はあったものの、約2,5百万トンと推定されるフェイスの国内供給には支障はなく、次期への繰越在庫も最近では最大の規模(800千トン)に達した。政府はとうもろこしの場合と同様に、これ以上の在庫を避けるため最低価格の(一)10%減少を決定し、次期作付けをセーブした。

米の生産状況は、国内最大の生産地帯である南部地方を除いて全国的に生産性の低下がみられたが、全国的に栽培面積が増加したことと天候が比較的順調であったことから前年比わずかながら生産の増加が記録されている。全国生産量10百万トンの中、リオ・グランデ・ド・スール州は4,6百万トンを占め、依然として最大の生産地帯を構成している。全国生産量は1987~89年の平均量に劣っているものの、政府在庫が大量にあり、輸入品によって不足分が補完されたことから供給上の問題はなかった。

小麦の生産は5年連続の減少を記録した。(91年の生産量2,9百万トンに対し92年は2,7百万トン)国内の主要生産地帯では栽培面積の減少、反収の低下が記録されている。このように小麦生産への関心が薄れているのは、生産融資が適期に行われていないこと、小麦生産に対する政府の方針が明確を欠いていること、前年の小麦価格が低く、かつ良品の輸入品との競合を余儀なくされたことなどがあげられる。植付時期の降雨過剰、出穂期の降雪等の天候不順、病害の発生などが92年の生産を落した要因であった。国内供給は輸入品と政府在庫によって補完されている。

92年度におけるコーヒーの生産は栽培面積の減少、反収の低下により2,6百万トンに止まり前年比(一)14,9%の減産であった。コーヒー部門はすでに長期にわたる問題、すなわち低迷する国際価格、消費国におけるストックの増加、生産資材コスト及び労働コストの上昇、政府による資金融資の不足等の問題を続けている。これらの問題点は多くの生産者にコーヒー栽培への興味を失わせており、その反響として栽培面積の減少、生産性の低下がみられている。1992年の場合は、コーヒー栽培の特徴として1年毎に生産量の増減を繰り返すことから、生産性の低い年に当たっていたことも生産を落した理由の1つであった。

国内の生産分布は南東地方が全国生産の78%を占めてもっとも大きく、この中に含まれるミナス・ジェライス州は1,1百万トンの生産量をもって国内最大の生産地となっている。国内市場では高品質品の価格上昇がみとめられた。このことは高品質のものに対する需要増加を示すもので、コーヒー部門の危機を脱却するための1つの出口とみられている。

砂糖キビの生産は栽培面積の減少に加え、収穫開始時点で天候不順のため収穫ができなかった地域が出るなどの問題があったが、以後天候は回復し、反収が64,4t/haを得たことから生産量は前年を3,6%上回る271百万トンに達した。この反収及び生産量とも過去最大の記録となっている。国内の生産地帯では最大の生産州サンパウロを含む南東地方が前年比生産を増加したのに反し、東北地方は栽培面積の減少に伴う生産の低下がみられた。

92年7月より開始されたオレンジの生産は、前年とほぼ同規模の面積で行われたが、天候が順調に推移したため、反収が向上しその生産量は前年を4,6%上回った。オレンジの場合も92年に達した生産量は過去最大の記録となっている。オレンジ部門にとって92/93農年は過去数年間にわたる高価格の時代より低価格の時代に移行する画期的な転換期となっており、栽培管理の合理化が求められた年であった。

1992年度における牧畜部門の生産高は5,3%で、前年の成長率を更に1,9%上回った。牧畜部門は各分野にわたりポジティブな結果を示した。

牧畜部門の主体となる牛肉の生産量は、1991年に達した2,9百万トンの記録とほぼ同水準の規模を保った。年間を通じて価格が高い水準にあったこと、端境期の天候がよく、牧草の枯渇をまぬがれたことや輸出の大きな増加(110%)が生産増加の要因となった。国内市場への供給は、購買力の低下から沈滞した需要を賄うに十分であった。

工場に出荷された牛乳の量は、前年とほぼ同等の95億リットルであった。

養豚部門は再び記録を更新する865千トンの生産を行い、前年を9,0%増加した。この生産増加は、とうもろこしの大量生産による飼料価格の低下に対し、牛肉価格に平行した豚肉価格の上昇、輸出の増加により、飼料/豚肉価格の関係が生産者に有利に展開したためであった。

養鶏部門も1990年下降続いている成長リズムを維持しており、1,8百万トンの鶏肉生産を行った。養鶏部門における良好な成果も養豚の場合と同様の理由にもとづくものであるが、輸出部門において日本市場を中心とした372千トンの販売が大きく貢献した。

表 6

過去5ヶ年間の農業生産状況 (面積)

1,000ha

作物別	1988	1989	1990	1991	1992
A) 穀類					
とうもろこし	13,169.0	12,931.8	11,390.7	13,109.8	13,389.0
米	5,959.1	5,250.1	3,944.9	4,127.3	4,687.0
小麦	3,467.6	3,281.4	2,680.9	1,994.8	1,975.0
フェイジョン	5,781.2	5,181.0	4,680.1	5,442.8	5,142.0
ソルガム	195.4	164.6	133.4	171.8	159.1
大麦	102.0	113.4	105.1	97.2	67.2
からす麦	127.8	203.8	188.9	263.4	284.0
ライ麦	2.3	3.9	4.4	5.2	6.7
小計	28,804.4	27,130.0	23,128.4	25,212.3	25,710.0
B) 油脂作物					
大豆	10,520.0	12,211.2	11,481.1	9,618.3	9,435.7
綿(草綿)	1,824.0	1,506.8	1,383.6	1,484.1	1,594.2
々(木綿)	734.4	618.6	511.8	345.0	924.7
落花生	99.9	85.5	82.8	88.2	99.5
ヒマ	278.9	269.1	286.3	232.8	174.8
小計	13,457.2	14,691.2	13,745.6	11,768.4	12,228.9
A+B	42,261.6	41,821.2	36,874.0	36,980.7	37,938.9
C) 工業原料作物					
砂糖キビ	4,117.4	4,075.8	4,270.1	4,210.9	4,201.3
マンジョカ	1,752.0	1,880.9	1,933.6	1,943.1	1,826.2
煙草葉	280.5	289.1	272.4	285.7	343.1
サイザル	270.2	270.2	249.2	300.3	264.2
マルバ	47.2	32.2	21.2	12.7	16.1
ジュート	13.5	7.1	3.0	2.8	2.6
ラミー	8.2	8.0	7.1	5.6	5.2
小計	6,489.0	6,563.3	6,756.6	6,761.1	6,658.7
D) 嗜好作物					
コーヒー	2,975.2	3,026.5	2,905.8	2,767.4	2,498.5
ココア	702.5	660.0	663.3	667.0	730.6
ピメント	23.9	29.2	33.2	36.8	29.0
ガラナ	12.4	11.2	9.7	6.1	5.7
小計	3,714.0	3,726.9	3,612.0	3,477.3	3,263.8
E) 果実類					
オレンジ(*)	805.7	882.6	910.5	980.8	986.5

バナナ (**)	466,0	483,2	487,4	490,3	515,6
パイナップル (*)	46,1	38,0	32,1	34,3	35,5
ブドウ	58,3	59,2	57,4	57,3	59,7
リンゴ (*)	22,4	20,9	22,3	25,6	25,4
ココ椰子 (*)	198,1	198,1	206,0	227,6	235,8
カシューナット	461,7	533,9	582,8	644,6	664,7
小計	2.058,3	2.215,9	2.298,5	2.460,5	2.523,2
F) 野菜類					
ジャがいも	173,7	156,8	157,8	161,0	172,4
トマト	62,8	64,5	60,5	60,6	51,8
玉ねぎ	69,4	73,8	74,4	75,7	75,2
にんにく	14,3	14,0	17,1	18,8	16,7
小計	320,2	309,1	309,8	316,1	316,1
合計	54.843,1	54.636,4	49.850,9	49.995,7	50.700,7

出所：IBGE * 1.000個 ** 1.000房

表 7

過去5ヶ年間の農業生産状況 (生産量)

1.000 t

作物別	1988	1989	1990	1991	1992
A) 穀類					
とうもろこし	24.748,0	26.572,6	21.341,2	23.939,0	30.556,6
米	11.809,5	11.044,5	7.418,5	9.495,9	9.961,9
小麦	5.738,0	5.552,8	3.093,5	2.921,3	2.796,0
フェイジョン	2.808,6	2.310,5	2.233,1	2.749,2	2.795,0
ソルガム	302,0	241,1	227,9	254,5	285,4
大麦	125,5	248,2	157,4	110,5	127,6
からす麦	139,4	240,3	174,2	228,4	295,3
ライ麦	2,3	4,0	4,3	6,3	7,0
小計	45.673,3	46.214,0	34.650,1	39.705,1	46.824,8
B) 油脂作物					
大豆	18.016,2	24.071,4	19.887,6	14.938,1	19.184,9
綿 (草綿)	2.437,8	1.813,4	1.774,5	2.073,8	1.862,9
々 (木綿)	99,3	47,1	38,2	38,5	22,3
落花生	167,0	151,1	137,2	138,9	170,6
ヒマ	147,9	128,6	147,7	129,2	101,8
小計	20.868,2	26.211,6	21.985,2	17.318,5	21.342,5
A+B	66.541,5	72.425,6	56.635,3	57.023,6	68.167,3
C) 工業原料作物					
砂糖キビ	258.412,9	252.642,6	262.604,6	260.838,8	271.431,9
マンジョカ	21.673,8	23.668,5	24.284,7	24.530,8	21.917,5
煙草葉	431,0	449,0	444,4	413,3	577,5
サイザル	185,4	220,9	185,1	233,7	204,2
マルバ	52,9	31,7	18,5	11,7	19,4
ジュート	16,1	8,3	3,6	3,3	3,3
ラミー	19,1	9,2	10,2	8,0	7,0
小計	280.791,2	277.030,2	287.551,1	286.039,6	294.160,8

D) 嗜好作物					
コーヒー	2,737,7	3,059,7	2,926,2	3,050,6	2,587,1
ココア	392,4	392,6	355,2	320,5	328,1
ピメント	59,4	65,5	74,7	83,7	32,8
グアラナ	1,9	1,4	1,5	2,0	2,2
小計	3,191,4	3,519,2	3,357,6	3,456,8	2,950,2
E) 果実類					
オレンジ(*)	75,565,2	89,016,2	87,531,5	94,512,3	98,285,7
バナナ(**)	511,8	550,5	550,2	522,6	561,5
パインアップル(*)	1,012,8	838,8	724,0	778,8	809,2
ブドウ	771,7	716,6	786,2	618,0	798,8
リンゴ(*)	2,196,6	2,386,9	2,717,6	2,634,5	2,997,0
ココ椰子(*)	699,9	681,0	709,3	849,2	878,6
カジューナット	133,4	144,0	107,7	186,0	96,7
小計	-	-	-	-	-
F) 野菜類					
ジャがいも	2,315,0	2,132,3	2,219,1	2,264,9	2,421,0
トマト	2,406,9	2,177,5	2,255,3	2,339,5	2,132,7
玉ねぎ	780,3	797,3	867,1	878,9	886,2
にんにく	57,5	62,0	71,1	85,5	78,1
小計	5,559,7	5,169,1	5,412,6	5,568,8	5,518,0
合計	-	-	-	-	-

出所：IBGE * 1,000個 ** 1,000房

表 8

過去5ヶ年間の農業生産状況 (反収)

Kg/ha

作物別	1988	1989	1990	1991	1992
A) 穀類					
とうもろこし	1,879	2,055	1,874	1,826	2,282
米	1,982	2,184	1,881	2,301	2,125
小麦	1,655	1,692	1,154	1,464	1,428
フェイジョン	486	446	477	505	543
ソルガム	1,545	1,465	1,708	1,481	1,794
大麦	1,231	2,188	1,498	1,137	1,900
からす麦	1,091	1,158	922	867	1,040
ライ麦	1,004	1,043	1,032	1,203	1,041
B) 油脂作物					
大豆	1,713	1,971	1,732	1,553	2,033
綿(草綿)	1,336	1,203	1,283	1,373	1,169
々(木綿)	135	76	75	112	79
落花生	1,672	1,767	1,658	1,575	1,714
ヒマ	530	478	516	555	582
C) 工業原料作物					
砂糖キビ	62,762	61,985	61,487	61,943	64,607
マンジョカ	12,371	12,584	12,559	12,624	12,002
煙草葉	1,537	1,531	1,632	1,446	1,683

サイザル	686	818	743	778	773
マルバ	1.121	984	873	917	1.205
ジュート	1.186	1.176	1.210	1.159	1.271
ラミー	2.335	1.145	1.426	1.439	1.331
D) 嗜好作物					
コーヒー	920	1.011	1.007	1.102	1.035
ココア	559	595	536	667	449
ピメンタ	2.490	2.241	2.249	2.277	1.132
グアラナ	156	122	155	333	386
E) 果実類					
オレンジ(*)	93.789	100.853	96.136	96.366	99.629
バナナ(**)	1.098	1.139	1.129	1.127	1.089
パイナップル(*)	21.980	22.072	22.561	22.684	22.780
ブドウ	13.230	12.110	13.699	10.785	13.388
リンゴ(*)	98.268	114.365	121.663	102.791	124.284
ココ椰子(*)	3.533	3.439	3.443	3.731	3.726
カジューナツ	289	270	185	288	146
F) 野菜類					
ジャガイモ	13.325	13.602	14.066	14.068	14.043
トマト	38.328	33.780	37.208	38.608	41.157
玉ねぎ	11.240	10.802	11.653	11.618	11.784
にんにく	4.031	4.444	4.145	4.554	4.678

出所: IBGE * 1.000個 ** 1.000房

1・2 投資状況

国内の投資率（PIBに対する固定資本形成額の割合）は1974～80年間に年間平均24%を記録していたが、1981～90年の10年間は18%に下降、90年代に入ってから、更に低下して1,5%に落ちている。この投資率の低下は、長期にわたったりセッションを反映したものであり、第2次大戦後、もっとも低い指数となっている。このことはブラジル工業界の設備機械の老朽化を示す指数でもある。

70年代末にPIBの5,0%を占めていた公共部門の投資は1,5%へと落ちた。中でも国営鉱山会社バーレ・ド・リオ・ドーセ社の(-)7,0%、連邦鉄道の(-)18%が大きく、石油公団(PETROBRAS)、電信公社(TELEBRAS)が数少ない成長部門として3,0%及び10%を記録している。

国内投資に大きな役割を果たすBNDES（経済社会開発銀行）の投資額は、合計CR15兆で48%が工業部門、34%がサービス部門、15%が農牧部門に向けられている。

表 9 ブラジルの固定資本形成率 (%)

年 度	部 門 別 投 資 比 率			PIBに対する割合 1980年価格
	土木建築	機械器具	そ の 他	
1980	60,5	35,6	3,9	22,8
81	63,1	33,5	3,4	20,9
82	65,9	31,5	2,6	19,4
83	66,6	30,3	3,1	16,8
84	67,6	31,0	1,4	16,2
85	68,0	29,7	2,3	16,3
86	70,5	26,1	3,4	18,7

87	71,8	25,6	2,6	17,8
88	67,1	30,3	2,6	17,0
89	71,2	26,2	2,6	16,6
90	66,4	30,5	3,1	16,0
91	69,9	26,4	3,7	15,2
92	* 14,8

出所：IPEA *予備推定値

1・3 雇用水準

1992年度における労働市場は、工業生産活動の後退に大きな影響を受け、その結果として失業率を増大した。工業界ではリセッション経済の中で経営の合理化を余儀なくされ、品質の向上と経費の節減を図ったが、これが雇用水準に影響を与えることとなった。

FIESP（サンパウロ州工業連盟）の調査結果によると、サンパウロ州内の工業界では92年中に160千人が解雇されたが、これは雇用率の（-）9,3%の減少を意味するものであった。又このデータは、過去10年間の中で1990年の225千人に次ぐ大量解雇の年となっている。

工業部門における雇用率の低下は、同様な状況にあった他の部門と合わせ必然的にインフォーマル経済での人口を増やすこととなった。IBGEのデータによると経済人口の中22%がインフォーマル経済下にあるとされているが、1989年頃この比率が19%であったのと比較して、経済危機の延長によりこの3年間に特に増大したあとが観察される。

部門別の失業率をみると製造工業部門が91年の6,4%より92年は7,5%、一般労働力をもっとも大量に雇用する土木建築部門が5,5%より6,9%、商業部門も国内需要の減退に応じてその失業率を6,2%に高めている。

1・4 物価及び賃金

92年の物価上昇率は、IBGE（ブラジル地理統計院）のINPC（全国消費者物価指数）によると1,149%、FGV（ゼツリオ、ヴァルグアス経済研究所）のIGP（総物価指数）によると1,158%であった。月間インフレ率はINPCの場合、4月の20,84%を最低、10月の26,07%を最高としている。又、IGPの場合は4月の18,54%を最低の指数、9月の27,37%が最高の指数であった。

次表にみられるように92年の物価は、年頭の月間26%より第1四半期末には20%へと落ちたが、これは農産物の収穫が良好であったため、公共料金主に電力、ディーゼル油、ガスなどの料金改訂によってひきおこされたインフレを緩和したものであった。

9月から10月にかけて物価の上昇がみられたのは、農産物の端境期に入ったこと、コーロラ大統領のインビテメントをめぐって政情が極度に不安定であったことなどによっているが、年末に向ってやや後退したのは、公共料金の改訂が次年度に繰越されたこと、財政収支の赤字に対する悲観的予想が確認されなかったこと、通貨引締めが続行されたことなどによっている。

サンパウロ大学経済調査院が行った調査結果もほぼ同様の状況を示し、上半期に物価の上昇が減速したのは主に食糧品価格の上昇率が低かったこと、又下半期の上昇は端境期と衣料、家賃等季節的な値上りがあったためと指摘している。

国内の大都市圏における生活費の上昇率は、ブラジリア市においてもっとも高く（1,412%）、ポルト・アレグレ市がもっとも低い指数（1,021%）であった。サンパウロ市は1,128%の上昇率となっている。公共料金は電力（14%）、通信（9,2%）、ディーゼル油（2,3%）、燃料油（2,9%）が実質的に値上げされた反面、ガソリン（-5,0%）、含水アルコール（-6,7%）、郵便電信（-4,1%）は実質価格は下っている。

表 10

INPC (全国消費者物価指数)

月 例	90年12月=100の指数	月当り上昇率 (%)	年度内上昇率 (%)	過去12ヶ月間上昇率 (%)
92年1月	724,17	25,92	25,92	498,74
2	901,45	24,48	56,75	520,96
3	1,096,34	21,62	90,63	574,59
4	1,324,82	20,84	130,36	670,29
5	1,649,40	24,50	186,80	805,97
6	1,993,30	20,85	246,60	887,86
7	2,433,42	22,08	323,13	975,40
8	2,978,02	22,38	417,83	1,038,30
9	3,692,69	23,98	542,00	1,120,59
10	4,654,69	26,07	709,37	1,170,91
11	5,720,15	22,89	894,64	1,134,84
12	7,183,36	25,58	1,149,06	1,149,06

出所：IBGE

表 11

IGP (総物価指数)

月 例	89年12月=100の指数	月当り上昇率 (%)	年度内上昇率 (%)	過去12ヶ月間上昇率 (%)
92年1月	11,602,00	26,84	26,84	513,59
2	14,478,60	24,79	38,29	532,27
3	17,475,82	20,70	91,06	611,59
4	20,716,27	18,54	126,48	675,75
5	25,366,26	22,45	177,32	791,69
6	30,798,76	21,42	236,71	885,47
7	37,479,64	21,69	309,75	962,84
8	47,052,20	25,54	414,41	1,055,40
9	59,932,61	27,37	555,23	1,166,57
10	74,878,69	24,94	718,63	1,157,43
11	93,017,87	24,22	916,94	1,142,05
12	115,062,71	23,70	1,157,95	1,157,95

出所：FGV

1・5 対外部門

1・5・1 概況

1992年はリセッション下にあった国内市場に代って、海外市場が重要な役割を持ったが、国際市場も又低位の経済成長に止まっており、輸出商品の価格条件は良好ではなかった。このような情勢下において先進国に対するブラジルの輸出は後退し、輸出総額に占めた先進国の比率は、1991年の63%より92年は59%へと落ち、92年の輸出増加額45億ドルの中、先進国は12億ドルにすぎない状況にあった。このような環境からこれと代る市場が求められた結果、ALADI (ラテンアメリカ自由貿易圏) に対する輸出が前年度を64%増加する28億ドルに達したが、その中で隣国のアルゼンチンに対する輸出は108%の大巾な増加を示し、国単位では米国に次ぐブラジル輸出第2の市場となった。

外債に対する支払利息は国際金利の低下によって負担が可成り緩和された反面、ブラジルの受取勘定にはネガティブな影響があった。又、新期の借入れに対しては、浮動金利を大きく上回る固定金利による契約が行われた。

低い国際金利に対してブラジル国内の実質金利が高い水準を保ったことと、有利な為替レートが投資面にし

ろ、融資面にしろ、上半期中、外国資本を引きつける決定的な要素となったが、下半期に入ると大統領の弾劾を中心とした不安定な政情の中で外国資本の流入は後退した。しかし、年末の外貨保有高は238億ドルの高い水準を保った。

1992年中に設定された輸出振興策としては、輸出金融プログラム（PROEX）の設定と各種の税務恩典があげられる。国内輸出振興地区（ZPE）に対しては特権賦与の期間を従来の12年より20年に拡大し、更にこれを更新し得る方法が採用されている。税務恩典としては次のものがあげられる。

- 特別関税制度による輸出への恩典供与
- 輸出製品の原材料として用いられる資材にかかわるIPI（工業製品税）のクレジット恩典
- 国内市場で調達され輸出される国産品にかかわるIPIのクレジット恩典
- 特例の場合IPI、所得税、金融操作税の免除
- ブラジルが署名した国際協定にもとづく輸入関税の免除又は軽減

これらの恩典の効果については、1994年に国会の特別委員会において評価されることとなっている。

以上のほか短期、又は長期を目的とする外国貿易の活性化プログラムが設定された。その中の1つとして輸入業者が償還期限に支払う利息を船積日におけるLIBORをベースとすること、PROEX（輸出金融プログラム）の融資期間は、取引額によって行われることとし、単に製品別とした方法に改めること。PROEXの融資対象となる製品の種類を増加することなども決められている。

輸入に関しては関税の引下げを予定よりも早め、これまでの1年置きを9ヶ月間に改めている。これにより92年10月1日以降ブラジルの平均関税は16, 8%（1990年は31, 2%）となっており、次回の93年7月1日には最高関税を35%とし、平均関税を14, 2%に落す予定である。又、1995年1月1日をもってメルコスール圏内における関税の全廃、共通対外関税の設定が予定されている。

これらの措置と平行して政府は、国内供給を正常化し、国産品の競争力強化に役立ち、品質の向上を図る目的をもつ製品に対し、輸入関税を全廃することを決定した。一方、輸出入製品の国産原料にかかわるIPI（工業製品税）の支払猶予が承認されている。draw-back制度として知られているこの貿易方式は原料、中間財、包装資材等に適用されており、その影響範囲は大きい。

貿易事務機構の改革面では、外国貿易総合システム（SISCOMEX）が設定され、輸出入手続きの簡素化が行われている。

なお、1992年には米国政府がブラジル製鉄鋼製品の一部をダンピングとして課税金を課税する決定を行ったため、米国を最大の市場とする鉄鋼薄板部門に大きな影響があった。

為替政策面では、1992年も前年に引き続き自由レートと観光レートの二つのレートが継続された。年間を通じて大巾な原価の切下げは行われていない。

表 12 1992年の為替レート（各月末レート）

月 別	自由レート 買い	自由レート 売り	平行レート 売り	平行レート/自由レート
91年12月	1.069	1.069	1.105	3 (%)
92年 1月	1.319	1.319	1.265	4
2	1.631	1.631	1.605	2
3	1.988	1.988	1.985	0
4	2.396	2.396	2.570	7
5	2.849	2.849	2.950	4
6	3.447	3.447	3.670	6
7	4.205	4.205	4.550	8
8	5.130	5.131	5.570	9
9	6.398	6.400	7.180	12
10	8.034	8.034	8.400	5
11	9.950	9.950	10.850	9

12	12.387	12.387	14.000	13
----	--------	--------	--------	----

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

1・5・2 対外収支

項 目	1991	1992
1. 経常収支		
貿易収支 (FOB)		
輸出	31.620	36.103
輸入	21.041	20.578
収支残	10.579	15.525
サービス収支		
利息	(-) 8.621	(-) 7.323
その他	(-) 4.556	(-) 3.808
収支残	(-) 13.177	(-) 11.131
移転収支	1.556	2.056
経常収支残	(-) 1.042	6.450
2. 資本収支		
外国よりの直接投資 (残高)	170	2.836
融 資		
外国融資		
新期融資	2.125	1.594
再融資	-	11.583
小 計	2.125	13.177
ブラジルの対外融資	(-) 99	119
融資計	2.026	13.296
元本償還		
支払額	(-) 7.830	(-) 7.147
再融資	-	(-) 1.425
小 計	(-) 7.830	(-) 8.572
通貨貸付		
短 期	(-) 3.033	2.163
長 期	3.997	14.975
残 高	964	17.138
その他の資本勘定	157	4
資本収支残	(-) 4.513	24.702
3. 誤謬脱落	876	(-) 1.124
対外収支残	(-) 4.679	30.028

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

1992年度におけるブラジルの対外収支勘定は、46.8億ドルの赤字残高を計上した前年よりも好転し、300億ドルの黒字残高を残した。この中経常収支は91年の10億ドルの赤字残に対して60億ドルの黒字を残している。経常収支の中、貿易収支では155億ドルの黒字が計上されており、これが経常収支の大巾な黒字を決定的なものとしている。この他、資本収支面でも247億ドルの資金が流入しており、年度末の外資保

有高を238億ドルに引き上げるようになった。

イ) 貿易収支

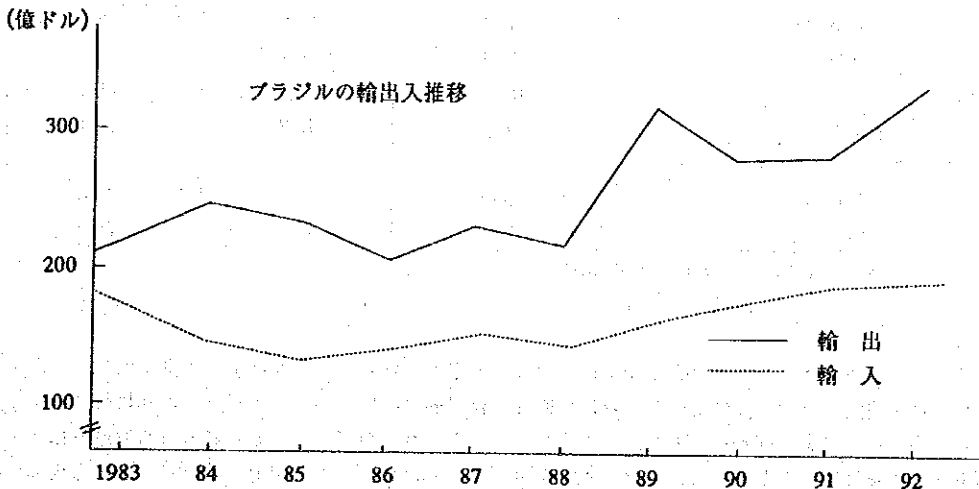
1992年にブラジルが行った輸出入の総額は570億ドルで史上最高の記録となっている。これは基本的に輸出における14、2%増にもとづくものであり、中でも工業製品の輸出増加が顕著であり、輸出先市場の中では、アルゼンチンの輸入増大が特筆される。この貿易総額はPIB（国内総生産高）の13、6%に相当するが、ラテン・アメリカの平均とされる15%には達していない。92年の輸出額はPIBの8、6%に相当し、91年に記録された7、7%を上廻ったが、世界貿易の中で、ブラジルが占めるシェア（0、8%）は過去3年間その位置を変えていない。

輸入は91年と比較して（-）2、2%減少した。輸入関税の引下げ、非関税障壁の撤廃も、国内需要の減退によってその効果を相殺されたあとがある。国際石油価格の下落も又、外国よりの購入金額を減少した理由の1つとして加った。

表 1.4 ブラジルの貿易収支 100万ドル

年 度	輸 出 FOB	輸 入 FOB	収 支 残 高
1983	21.899	15.429	6.470
84	27.005	13.916	13.089
85	25.639	13.153	12.486
86	22.393	14.044	8.349
87	26.224	15.052	11.172
88	23.789	14.605	19.184
89	34.383	18.263	16.120
90	31.414	20.661	10.753
91	31.620	21.041	10.579
92	36.103	20.578	15.525

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL



中央銀行が算出した外国貿易の価格及び重量指数によると、92年に記録された輸出額の増加は輸出量の増加にもとづくもので、価格は前年よりも低く世界的リセッションのあとが観察される。同様の理由により輸入も又、価格の低下、重量の増加が見られた。

表 15 外国貿易：価格及び重量指数 (1997年= 100の指数)

年 度	輸 出		輸 入 (全体)		輸 入 (石油)	
	価 格	重 量	価 格	重 量	価 格	重 量
1977	100	100	100	100	100	100
80	107	152	164	115	226	107
85	86	248	149	72	222	66
89	100	279	153	97	128	72
90	99	257	159	105	170	70
91	95	266	147	115	147	62
92	89	326	121	138	131	65

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

ロ) 輸 出

第1次産品の輸出は前年に比して1, 4%の増加であったが、伝統的商品であるコーヒー、ココア、鉄鉱石などは世界の需要減退を反映して輸出額を減少している。

(コーヒー)

コーヒーについては国内生産の減少により、その輸出量は前年(91年)の19, 5百万俵より92年は17, 5百万俵に落ち、輸出金額は更に国際価格の低下を伴って13, 8億ドルより9, 7億ドルへと減少した。国際価格の低迷は89年に国際コーヒー協定の中、価格の調整を図る経済条項の実施が中止されて以来、継続しており回復していない。1976年以降年間18億ドルから28億ドルの輸出を行ってきた実績と比較すると大巾な減少である。年間を通じて低迷した価格の中でも9月10日に記録されたポンド当たり52セントの価格は、過去20年間でもっとも低い価格水準となっている。年末はやや回復して84セントであった。

表 16 コーヒー：世界とブラジルの生産、消費及び輸出量 1,000俵 (60Kg入)

内 訳	1990	1991	1992
ブラジルの生産量	31,0	28,5	24,0
国内消費量	10,0	11,0	9,0
輸出量	20,0	19,5	17,5
世界の生産量	101,4	100,5	95,9
輸出量	77,7	78,7	76,4
世界に対するブラジルのシェア			
生産量 (%)	30,6	28,4	25,0
輸出量 (%)	25,7	24,8	22,9

出所：SECEX COMPLETE COFFEE COVERAGE

(砂糖)

1992年の砂糖輸出は、541百万ドルで前年比大巾の増加であった。これは主に中央、南部地方、中でもサンパウロ州が輸出分野での実績を伸ばしたためである。世界的に生産は増加しており、これに伴う輸出余剰が増加したため国際価格を下げることとなった。すなわち91/92農年における世界の砂糖生産量は116, 3百万トン、消費量は111, 9百万トンで4, 4百万トンの余剰を生じており、前年に引き続き世界の在庫を増加させている。

表 17

砂糖：世界とブラジルの生産消費、輸出量

100万トン

年 度	生 産 量		消 費 量		輸 出 量	
	ブラジル	世 界	ブラジル	世 界	ブラジル	世 界
1982	8,9	100,9	6,1	91,9	2,7	32,1
83	9,2	100,6	6,0	93,6	2,5	29,9
84	10,2	98,0	6,0	96,0	3,1	30,0
85	8,7	100,4	6,0	98,2	2,5	30,0
86	7,4	98,7	6,4	100,5	2,4	29,2
87	9,3	104,1	7,1	106,0	2,2	29,1
88	8,9	104,7	6,6	107,0	1,8	28,5
89	7,4	104,4	6,8	106,3	1,1	30,0
90	7,9	109,2	7,3	108,4	1,5	30,0
91	8,9	115,2	6,8	110,9	1,5	30,8
92	9,4	116,3	7,1	111,9	2,1	30,5

出所：SECEN, F.O.LIGHTS

(大豆及び副産物)

大豆及び副産物の輸出は、昨年に引き続き農産物輸出のトップを占め、前年を33%上回る27億ドルを売上げた。ECや米国が補助つき輸出を行ったにもかかわらずこの成果を得たのは、ブラジル製品の競争力を物語っている。

表 18

大豆：世界とブラジルの生産、消費及び輸出

1,000 t

内 訳	1990	1991	1992
世界の生産量 (A)	107,2	104,1	107,3
ブラジルの生産量 (B)	20,4	15,8	19,2
B/A (%)	19,1	15,1	17,9
ブラジルの推定消費量			
大豆	16,8	14,1	16,2
大豆粕	3,1	3,1	3,2
大豆油	2,1	2,0	2,1
ブラジルの輸出	13,6	10,0	13,0
大豆	4,1	2,0	3,7
大豆粕	8,7	7,5	8,5
大豆油	0,8	0,5	0,7

出所：SECEX, ABIOVE, USDA

国内生産の増加を反映して大豆の供給量は22%、輸出量は85%、工業原料としての加工量は12%、それぞれ前年の実績を上回っている。大豆粕は世界需要が増加したのに対し、中国、インド、アジア及びヨーロッパの一部の国における輸出の減少により価格の反発があった。又、国内市場では、大豆及び副産物の増加はdrow-back制度による大豆の輸入をも増加させた。

(ココア及び副産物)

ココア及び副産物の輸出は前年比(-)6,4%の減少であった。国際価格は低く、年間を通じてトン当りUS\$800~1,100のレベルにあり、生産者収益を極度に圧迫するものであった。

表 19

ココア：世界とブラジルの生産及び輸出

1,000 t

内 訳	1989	1990	1991	1992
世界の生産量 (A)	2,470	2,407	2,541	2,267
ブラジルの生産量 (B)	333	352	373	291
B/A (%)	13.5	14.6	14.7	12.8
ブラジルの輸出量				
ココア (豆)	107	118	84	84
コアバター	34	47	44	46
ココアリコール	43	27	25	23
練りココア	34	51	42	34
その他	45	31	40	197

出所：SECEX, GILL & DUFFS

(その他の主要輸出品目)

1992年における鉄鉱石の輸出は、世界的なりセッションを反映して前年の実績を(一)8.3%下廻り、これまで続いてきた成長リズムを中断した。ブラジルの伝統的な顧客である日本及びヨーロッパ諸国の輸入が前面的に減少したためである。

牛肉の輸出は好調で前年を60%増加したが、中でもドイツ向け生肉の輸出は、倍以上の増加を示しており、このためドイツはブラジル産牛肉の最大の市場となった。

プロイラー輸出も増加して史上最大を記録し、5ヶ年間連続した記録を更新した。国際間の競争激化や一部の輸出国における保護主義にかかわらず重量において20%、金額で17%の増加を記録している。

豚肉も同様で大巾な輸出の増加があった。外国市場の中では隣国のアルゼンチンがブラジル輸出の50%を吸収し、伝統的な最大の市場香港をしのいだ。これはアルゼンチンにおける為替レートや生産コストの上昇がブラジル製品に大きな競争力を与えたためである。

1992年の輸出の中で特筆されるのは、工業製品輸出の大巾な伸びである。その輸出額267.8億ドルは前年の比19%の増加であった。工業製品の中、製造加工品の輸出は22%の増加で、ここでもアルゼンチン向け輸出、とくに輸送機器の輸出が急速な伸びを示した。自動車の輸出台数は320千台であったが、これは91年を60%上回るものであった。

毎年大型の輸出項目に数えられている靴の輸出も前年を18%上廻り、記録を更新した。中でも最大の米国市場では、安価なアメリカ製品との競争という問題があったものの依然として重要な位置を保っている。

重要な輸出農産物である濃縮オレンジ・ジュースの輸出は重量において969千トン、金額で10.5億ドルを売上げ前年を17%上廻った。重量面では前年比6%の増加に止まったが、国際価格の上昇により収入を増やしたものである。92年4月には日本が輸入制限を解除し、自由化に踏み切ったのがブラジル輸出増加の一因となっており、今後の日本市場拡大は業界にとって重要な課題とされている。

工業部門の中半製品の輸出は前年比11%の増加、中でも木材パルプの前年比28%増が大きかった。重要な項目であるアルミ粗金や鉄鋼半製品の輸出額は前年と同様の水準であった。

表 20

品目別輸出実績 1991年、92年対比

品 目	重 量 1,000 t		金 額 100万ドル		輸出総額に 占め比率(%)
	1991	1992	1991	1992	
I 第1次産品					
鉄 鋼 石	113,623	105,011	2,600	2,385	6.6
大 豆 粕	7,489	8,501	1,369	1,595	4.4
コ ー ヒ ー	1,095	1,019	1,382	970	2.7
大 豆 (豆)	2,020	3,740	448	812	2.2

煙草葉	190	241	681	804	2,2
プロイラー	316	378	389	456	1,3
牛 肉	63	97	178	285	0,8
砂糖 (粗糖)	803	681	209	168	0,5
ガジュ・ナット	24	42	111	149	0,4
金属鉱石 (その他)	5.824	4.362	161	113	0,3
かんきつ粕	914	1.052	91	105	0,3
豚 肉	15	41	28	72	0,2
ココア (豆)	84	84	88	84	0,2
伊勢エビ	10	14	71	59	0,2
エ ビ	7	15	47	57	0,2
マンガン鉱石	854	477	86	38	0,1
綿	124	34	149	30	0,1
ピメンタ・ド・レイノ	48	26	50	23	0,1
貴石類	5	3	49	29	0,1
石 綿	68	67	24	26	0,1
ブラジル・ナット	14	17	18	20	0,1
カオリン	342	334	37	33	0,1
マ テ 茶	16	21	27	30	0,1
マグネシウム	40	117	9	20	0,1
冷 凍 魚	25	28	28	33	0,1
植物油 粕	335	648	39	53	0,1
バ ナ ナ	91	92	18	17	0,0
花 崗 岩	308	139	37	17	0,0
オレンジ	110	82	22	18	0,0
サイザル	45	30	18	9	0,0
そ の 他	573	765	273	347	0,9
小 計	135.475	128.158	8.737	8.857	24,5
II 工業製品					
A) 半加工品					
アルミ粗金	721	781	985	968	2,7
鉄鋼半製品	4.323	4.565	952	956	2,6
木材パルプ	1.357	1.619	578	740	2,0
皮 革	74	97	308	390	1,1
合 金	429	474	369	384	1,1
銑 鉄	2.497	2.454	303	287	0,8
大 豆 油	507	689	209	265	0,7
鋼 製 品	61	80	143	178	0,5
木 材	300	407	139	162	0,4
結 晶 糖	175	657	47	162	0,4
錫 鉱 石	18	19	100	119	0,3
ココア・バター	44	46	127	119	0,3
亜 鉛	49	281	55	94	0,3
鉛	13	13	31	29	0,1
タンニン	27	31	20	23	0,1

ココア・リコール	25	23	38	34	0,1
羊毛	8	8	26	32	0,1
その他	352	503	261	260	0,8
小計	10.980	12.747	4.691	5.202	14,4
B) 完成品					
輸送機器	357	694	2.217	3.455	9,6
(自動車部品)	(157)	(286)	(566)	(795)	(2,2)
(トラック)	(71)	(101)	(412)	(608)	(1,7)
(航空機)	(0)	(1)	(291)	(307)	(0,9)
(CKD)	(25)	(24)	(125)	(129)	(0,4)
(船舶)	(0)	(45)	(175)	(195)	(0,5)
(乗用車)	(32)	(74)	(204)	(515)	(1,4)
(トラクター)	(14)	(30)	(62)	(102)	(0,3)
(鉄道機器)	(19)	(28)	(38)	(61)	(0,2)
(その他)	(39)	(105)	(344)	(743)	(2,1)
機械器具	482	872	2.597	2.843	7,8
(内燃機関)	(154)	(394)	(811)	(759)	(2,1)
(コンプレッサー他)	(71)	(77)	(238)	(262)	(0,7)
(土木機械)	(32)	(42)	(170)	(237)	(0,6)
(情報機器)	(1)	(2)	(171)	(196)	(0,5)
(工作機器)	(15)	(24)	(104)	(116)	(0,3)
(ミシン及び部品)	(19)	(19)	(95)	(90)	(0,2)
(事務用機械)	(3)	(8)	(27)	(25)	(0,1)
(製紙用機械)	(7)	(5)	(74)	(49)	(0,1)
(その他)	(180)	(301)	(907)	(1.109)	(3,1)
鉄鋼製品	6.591	7.309	2.648	2.758	7,6
靴及び部品	65	92	1.245	1.473	4,1
電気機器	112	162	1.015	1.181	3,3
濃縮 ホソヅ・ジュース	914	969	900	1.053	2,9
有機化学製品	732	1.203	948	769	2,1
紙及び製品	1.079	1.235	657	723	2,0
プラスチック製品	531	831	531	601	1,7
ゴム製品	147	203	360	471	1,3
加工牛肉	85	127	219	333	0,9
ガソリン	1.140	1.564	235	318	0,9
無機化学製品	449	501	226	226	0,6
シーツ・テーブル掛他	18	26	185	209	0,6
メリヤス布地	12	22	164	207	0,6
綿布地	39	62	156	215	0,6
既製服	12	37	176	222	0,6
砂糖(精製糖)	506	810	142	211	0,6
煙草	26	57	133	165	0,5
工具・金物	20	25	145	172	0,5
石油燃料油	1.702	1.853	156	190	0,5
陶器製品	231	330	140	174	0,5

アルミ加工品	49	322	114	143	0,4
イタリヤ・コーヒー	32	51	97	142	0,4
綿糸	45	46	141	133	0,4
合成繊維	27	37	93	132	0,4
合板	186	264	110	151	0,4
家具	30	74	61	131	0,4
紙、原紙	8	14	76	105	0,3
ガラス及び製品	70	157	73	96	0,3
サイザル・ロープ	75	67	67	58	0,2
絹糸	2	2	69	77	0,2
殺菌剤、除草剤	9	10	52	56	0,2
医療器具	3	4	72	79	0,2
菓子類	35	46	46	62	0,2
その他	2.380	3.106	1.491	2.242	6,0
小計	18.201	23.184	17.757	21.576	59,8
合計	165.974	165.468	31.620	36.103	100,0

出所：SECEX

ハ) 輸入

91/91年にかけてすすめられた外国貿易の自由化政策もこの期間を支配した不安定な経済情勢によりその効果が妨げられ、関税の引下げや量的制限の撤廃が行われたにもかかわらず輸入は増加していない。すなわち、輸送機器を除き、工業部門の近代化に必要な資本財の実質的な輸入増加はなかった。

1992年の輸入は前年比(-)2,2%の205,8億ドルであったが、輸入項目別の動きには変化があり、消費財と原材料の割合が減少し、資本財と燃料油脂輸入の割合が増加している。1992年中の原油輸入は30,3億ドルで前年を(-)10%減少し、輸入総額に占める割合を前年の16%より14,7%へ落している。これに対し石油副産物の輸入は重量で60%、金額で55%の増加があった。

表 21 石油及び副産物の生産、輸出入及び消費量

内 訳	1989	1990	1991	1992
石 油				
国内生産量(1,000バレル/1日)	616	653	646	652
輸 入 量 ()	592	571	526	495
輸入金額 (100万ドル)	3,390	4,354	3,370	3,030
1バレル当りの価格 US\$	15,7	20,9	17,6	16,7
石油副産物				
輸 入 量 (1,000バレル/1日)	80	70	103	157
輸入金額 (100万ドル)	364	380	691	1,068
輸 出 量 (1,000バレル/1日)	12,5	14,9	18,4	18,6
輸出金額 (100万ドル)	129	92	73	87
1バレル当りの価格 US\$	17,7	20,0	15,5	19,5
生産量/推定消費量比率 (%)	53,1	54,3	53,7	53,6
石油及び副産物輸入合計 100万ドル	3,754	4,734	4,061	4,098
輸入総額に対する割合 (%)	20,6	22,9	19,3	19,9
輸出総額に対する割合 (%)	10,9	15,1	12,8	11,4

出所：PETROBRAS

1992年は農業生産の増大により食糧品輸入を大巾に減少した。ただし小麦の輸入は重量において前年を(一)7%減少したものの、輸入単価の値上りによりその輸入金額は、前年を18%上廻る537百万ドルであった。アルゼンチンが依然として最大の輸入先市場である。

表 2 2 小麦の生産、消費及び輸入

内 訳	1989	1990	1991	1992
消費量 (1,000 t)				
ブラジル (A)	6.787	5.266	7.750	7.078
世 界	534.670	572.140	557.670	560.300
生産量 (1,000 t)				
ブラジル	5.479	3.304	3.078	2.739
世 界	536.840	593.290	547.400	542.930
B/A (%)	80.7	62.7	39.7	38.7
ブラジルの輸入量 (1,000 t)	1.308	1.962	4.672	4.339
〃 輸入金額 (100万ドル)	211	295	455	537
〃 輸入単価 (US\$/t)	161	150	97	124

出所：CIEF, SNAB, USDA.

表 2 3 輸入実績 1991、1992年対比

品 目	重 量 1,000 t		金 額 100万ドル		1992年の構成 比率 (%)
	1991	1992	1991	1992	
I 消費財					
1) 食品					
畜産物	409	261	570	361	1.8
野菜・苗類	248	286	149	115	0.6
果実類	220	142	165	117	0.6
マテ茶 他	6	8	9	13	0.1
加工食品、飲料、煙草	744	407	383	253	1.2
小 計	1,627	1,104	1,276	859	4.3
2) 衣料品					
皮革及び加工品	20	18	199	171	0.8
衣料、装飾品	2	1	57	32	0.2
靴、帽子等	3	2	45	23	0.1
その他	10	7	58	54	0.3
小 計	35	28	359	280	1.4
3) その他					
真珠、貴石、半貴石	1	0	48	49	0.2
工具、金物	6	4	113	94	0.5
金属加工品	3	4	22	22	0.1
眼鏡、計量器他	10	18	898	881	4.3
火薬、弾薬	0	0	5	2	0.0
その他	6	13	72	43	0.2
小 計	26	39	1,158	1,091	5.3
消費財計	1,688	1,171	2,793	2,230	11.0
II 原材料					
1) 小麦他製粉材料	7,273	6,329	1,080	909	4.4

2) 肥料	3,494	3,824	376	456	2,2
3) 化学製品					
無機化学製品	1,765	1,796	423	395	1,9
有機化学製品	941	981	1,429	1,364	6,6
タンニン材	38	52	159	178	0,9
写真、映画資材	7	8	127	136	0,7
化学工業製品	72	81	212	242	1,2
その他	59	185	482	420	2,0
小計	2,882	3,103	2,832	2,735	13,3
4) パルプ、セルローズ	481	347	445	339	1,6
5) プラスチック、ゴム	352	366	741	734	3,5
6) 鋳鉄及び鋼鉄	286	414	342	438	2,1
7) 非鉄、金属	163	175	432	389	1,9
8) 塩、硫黄他	1,470	1,847	137	105	0,5
9) その他	1,976	2,037	1,049	1,061	5,2
原材料計	18,377	18,442	7,434	7,166	34,7
Ⅲ 燃料油脂					
1) 石油及び副産物					
原油	25,293	26,268	3,370	3,030	14,7
副産物	4,323	6,909	691	1,068	5,2
小計	29,616	33,177	4,061	4,098	19,9
2) その他	13,298	13,771	787	826	4,0
燃料、油脂計	42,914	46,948	4,848	4,924	23,9
Ⅳ 資本財					
1) 輸送機器	84	104	995	1,268	6,2
2) 機械類	215	349	4,971	4,990	24,2
資本財計	299	453	5,966	6,258	30,4
合計	63,278	67,014	21,041	20,578	100,0

出所：C I E F

二) 貿易相手国

1992年はリセッション下で工業先進国が需要を落したため、これを補填する新市場が求められ、ALADI (ラテン・アメリカ自由貿易圏) への輸出が大巾に増加した。ALADI に対するブラジルの輸出額は前年比64%増、貿易総額では39%の増加となっている。

中でも特筆されるのは対アルゼンチン輸出の増加で、ドイツ、日本などの伝統的市場をしのぎ、米国に次ぐ第2の輸出先市場となっており、輸出総額の8,5%を占めた。同国向けの輸出は前年比108%の増加を記録しているが、中でも自動車の輸出が顕著な伸びを示しており、輸出増加の大きな要因となっている。メルコスールの開設に向う市場解放プロセスの影響とみることが出来る。このように対アルゼンチン貿易はブラジル側の大巾な出超であったが、年末の数ヶ月間ブラジル側のアルゼンチンよりの輸入も増加しており、貿易収支の均衡を図ったあとが視察される。

ラテン・アメリカ諸国にみられた市場解放政策は、経済活動の回復と合わせ、これら諸国の輸入を増加させたが、それはそのままブラジルの輸出増加につながるものであった。

ALADI 諸国との間にみられた現象とは逆に、日本やカナダ等ブラジルの伝統的輸出先市場には輸入の減少があった。

表 24

ブラジルの貿易相手国と実績

100万ドル

ブロック 及び 国別	輸 出		輸 入		収 支 残 高	
	1991	1992	1991	1992	1991	1992
米 国	6.361	7.120	4.974	4.949	1.387	2.171
E C						
ド イ ツ	2.158	2.078	1.902	1.893	256	185
オランダ	2.147	2.347	349	356	1.798	1.991
イタリー	1.353	1.626	792	823	561	803
英 国	1.057	1.294	456	404	601	890
フランス	864	849	606	583	258	266
ベルギー	1.085	1.184	213	209	872	975
スペイン	707	753	223	156	484	597
そ の 他	479	599	138	138	341	461
小 計	9.850	10.730	4.679	4.562	5.171	6.168
ALADI						
アルゼンチン	1.476	3.070	1.615	1.687	(-) 139	1.383
チ リ ー	677	930	494	475	183	455
メキシコ	758	1.111	204	341	554	770
パラグアイ	496	541	220	185	276	356
ウルグアイ	337	517	434	343	(-) 97	174
そ の 他	634	1.015	193	248	441	767
小 計	4.378	7.184	3.160	3.279	1.218	3.905
日 本	2.557	2.324	1.213	1.140	1.344	1.184
カナダ	464	402	511	471	(-) 47	(-) 69
AELC	532	432	966	891	(-) 434	(-) 459
中央、東ヨーロッパ	368	375	352	344	16	31
そ の 他	5.157	5.650	1.674	1.547	3.483	4.103
以上の計	29.667	34.217	17.529	17.183	12.138	17.034
OPEP	1.953	1.886	3.512	3.395	(-)1.559	(-)1.509
合 計	31.620	36.103	21.041	20.578	10.579	15.525

出所：CIEF、CECEX。

1・5・3 サービス収支

1992年におけるサービス収支の残高は(-)111億ドルで、前年の残高(-)131億ドルを15、5%減少した。これは観光分野を例外として、サービス部門の各分野における良好な結果にもとづくものであった。ブラジルが受け取った利息は、前年比19、5%増加したのに対し、ブラジルが支払った利息は(-)11、9%減少しており、全体の収支に大きく影響している。外国融資にかかわる支払利息は合計84億ドルで、現金支払い60億ドル、バリー・クラブによる再融資8、27億ドル、銀行に対する支払い遅延分16億ドルが含まれている。

リスク資本の利益、又は配当金の本国送金額は前年よりも12、2%増加しているが、これは外国企業の経営実績そのもののほか、93年1月以降利益の送金にかかわる所得税を25%より15%に落すことを決定した政府の措置も影響している。

商品、乗客の国際間運賃の残高(赤字)は前年の残高を(-)23、8%減少している。この中、運賃項目では海上運賃が収入の85%を占め、支出の89%を占める。これに対し航空運賃は、収入の14%、支出の6%の割合であった。

外国に旅行したブラジル人、ブラジルを訪問した外国人旅行者に販売した外貨は、観光レートの設定以前は年間1億ドル程度であったが、現在では10億ドルに増加している。

表 25 サービス収支 100万ドル

項 目	1991			1992		
	収 入	支 出	残 高	収 入	支 出	残 高
国際旅行勘定						
観 光	974	997	- 23	902	1,053	- 151
そ の 他	28	217	- 189	21	168	- 147
小 計	1,002	1,214	- 212	923	1,221	- 298
輸送勘定						
運 賃	830	929	- 99	831	929	- 98
そ の 他	627	2,184	-1,557	966	2,130	-1,164
小 計	1,457	3,113	-1,656	1,797	3,059	-1,262
保険勘定	60	192	- 132	116	186	- 70
資本収支勘定						
利 息	872	9,493	-8,621	1,042	8,365	-7,323
利益及び配当金	23	688	- 665	75	659	- 584
小 計	895	10,181	-9,286	1,117	9,024	-7,907
政府勘定	32	402	- 370	59	226	- 167
そ の 他	777	2,298	-1,521	1,007	2,434	-1,427
計	4,223	17,400	-13,177	5,019	16,150	-11,131

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

1・5・4 資本収支

中銀報告によると1992年度における資本勘定の差引残高は247億ドルとなっている。これよりパリー・クラブに対する支払遅延分95億ドル、及び債権銀行に対する利息支払い遅延分71億ドルを差引いた81億ドルが純黒字残高となる。92年度における資本勘定の残高増加は、過去の資本の流出傾向を中断したことを示しており、直接投資、又は新期貸付による外国資金の流入があったことを意味している。

ブラジルに対して外国より投下された資本の内容は91年以降変化しており、とくに資本市場への資金流入の増大が観察された。資本市場では、1987～90年間に通貨による投資額の34%を受入れていたものが91年は55%、92年には74%へと増加している。又、生産部門に対する投資額の増加もみるべきものがあり、91年の628百万ドルに対し、92年は13億ドルの投資が行われている。92年中、資本市場に向けられた39億ドルの投資国は米国(46%)、カイマン島(16%)、英国(15%)、オランダ領アンテリヤ島(8%)、バハマ(5%)で全体の90%を占め、同様に外国に送金された資金もその91%がこれら5ヶ国であった。この中、カイマン島とアンテリヤ島は、年間受入額がほとんど全額送金され、米国は投資額の54%、英国48%、バハマ22%が本国に送金されている。

リスク資本としてのブラジルより外国への投資額は、1991年には10億ドルに達していたが、92年は再び過去の平均的レベルに戻っている。

短期及び長期融資による外国資金の受入れ額は前年を倍加した。資金調達方法の多様化、国内と外国との利息の差、国営企業が外国で発行した債券の市場での受入れ方が良好であったことなどにより、資金の調達が容易であったことなどが、外貨流入の増加を促した理由とされている。

外国投資に促進するため92年1月以降利息及び配当金の送金にかかわる追加所得税を廃止しており、又、外国の投資会社がオプション市場、又、先物市場での取引を許可されたことも外国投資に便宜を与えた措置であった。

1992年末におけるブラジルの外貨総額は1,342億ドルと推定されている。この中1,104億ドルが登録済債務、238億ドルが非登録債務となっている。これに対する外貨保有高は238億ドル、その他外国におけるブラジルの受取勘定が74億ドルあるので、これを差し引いた92年末の純債務残高は1,030億ドルとなる。この金額はPIB（国内総生産高）の25%、輸出総額の285%に相当する。

表 26

資本収支

項 目	受 入		支 出		残 高	
	1991	1992	1991	1992	1991	1992
投資勘定						
ブラジルよりの対外投資	19	1,034	-1,015	26	172	-146
外国の対ブラジル投資	1,508	323	1,185	5,311	2,329	2,982
小 計	1,527	1,357	170	5,337	2,501	2,836
中長期融資						
ブラジルよりの対外融資	71	170	-99	280	161	119
外国よりの融資						
国際金融機関	1,143	1,448	-305	1,029	1,665	-636
政府機関	47	2,513	-2,466	11,654	2,596	9,058
「プライズ・バ・イズ・クレジット」	935	2,240	-1,305	494	2,197	-1,703
国 債	1,105	75	1,030	980	200	780
通貨貸付	2,892	1,550	1,342	13,995	1,910	12,089
そ の 他	-	4	-4	-	4	-4
小 計	6,122	7,830	-1,708	28,152	8,572	19,580
短期資本	1,727	4,760	-3,033	2,644	481	2,163
その他の資本	275	118	157	91	87	4
計	9,722	14,235	-4,513	36,504	11,802	24,702

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

表 27

ブラジルの外貨にかかわる指数

内 訳	1988	1989	1990	1991	1992
外債元本の償還及び利息支払額					
元 本	5,5	5,6	4,6	5,3	6,6
利 息	13,8	7,2	3,5	6,7	5,9
小 計	19,3	12,8	8,1	12,0	12,5
登録済債務額 (A)	102,6	99,3	96,5	93,0	110,4
非登録済債務額 (B)	10,9	15,8	26,3	30,9	23,8
債務額計 (C) = (A+B)	113,5	115,1	122,8	123,9	134,2
外貨保有額 (D)	9,1	9,7	10,0	9,4	23,8
ブラジルの対外債権 (E)	2,2	2,5	2,2	2,1	2,3
商業銀行受取勘定	1,8	2,4	2,8	1,0	5,1
純債務額 (G) = (C-D-E-F)	100,4	100,5	107,8	111,4	103,0
輸 出 額	33,8	34,4	31,4	31,6	36,1
PIB (国内生産高)	364,3	393,1	391,8	410,3	417,4
比率：債務支払額／輸出額 (%)	57	37	26	38	35
債務支払額／PIB (%)	5	3	2	3	3
債務合計／輸出額 (%)	336	335	391	392	372

債務合計 / PIB (%)	31	29	31	30	32
純債務額 / 輸出額 (%)	297	292	343	352	285
純債務額 / PIB (%)	28	26	28	27	25

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

1・6 1993年の経済指標

1・6・1 物価動向

表 28 INPC (全国消費者物価指数)

月 別	90年12月=100の指数	月当り上昇率 (%)	年度内上昇率 (%)	過去12ヶ月間上昇率(%)
93年 1月	9.250,01	28,77	28,77	1.175,05
2	11.543,09	24,79	60,69	1.180,50
3	14.726,65	27,58	105,01	1.243,26
4	18.904,63	28,37	163,17	1.326,96
5	23.967,29	26,78	233,65	1.353,09
6	31.246,16	30,37	334,98	1.467,56
7	40.935,59	31,01	469,87	1.582,22
8	54.583,52	33,34	659,86	1.732,88
9	74.031,63	35,63	930,60	1.905,11
10	99.291,22	34,12	1.282,24	2.033,14
11	135.036,06	36,00	1.779,85	2.260,71
12	185.985,17	37,73	2.489,11	2.489,11

出所：IBGE

表 29 IGP (総物価指数)

月 別	90年12月=100の指数	月当り上昇率 (%)	年度内上昇率 (%)	過去12ヶ月間上昇率(%)
93年 1月	128,72	28,73	28,73	1.176,67
2	162,85	26,51	62,85	1.194,18
3	208,14	27,81	108,14	1.270,44
4	266,87	28,21	166,87	1.382,24
5	352,98	32,27	252,98	1.501,15
6	461,43	30,72	361,43	1.623,88
7	608,92	31,96	508,92	1.769,38
8	813,10	33,53	713,10	1.888,39
9	1.113,90	36,99	1.013,90	2.038,55
10	1.505,38	35,14	1.405,38	2.213,25
11	2.061,79	36,96	1.961,79	2.450,42
12	2.808,55	36,22	2.708,55	2.708,55

出所：FGV

表 30 為替レート (月末レート) CR/US\$

月 別	自由レート		平行レート	
	買	売	買	売
93年 1月	15.719,90	15.720,00	16.800,00	17.000,00
2	19.857,50	19.858,00	21.400,00	21.700,00

3	25,121,50	25,122,00	27,800,00	28,200,00
4	32,267,00	32,268,00	36,200,00	36,500,00
5	41,699,00	41,700,00	45,800,00	46,100,00
6	54,335,00	54,336,00	58,700,00	59,000,00
7	71,152,00	71,153,00	77,500,00	78,000,00
8 *	94,65	94,65	102,00	104,00
9	128,06	128,07	126,00	128,50
10	179,40	179,41	177,00	179,00
11	235,97	236,00	235,00	237,00
12	320,91	320,92	320,00	325,00

出所： 注) 8月にデノミ実施 1,000分の1に切下げた

表 3 1 その他の指数 (1993年)

月 別	TR (%)	UFIR (%)	定期預金利息 (%)	最低賃金 CR
1月	26,76	7,412,55	27,39	1,250,700
2	26,40	9,597,03	27,03	1,250,700
3	25,81	12,161,36	26,43	1,709,400
4	28,22	15,318,45	28,86	1,709,400
5	28,68	19,506,52	29,32	3,303,300
6	30,08	25,126,35	30,73	3,303,300
7	30,37	32,749,68	31,02	4,639,800
8	33,34	* 42,79	34,00	5,534
9	34,62	56,48	35,29	9,606
10	36,53	75,90	37,21	12,024
11	36,16	102,59	36,84	15,021
12	36,80	137,37	37,48	18,760

注) 8月にデノミ実施 1,000分の1に切下げた

1・6・2 貿易状況

1993年の輸出状況

商工観光省国際貿易技術部(DTIC)が発表したデータによると、1993年におけるブラジルの輸出総額は387,8億ドルで前年の358,6億ドルを8,1%上廻った。中でもブラジルが加入しているメルコスール(南部共同市場)のメンバー国(アルゼンチン、パラグアイ及びウルグアイ)への輸出増加が顕著であり、これが全体の増加を支える大きな要素となった。

この輸出動向は開発途上国の外債危機にゆれた80年代に工業先進国がリードした状況を反転しており、開発途上国向け輸出増加率15,82%は、工業先進国向け増加率2,55%を大巾に上廻った。この結果93年の輸出先市場は80年代を通じて70%を占めてきた工業先進国の比率が55,7%に落ちたのに対し、開発途上国の比率は30%より43,2%へと増加している。

工業先進国の中では、米国がブラジルよりの輸入を伸ばした唯一の国で、日本は横ばい、他の国は一率に後退した。又、開発途上国の中では、隣国のアルゼンチンが圧倒的に大きく、アルゼンチンと同様にメルコスールのメンバーであるウルグアイとパラグアイの他これらに隣接するチリーを加えるとブラジル輸出の51%をこの市場が吸収した形である。アジアでは中国の輸入が前年を70%増加する780百万ドルを記録して最も大きく、タイガー諸国(シンガポール、韓国、香港、台湾)がこれに続いている。品目別では基礎製品、工業製品共増加がみられた。

表 3 2

1993年の輸出先市場 (1~12月)

輸出先市場	輸出額 100万ドル	構 成 比 (%)	前 年 比 (%)
工業先進国			
米 国	8,023.8	20.69	13.69
オランダ	2,488.1	6.42	6.37
日 本	2,313.0	5.96	0.30
ド イ ツ	1,823.8	4.70	(-) 12.02
イタリー	1,311.9	3.38	(-) 17.25
英 国	1,139.6	2.94	(-) 11.38
フランス	791.4	2.04	(-) 6.27
そ の 他	3,712.2	9.57	
小 計	21,603.8	55.70	2.55
開発途上国			
アルゼンチン	3,661.5	9.44	20.45
チ リ ー	1,110.4	2.86	20.35
メキシコ	995.4	2.57	(-) 10.62
パラグアイ	960.6	2.48	76.81
中 国	779.4	2.01	69.42
ウルグアイ	774.8	2.00	50.70
台 湾	630.3	1.63	15.09
韓 国	537.6	1.39	(-) 1.80
シンガポール	267.1	0.69	31.55
そ の 他	7,082.1	18.25	
小 計	16,799.2	43.32	15.82
船舶・航空機等	379.7	0.98	30.78
合 計	38,782.7	100.00	8.15

出所：SESEX/DTIC

表 3 2-A

1993年の輸出実績 (1~12月)

品 目 別	輸出金額 100万ドル	構 成 比 (%)	前 年 比 (%)
A) 基礎製品			
鉄 鋼 石	2,256.9	5.82	(-) 5.23
大 豆 粕	1,815.0	4.68	13.73
コ ー ヒ ー (豆)	1,064.9	2.75	9.74
大 豆 (豆)	945.5	2.44	16.94
煙 草 葉	697.0	1.80	(-) 13.26
プ ロ イ ラ ー	568.5	1.47	28.56
そ の 他	2,061.1	5.31	12.14
小 計	9,409.0	24.26	6.44
B) 半加工品			
鉄鋼半製品	1,122.2	2.89	21.79
アルミ粗金	899.6	2.32	(-) 7.22
木材パルプ	711.0	1.83	(-) 3.30
皮 革	401.0	1.04	3.44
合 金	385.0	0.99	0.27

その他	1,933,2	4,98	9,39
小計	5,454,0	14,06	5,55
C) 製造加工品			
鉄鋼製品	3,416,7	8,81	(-) 0,89
輸送機器	3,373,3	8,70	2,50
機械器具	3,299,8	8,51	16,48
靴及び部品	1,945,2	8,24	32,01
電気機器	1,314,8	3,39	14,45
濃縮オレンジ・ジュース	826,2	2,13	(-) 21,53
紙及び製品	797,4	2,06	12,47
有機化学製品	745,7	1,92	(-) 0,73
プラスチック製品	705,8	1,82	17,61
ゴム及び製品	533,3	1,38	13,14
無機化学製品	262,1	0,68	16,25
その他	6,392,7	16,48	18,55
小計	23,613,0	60,89	10,36
工業製品計 B+C	29,067,0	74,95	9,43
D) 特殊取引	306,7	0,79	(-) 33,12
合計	38,782,7	100,00	8,15

出所：SECEX/DTIC

1・6・3 農業生産状況

IBGEが1993年10月に行った92/93農年の農業生産状況調査の結果は次表の通りである。

表 33 1992/93農年の農業生産状況 (1993年10月調査)

作物別	面積 1,000ha	生産量 1,000 t	平均反収 Kg/ha
A) 穀類			
とうもろこし	12,042,1	30,057,6	2,496
米	4,443,7	10,185,9	2,292
フェイジョン	4,026,2	2,486,3	618
ソルガム	132,1	249,1	1,886
小麦	1,356,7	2,323,6	1,713
大麦	68,1	131,7	1,935
からす麦	262,8	292,2	1,112
ライ麦	4,8	5,6	1,168
小計	22,336,5	45,732,0	-
B) 油脂作物			
大豆	10,633,2	22,688,5	2,134
綿(草綿)	924,7	1,104,6	1,194
〃(木綿)	145,0	14,2	98
落花生	85,4	150,8	1,765
ヒマ	140,9	47,2	335
小計	11,929,2	24,005,3	-
A+B	34,265,7	69,737,3	-
C) 工業原料作物			

砂糖キビ	4,000.4	258,204.8	64,545
マンジョカ	1,837.8	22,630.3	12,334
煙草葉	380.4	662.5	1,741
サイザル	206.0	165.4	803
マルバ	10.4	16.5	1,596
ジュート	2.2	3.0	1,321
ラミール	4.6	7.0	1,533
小計	6,441.8	281,689.5	-
D) 嗜好作物			
コーヒー	2,300.4	2,573.8	1,119
ココア	733.6	332.1	453
ピメンタ	25.4	49.8	1,963
グアラナ	6.9	2.3	336
小計	3,066.3	2,958.0	-
E) 果実類			
オレンジ (1)	745.8	85,490.2	114,623
バナナ (2)	529.5	576.3	1,089
パイナップル (3)	39.8	915.0	23,004
ブドウ	60.6	814.7	13,450
リンゴ (4)	25.4	3,488.0	137,226
ココ椰子 (5)	229.6	841.4	3,665
カシューナット	672.5	95.8	143
小計	2,303.2	-	-
F) 野菜類			
ジャガイモ	161.7	2,347.2	14,516
玉ねぎ	70.2	902.3	12,851
トマト	54.2	2,355.5	43,429
にんにく	17.1	85.6	4,993
小計	303.2	-	-
合計	46,380.2	-	-

出所：IBGE 注) (1)(3)(4)(5)～生産量 1,000個 反収 個/ha (2)生産量 1,000房 反収 房/ha

2. 農業界の動向

2.1 農業政策

イタマル政府の農業振興策

イタマル政府最初の農業政策は、前年と同様に夏期作の生産が開始される直前の7月に発表された。VBCを基準とする農業融資、最低保証価格、現物換算による融資精算システム等、従来より継続されている政策のほか、農業者債務の整理、穀物取引所を経由する販売システムの導入、特殊の作物に対する輸入関税の改訂PROAGRO（農業保険）懸案問題の処理等を骨子とする一連の措置によって構成されている。主要項目の内容は次の通りである。

1) 農業融資

イ) 資金準備：93/94農年用の農業融資資金としては、生産費融資として56億ドル、農業投資に対する融資資金として14億ドル計70億ドルが準備された。

この中生産費融資としての56億ドルは、92/93農年の資金量を13、1%上廻るものであったが、過去3ヶ年の実績と比較して、この大型の資金準備も政府が意図した80百万トンの穀類生産を達成するには低い資金量であった。

農業投資に対する14億ドルは、前年の資金量を70%上廻るものであり、この中、土壌改良のための2百万ドル、FINAME（経済社会開発銀行の機械購入融資）による農業用機械購入のための6百万ドルは即時利用出来る資金で、農業部門の生産インフラを強化する意味において極めて有意義なものであった。

表 34 年度別農業融資資金量と収穫量

年 度 別	資 金 量 (億ドル)		収 穫 量 (100万トン)
	生 産 量	投 資	
1990/91	76,8	13,3	57,8 (実績)
1991/92	55,8	8,2	68,4 ◯
1992/93	49,5	8,4	68,7 ◯
1993/94	56,0	14,0	80,0 (目標)

出所：BACEN / IEC

ロ) VBC (生産費融資基準額)

農業融資の基準とされるVBCについては、生産技術の向上と融資事務の簡素化を目標として前92/93農年の場合と同様にVBCの生産性区分を最少限に止めること、生産者自身が作成する生産費見積額、及びEMBRAPA（ブラジル農牧研究公社）の指導にもとづく技術プロジェクトも継続してVBC申請の方法に加えられた。

この中生産者自身が作成するコスト見積りの場合は、過去3年間の平均反収がVBCの中に定められる各レベルの生産性分類の中もっとも高いカテゴリーを越えるものに対してのみ融資の対象とされる。

一方、EMBRAPAの指導による技術プロジェクトを選ぶ場合は、92/93農年中次の変更が行われている。

- この方法を選ぶことが出来る作物リストの中に綿が含まれる。
- 技術プロジェクトを用いる条件として要求されている過去3農年平均比反収増加率20%以上を10%に落とした。この場合、コストの100%融資が得られるのは、綿、米、フェイジョン、とうもろこし及び大豆に限られる。

この方法により、より多くの生産者が技術プロジェクトを選ぶことを期待した。

93/94農年のVBCは表4の通りである。なお東北地方の作物に対しては、93年12月31日までに

植付けられたもののみが適用される。

VBCのインフレに応じた価値修正はUREF（農業及びアグロインダストリー指数）によって行われる。
 又、融資限度は各作物別VBCの次の比率とし、作物別の最高融資限度を960、883UREFとした。
 これは、93年8月時点でCR15、998、701、一、ドルに換算してUS\$200、000相当額である。

表 35 作物別 生産者カテゴリー別融資限度 %

作物別	ミニ及び小麦	中、大 麦
綿 (草 綿)	100	90
米 (水 稲)	90	80
米 (陸 稲)	90	80
フェイジョン	90	80
とうもろこし	90	80
大 豆	80	-
その他の作物	80	60

出所：CNA

なお上記融資最高限度で耕作出来る面積とその収穫量は次表の通りであり、現在の生産規模からして十分の資金量と見做れている。

表 36 最高融資額 (約US\$ 200,000) によって耕作出来る面積と収量

作物別	1 ha生産コスト US \$ /ha	耕作出来る面積 (ha)	収 量
綿	739.3	270.5	43,000アローバ
米 (水 稲)	637.7	313.6	21,952俵 (25Kg入)
米 (陸 稲)	291.1	687.1	18,552俵 (25Kg入)
フェイジョン (雨期作)	392.0	510.2	13,775俵 (60Kg入)
マンジョカ	481.2	415.6	7,480 t
とうもろこし	281.6	710.2	56,816俵 (60Kg入)
小 麦	207.7	962.9	25,998俵 (60Kg入)

出所：IEA

VBCが定められていない作物の場合は、生産コストに対し、ミニ、小農の場合は80%、その他の生産者の場合は、60%の融資を行うことが出来る。

表 37 主要作物別 VBC 93/94農年

作物別	生産性区分 Kg/ha	V B C		資金解除の月及び比率 (%)		
		CR/ha	VREF/ha	第1回	第2回	第3回
綿 (草 綿) 南部、南東部、 中西部	~ ~ 1,200	17,377	1,043.7	8月(35%)	10月(30%)	2月(35%)
	1,200 ~ 1,600	24,239	1,461.2			
	1,600 ~ 2,000	31,280	1,878.7			
	2,000 ~ 以上	38,222	2,295.6			
米 (水 稲) ディーゼル動力 (南部、南東部)	3,000 ~ 3,600	31,198	1,813.7	8月(45)	10月(45)	2月(10)
	3,601 ~ 4,500	33,840	2,032.4			
	4,501 ~ 5,500	38,627	2,319.9			

電 力 (南部、南東部)	3.000 ~ 3.600	26.737	1.605,5	8月(45)	10月(45)	2月(10)	
	3.600 ~ 4.500	29.763	1.787,6				
	4.501 ~ 5.500	33.684	2.023,1				
	(中西部、北部)	3.000 ~ 3.500	28.067	1.685,7	8月(45)	10月(45)	2月(10)
		3.501 ~ 4.000	31.251	1.876,9			
4.001 ~ 5.000		35.369	2.124,3				
米 (陸 稲)	~ 1.200	8.022	481,8	8月(60)	10月(25)	2月(15)	
	1.201 ~ 1.500	12.235	734,8				
	1.501 ~ 2.000	14.554	874,1				
カチュー・ナット 全 国	~ 800	6.223	373,8	8月(50)	10月(50)		
	800 以上	10.470	628,8				
フェイジョン 全 国	~ 400	5.688	341,7	7月(50)	8月(25)	10月(25)	
	401 ~ 600	11.325	680,2				
	601 ~ 1.000	13.131	788,7				
フェイジョン (かんがい)	1.200 ~ 1.600	21.927	1.316,9	7月(45)	8月(40)	10月(15)	
	1.601 ~ 2.200	24.639	1.479,9				
	2.200 以上	33.599	2.018,0				
とうもろこし 全 国	~ 900	4.411	264,9	8月(50)	10月(25)	2月(25)	
	901 ~ 1.500	6.260	376,0				
	1.501 ~ 2.500	11.804	709,0				
	2.501 ~ 3.500	14.393	864,5				
大 豆 全 国	~ 1.200	10.800	648,7	8月(80)	10月(10)	2月(10)	
	1.201 ~ 1.600	13.042	783,3				
	1.601 ~ 2.200	16.001	961,1				
ぶどう 全 国	10.000 ~ 15.000	32.791	1.969,5	7月(85)	12月(15)		
	15.001 ~ 20.000	61.641	3.702,2				
	20.000 以上	80.538	4.837,1				

出所：CNA

ハ) 利息及び価値修正率

農業融資の利息及びインフレに依る価値修正率は前年と同率とし、ミニ生産者に対してはTR (インフレ率) + 年利6, 0%、小農業者TR + 年利9, 0%、その他の生産者TR + 年利12, 5%と定められた。

なお、93/94農年のVBCをみると綿と落花生が前年比それぞれ5, 5%及び9, 5%の増加をみているほかは、水稲、陸稲、フェイジョン、マンジョカ、とうもろこし及び大豆において前年比実質価値の減少があった。このことはこれらの作物の単位面積当り、生産量が昨年を下廻ることを意味しているが、その基準とされているUREFの年間調整率1, 565%がインフレ率1, 724% (IPC) を下廻っているところからVBCの実質価値は更に低下し、生産コストとの開きを大きくする結果を作っている。本来VBCは生産に必要な資金量、すなわち生産コストをカバーする資金量であるべきものであるが、上述の結果、次表にみられる通り、最も生産コストに近かった大豆でも85%、フェイジョンにいたっては、VBCが生産コストの48%しかカバーしない状況であった。

表38 VBCと生産コストの比較

作物別	生産性 (1ha当り)	VBC CR/ha	生産コストCR/ha	VBC/コスト
綿	159アローバ	38.222	54.273	0,70
落花生	90俵 (25Kg入)	22.607	41.106	0,55

水 稲	70俵 (60Kg入)	33.840	48.148	0,70
陸 稲	27俵 (60Kg入)	14.554	21.974	0,68
フェイジョン	27俵 (60Kg入)	13.131	27.218	0,48
マンジョカ	18 t	25.869	31.615	0,82
とうもろこし	80俵 (60Kg入)	14.393	22.243	0,65
大 豆	35俵 (60Kg入)	16.001	19.175	0,83

出所：IEA

2) 最低保証価格制度

91年より開始された輸入関税の段階的引下げや、メルコスールの開設に伴う圏内貿易の自由化などの対外要因や、従来の方法を維持するために必要な資金の不足といった国内事情など新しい情勢に対応すべく93/94農年の最低価格制度には一部の変更が行われた。

まず資金不足への対応策としては、国内の地域別に異った最低価格を設定する制度の復活が図られている。南東及び東北部と中西部及び北部の最低価格を区別する方法は、80年代を通じて実施されてきたが、91年と92年には、奥地方の農業前線地帯における生産振興を目的として上の制度は中止され、全国画一の価格が設定されていた。結果的に奥地方の穀類生産は増加したが、貯蔵、輸送インフラの不備な奥地方では収穫物の大半が、政府の最低価格制度による買上げを前提とするものとなって、巨額の資金支出を余儀なくされ、かつ消費市場までの輸送コストを加えた価格と市場価格との間に生じる差額の負担、貯蔵、輸送能力の不備による商品価値の低下など多くの問題を発生した。

93/94農年はこれらの問題点を是正することを目的として、中西部地方及び北部地方の最低価格を消費市場までの輸送コストに見合う分だけ減額する方法をとって格差をつける制度に戻している。ただし、一挙に価格を引下げの場合に生じるショックを避けるため、今後4農年にわたって徐々に減額し、4年後に適正価格に到達させることとした。

第2に外国品との競合が起り得る価格水準の問題については、国内市場価格を基準としながらも国際市場価格との均衡を保つことが考慮されている。

又、93/94年より広範囲に実施される農業融資の現物換算方式においても最低価格がその基準とされることから、従来のように農業政策手段という性格のほか、農業者債務の評価額としての性格も加ったため、基準価格とその調整方法については慎重な検討が行われた。

AGF（政府買上げ）の基準となる最低保証価格及びEGF（政府の貸付け）の基準となる融資額の中、前農年の価格水準がそのまま、すなわち増減なしのものは、米（水稲）、米（陸稲）、フェイジョン、マンジョカ、とうもろこし、大豆及びソルガム、実質的に前年より増額されたものとして、綿（前年比5,5%増）、ヒマ（2,3,2%増）、カジュール・ナット（7,8%増）、サイザル（10,1%増）、おとう（12,5%増）、逆に前年より減額されたものとして落花生（-13,6%減）、カルナウーバ（7,0%減）となっている。この中、綿については、前農年の大幅な減産を回復させる必要があったことや、この部門が大きな労働市場を構成していること、更に単位面積あたり価値の高い作物であることから生産の振興が図られたものである。

インフレに対応する最低価格及び融資額の調整は、前年と同様にUREFが指数として用いられた。93/94農年における主要作物の最低価格及び融資額は次表の通りである。

表 3 9

93/94農年の最低価格

93年8月

作物別	種類別 (TIPO)	単位 重量	期 間		基 準 価 格	
			開始 月	最終 月	単位重量当りCR	UREF/Kg
綿 (実 綿)	T-6 30/32	15Kg	94年 2月	94年 7月	372.30	1,491021
米 (水 稲)	TIPO 2	50Kg	〃	〃	695,50	0,835800
米 (陸 稲)	TIPO 3	60Kg	〃	〃		
南部、南東、東北、中西					613,80	0,614740

マト・ガロツ、トカンチン					592,20	0,593224
北部					559,20	0,560210
カルナウーバ	TIPO 3,4	15Kg	93年 9月	94年 8月	1.101,90	4,412408
フェイジョン (色つき)	TIPO 3	60Kg	93年11月	94 3月	1.560,60	1,562534
〃 (黒)	TIPO 3	60Kg	〃	〃	〃	〃
ジュート、マルバ	TIPO 2	1Kg	94年 2月	94年10月	24,39	1,465350
マンジョカ	全部	1 t	94年 1月	94年12月	1.760,00	0,106280
とうもろこし	〃	60Kg	94年 2月	94年 7月		
南部、南東、東北、中西					438,60	0,439490
マト・ガロツ、トカンチン					416,40	0,417264
ロンドニア					394,80	0,395756
サイザル	〃	1Kg	93年 8月	94年 7月	14,41	0,865511
ぶどう	〃	1Kg	94年 2月	95年 1月	7,96	0,478577

出所：CNA

表 40 93/94 農年の融資額 93年8月

作物別	種類別	単位重量	期 間		基 準 価 格	
			開始 月	最終 月	単位重量当りCR	UREF/Kg
にんにく	NOBRE	1Kg	93年 8月	94年 7月	58,73	3,527560
落花生	普通種	25 〃	93年12月	94年 7月	449,00	1,079037
ジャがいも種子	Bクラス	30 〃	93年 8月	94年 7月	737,40	1,476380
カジュール・ナット	単 一	1 〃	93年 8月	94年 3月	24,34	1,462347
ヒ マ	〃	60 〃	94年 1月	94年12月	802,20	0,803204
ジュート、マルバ種子	〃	1 〃	94年 6月	94年 9月	61,31	3,682360
大 豆	〃	60 〃	94年 2月	94年 7月	564,60	0,565470
ソルガム	〃	60 〃	94年 2月	94年 7月	307,20	0,307640

出所：CNA

注) 大豆の対象地域は、南部、南東部、中西部、東北部及びロンドニア州
ソルガムの対象地域は、南部、南東部、中西部及びバイア州南部

3) 融資残高の現物換算方式

93/94 農年の夏期作に対する農業政策の中で重要視されているものの1つとして融資残高の現物換算方式がある。これは政府の農業融資における生産者の債務を、その契約時点における最低価格で除した作物の量として現わし、返済の時点ではその量を元本（ほかに利息、諸掛りが加算される）として返済せしめる方法を用いる。従来農産物の価格がインフレに平行せず債務の返済を困難としてきた弊害を解消とするもので、すでに91/92 農年よりミニ、及び小生産者に対して適用されていた制度であるが、93/94 農年よりは、これをEGF-COV（収穫物を担保として政府の販売融資を受けたもので、融資の返済を当該収穫物の政府への販売によって行うこともあり得ることを約束したもの）を採用した中、大農家にも拡大、適用することとなった。

この制度により従来に比して農業融資のリスクが大巾に軽減されることから農業者の農業融資利用が高まり、生産拡大をもたらそうというのが政府の意図であり、これにより史上最大の80百万トン収穫が当時の目標とされていた。

この制度は生産費のみでなく、長期融資となる農業投資にも適用されることとなっている。ただしこの場合、対象とされるのはミニ及び小農業者のみである。

93/94 農年より拡大適用されることとなった現物換算方式を一表にまとめると次の如くである。

摘要	生産費融資	農業投資に対する融資
受益者	ミニ、小、中、大農	ミニ、及び小農
対象となる項目	米、フェイジョン、マンジョカ とうもろこし及び綿の生産費	土壌の矯正、保金 農業機械、器具の購入
資金源	農業融資	MUR (農業融資費マニュアル) 6, 2に定められる融資
利息	ミニ生産者、年利6%+TR 小生産者 年利9%+TR その他の生産者 年利12, 5%+TR	ミニ生産者 年利6%+TR 小生産者 年利9%+TR

4) 旧債務の再交渉

93/94農年の農業政策のなかで、ポジティブな影響を与えた他の措置として、ブラジル銀行に対して返済が遅延している債務(約15億ドル)の再交渉がある。

債務の再交渉はケース・バイ・ケースで行われることになっているが、旧債務を精算するものに対しては延滞に対する罰金や契約不履行によって生じる税の免除のほか、新期融資の道を開く恩典が与えられる。ブラジル銀行にとってこれら罰金や手数料の免除は、受取り勘定を約30%(450百万ドル相当)減少することを意味するといわれている。

5) 輸入関税の改訂による小麦及び米の国産保護

第3国(メルコスール以外)よりの補助つき輸入品に対し、国内の小麦及び米の生産を保護し、生産を振興し、外国品との競合を可能とするため、小麦の輸入関税に5%より10%、米については従来の10%を15%に上げた。この中、米については、メルコスールの共通対外関税が設定されるまでの期間継続されることとなっている。

今回の改訂にもとづく主要農産物の輸入関税は次の通りである。

表 41 主要農産物の輸入関税率 %

作物別	メルコスール	その他の国
米	0,0	15,0
とうもろこし	0,0	10,0
小麦	2,5	10,0
フェイジョン	0,0	10,0

出所：CNA

6) 農産物販売システムの改良

穀物取引所や先物市場を通じる販売システムの近代化を図るため、ブラジル銀行が保証する農業手形を発行し、この販売システムの利用を高める方針が発表された。このシステムは、又、生産費に向ける資金を市場より調達しようとする目的も含まれている。

7) 農村労働者の定着援助

農村労働者2万家族の定着を図る一方、農地改革プランの中ですでに入植している10万家族の定着のための援助方針が明らかとされた。連邦政府としては、そのために必要とする資金手当てを行うほか、定着、援護、事業に州政府や郡を加えたい意向を示している。

8) PROAGRO (農業保険) 債務の精算

農業政策の中にはPROAGROの旧債務精算の問題も含まれている。生産上、金融上のリスクを緩和する

PROAGRO に対する信頼を増加させようとする措置であるが、具体的な方法については発表されていない。

2・2 生産資材部の動向

2・2・1 肥料

表 4 2

ブラジルの肥料需給

1,000トン

区 分	1988	1989	1990	1991	1992
期首在庫(工場)(a)	2.066	1.839	1.205	1.120	1.238
生産量(b)	6.094	5.614	5.393	5.592	5.545
輸入量(c)	3.179	2.474	2.930	3.294	3.688
見かけ消費量(b+c)	9.273	8.088	8.323	8.886	9.233
輸 出 量(d)	87	180	249	274	279
微量要素他(e)	352	217	63	1	47
供給量計(a,b,c,d,e)(f)	11.604	9.964	9.342	9.731	10.145
期末在庫(g)	1.839	1.205	1.120	1.238	868
農家への引渡額(f-g)(h)	9.765	8.759	8.222	8.493	9.277
期首在庫(農家)(i)	850	530	270	167	150
期末在庫(農家)(j)	530	270	167	150	147
実際消費量(h+i-j)	10.085	9.019	8.325	8.510	9.280

出所: ANDA

肥料工業連盟のデータによると、1992年における肥料の国内生産量は5,545千トンで前年を(-)0,8%下廻ったのに対し、消費量は前年を9,0%上回る9,280千トンに達し需給関係を圧迫した。しかし、この消費量も1988年の10,085千トンと比較すると(-)8,0%低いものである。

1992年における肥料消費の増加は、中西部地方における大豆作で、肥料の消費が増加したこと、92年の下半期中、各作物の価格と肥料価格との関係が好転し、肥料の購買力があつたこと、及び単位面積あたり肥料消費量が1991年の131Kg/haより92年には147Kgへと増加したが、これは過去5ヶ年間最大のものであつたことや、輸出の増加から煙草葉の肥料要素が大巾に増加したことなどを理由としている。

1992年中、肥料消費のもっとも大きかった作物は、砂糖キビの1,9百万トン(前年比8%増)を筆頭とし、大豆(26%)、小麦(16,1%)、煙草葉(16,0%)、トマト(12,9%)、オレンジ(10,3%)、バナナ(8,3%)、フェイジョン(7,3%)、パインアップル(7,1%)、とうもろこし(6,7%)、ジャガイモ(4,2%)、米(3,7%)等が続いている。

逆に前年と比較して肥料消費を減少した作物としては、落花生(-28,6%)、ソルガム(-27,8%)、綿(-12,9%)、マンジョカ(-7,9%)等がある。

表 4 3

作物別肥料の推定消費量

1,000 t

作物別	1988	1989	1990	1991	1992
砂糖キビ	1.710	1.705	1.670	1.740	1.880
大豆	2.072	1.637	1.370	1.460	1.840
とうもろこし	1.380	1.339	1.300	1.500	1.600
フェイジョン	506	568	528	550	590
米	797	564	480	540	560
小麦	707	629	510	310	360
オレンジ	342	394	368	290	320
煙草葉	255	243	230	250	290

綿 (草綿)	284	316	270	310	270
じゃがいも	228	218	226	240	250
バナナ	134	119	115	120	130
牧草	102	94	100	110	110
その他	1,530	1,193	1,158	1,090	1,080
計	10,047	9,019	8,325	8,510	9,280

出所：ANDA

表 4 4 作物別肥料の推定消費量 (単位面積当り) Kg/ha

作物別	1988	1989	1990	1991	1992
じゃがいも	1,434	1,371	1,395	1,472	1,553
トマト	1,348	1,311	1,233	1,192	1,296
煙草葉	870	884	804	729	773
にんにく	929	706	684	684	588
玉ねぎ	387	373	390	370	395
砂糖キビ	348	330	328	347	382
パイナップル	486	412	412	400	405
オレンジ	387	432	372	295	325
バナナ	257	242	236	232	244
コーヒー	302	213	210	207	222
大豆	169	141	142	155	175
とうもろこし	105	111	95	106	124
平均	140	130	122	131	147

出所：ANDA

上表にみられるように1988年に2,1百万トンの肥料を消費した大豆は、90年にわずか1,4百トンに落ちたあと、92年には再び1,8百万トンに増加し、砂糖キビに次ぐ消費量となっている。

作物価格と肥料価格の関係を知るものとして、肥料1トンを購入するために必要とした主要6作物の量をみると、1988年を100とした指数で、米(87)、砂糖キビ(72)、大豆(97)及びコーヒー(94)が好転しているのに対し、とうもろこしは(123)、かんきつは(920)という高い指数を示して購買力を低下させている。かんきつにおける購買力の低下は、濃縮オレンジ・ジュースの国際相場の変動を反映したものである。

表 4 5 肥料1トンを購入するために必要とした作物量 (数量)

年度別	米 (60Kg)	砂糖キビ (t)	かんきつ 箱(40,8Kg)	とうもろこし (60Kg)	大豆 (60Kg)	コーヒー (60Kg)
1988	24,2	25,4	44,5	22,7	17,5	3,3
1989	31,8	37,5	60,1	40,1	24,8	3,6
1990	26,1	28,7	96,1	37,7	31,8	3,7
1991	17,7	24,5	101,3	31,2	22,0	3,8
1992(1月)	24,2	22,0	79,2	30,9	23,5	4,9
(6月)	25,3	23,3	71,8	37,4	19,3	4,7
1993(1月)	17,9	22,1	419,4	24,5	15,7	2,7
(6月)	21,1	18,4	409,6	27,9	16,9	3,1

(指数)

1988	100	100	100	100	100	100
1989	131	148	135	177	142	109
1990	108	113	216	166	182	112
1991	73	96	228	137	126	115
1992(1月)	105	118	178	136	134	148
(6月)	77	87	161	165	110	142
1993(1月)	74	87	942	108	90	82
(6月)	87	72	920	123	97	94

出所：ANDA

1992年中、生産者に引渡された肥料の量は、9,277千トンで前年を9,2%増加した。引渡し量の増加は、ほとんど全州にわたってみられたが、中でもサンパウロ州がもっとも大きく2,881千トンが引渡されている。

サンパウロ州、肥料、石灰工業シンジケート (SIACESP) のデータによると、工場が農家に渡した肥料総量の74%が中央地方(地理区分上の南東及び中西部地方)、17%が南部、8,7%が東北、0,3%が北部地方の割合であった。

1992年中には、全国的に肥料需要が増加したにもかかわらず、肥料の国内生産量は、前年とほぼ同等の5,545千トンに止まっており、肥料原料の生産は、アンモニアを除き前年を下回る生産量であった。このため肥料の輸入は、前年を11,7%増の3,7百万トンに達しており、原材料の輸入も増加した。これは主に肥料及び主要原料の国際価格が下がったこと、ロシアが外貨獲得のため肥料輸出を増加したことなどを理由としている。国際価格の低下は、世界的に肥料需要が後退したのを反映したものである。

表 46

肥料及び原材料の国内生産推移

1,000 t

品目別	1988	1989	1990	1991	1992
原材料					
アンモニア	946,7	978,8	971,2	829,2	904,8
磷酸岩	4.297,6	3.451,4	2.817,3	2.498,9	1.119,2
磷酸	1.368,4	1.264,4	1.026,8	1.065,3	696,5
硫酸	2.912,3	2.695,7	2.333,2	2.392,8	1.991,5
肥料					
硫酸安	161,8	191,9	156,7	141,1	108,4
尿素	952,2	1.048,4	1.076,4	1.011,6	416,4
ニトロカルシューム	129,1	167,6	144,6	141,5	146,9
硝酸アンモニア	173,3	205,1	190,6	198,6	198,1
DAP剤	184,4	148,7	127,7	130,2	78,6
MAP剤	541,5	406,2	436,4	419,4	127,6
磷酸	2.258,1	1.934,6	1.981,8	2.118,2	2.218,8
過磷酸	6,9	10,3	0,6	-	4,6
重過磷酸	956,3	753,3	594,5	584,3	573,5
TERMOFOSFATO	165,7	145,6	107,1	96,7	101,8
FOSFATO.ACIDULADO	96,0	54,9	105,5	92,7	119,4
塩化カリ	92,9	182,4	113,5	168,6	128,8
配合肥料	376,8	364,9	358,0	488,6	553,4
計	6.094,9	5.613,9	5.393,3	5.591,5	2.130,6

国際市場における肥料価格の低下に加え、1990年以降、政府が採用した輸入関税の引下げにより、肥料の国内価格は、92年より93年にかけて下降した。業界のデータによると中央、南部地方における92年1月～93年5月間の肥料1トンの価格は、US\$193,76よりUS\$150,82へと下落している。

表 47 国内肥料価格の推移 US\$/t

年 月	平均 価 格	92年1月=100の指数
1992年 1月	193,76	100,0
2	192,12	99,2
3	188,88	97,5
4	186,40	96,2
5	176,82	91,3
6	174,86	90,2
7	175,72	90,7
8	176,70	91,2
9	178,46	92,1
10	178,52	92,1
11	176,17	90,9
12	175,63	90,6
1993年 1	164,08	84,7
2	159,39	82,3
3	154,84	79,9
4	149,94	77,4
5	150,43	77,6

出所：ANDA, SIACESP

表 48 肥料の国際価格 (各年6月時点) US\$/t

種 類	1989	1990	1991	1992	1993
硫 安					
米 国	62 - 67	62 - 67	40 - 50	40 - 49	40 - 45
西ヨーロッパ	62 - 64	60 - 64	30 - 45	31 - 48	40 - 45
尿 素					
米 国	95 - 100	118 - 125	150 - 155	125 - 130	121 - 138
塩化カリ					
西ヨーロッパ	86 - 89	99 - 101	99 - 105	102 - 104	111 - 117
カナダ	98 - 99	90 - 97	111 - 113	112 - 114	90 - 105
ロシア	98 - 98	85 - 90	84 - 95	88 - 100	65 - 90
磷酸 (100% P ₂ O ₅)					
米 国	332 - 342	277 - 287	290 - 295	288 - 299	210 - 220
DAP剤					
米 国	162 - 164	175 - 177	182 - 185	143 - 145	116 - 119
重過磷酸					
米 国	138 - 143	120 - 125	123 - 130	121 - 124	105 - 108

出所：SIACESP

表 49

主要作物別 肥料の平均価格 (1993年上半期)

US\$/t

作物別	使用肥料	93年1月	3月	6月
綿	04-20-20(75%) 硫安 (25%)	160,24	152,23	158,53
米	05-25-15(80%) 尿素 (20%)	190,34	177,12	177,54
砂糖キビ	05-25-25(30%)			
	14-07-28(65%) 硫安 (5%)	183,07	175,07	176,83
フェイジョン	04-14-08(85%) 硫安 (15%)	126,82	120,19	127,65
かんきつ	12-06-12	142,60	133,45	139,28
とうもろこし	04-20-20(75%) 尿素 (25%)	183,13	173,38	172,00
大豆	02-20-20	169,94	156,80	160,27
小麦	04-20-20	171,33	163,33	165,68
コーヒー	20-05-20	186,55	176,43	174,50
ジャガイモ	04-14-08	126,78	120,36	125,91

出所: ANDA

肥料の輸出は、93年上半期中に大巾な伸びをみて前年同期比61、6%増の180、2千トンが記録されている。とくにNPK配合肥料の輸出増加があった。

93年上半期中に国内の生産者に引渡された肥料の量は、3、514千トンで、92年の上半期と比較して18、4%の増加であった。肥料配付量の増加は、中央、南部地方のほとんど全州にわたってみられたが、これは、93/94農年の大豆やとうもろこし作において、肥料との価格関係が好転したため、肥料を早目に購入出来る態勢にあったためである。逆に東北地方の一部では、長期乾燥の被害により肥料需要の減退をみた州もあった。

93年上半期に配付された肥料総量の大部分(30、4%)はサンパウロ州に向けられており、このほか、リオ・グランデ・ド・スール州(14、7%)、パラナ(14、3%)、ミナス・ジェライス州(8、5%)、ゴヤス・ブラジリアートカンチンス州(6、5%)が肥料配布量の大きい地域であった。

93年上半期における肥料需要の増加は、肥料の国内生産に反映し、2、535千トンが生産されたが、これは、前年同期を19%上回るものであった。肥料の種類では窒素、磷、カリのすべてにおいて、又、肥料原料も増加した。

93年上半期には、前年の上半期を38、7%増加した2、554千トンの輸入が行われているが、93年当初の低い国際相場を利用した輸入と解釈されている。

表 50

肥料の州別配布状況

1,000 t

州 別	1990	1991	1992	1993年上半期
南 部				
リオ・グランデ・ド・スール	1,149,9	1,172,3	1,292,9	515,2
サンタ・カタリーナ	266,2	288,2	278,6	164,9
小 計	1,416,1	1,460,5	1,571,5	680,1
中央部				
エスピリット・サント	86,5	77,8	69,1	34,9
ゴヤス、トカンチンス	717,4	706,6	751,4	228,4
マット・グロソ	397,4	501,7	603,4	181,9
リオ・グランデ・ド・スール	301,4	317,7	361,2	156,2
ミナス・ジェライス	979,1	891,5	927,0	298,1
パラナ	1,088,7	1,090,7	1,234,1	504,0
リオ・デ・ジャネイロ	41,5	35,8	40,3	13,3

サン・パウロ	2,584,9	2,593,0	2,880,9	1,066,8
小計	6,196,8	6,215,0	6,867,2	2,483,7
東北部				
アラゴアス	153,7	198,2	201,8	71,8
バイア	188,8	299,0	306,7	116,5
セアラ	10,9	12,4	11,9	6,6
マラニョン	18,1	24,0	24,8	4,8
パライーバ	33,2	48,5	43,4	20,2
ベルナンブコ	135,9	160,3	161,4	95,2
ピアウイ	8,5	9,9	10,9	2,7
ピョーランド・ノル	23,1	27,9	30,2	11,4
セルジッペ	21,3	19,8	19,0	8,5
小計	593,6	800,1	810,0	337,7
北部	16,0	17,4	28,9	12,7
全国計	8,222,5	8,493,0	9,277,5	3,514,2

出所：ANDA

2・2・2 農薬

全国農業工業シンジケート（SINDAG）のデータによると、1992年度における農薬の総販売額は、933,8百万ドルで、前年の988,0百万ドルを（-）5,5%落した。

表 51 農薬の販売高（1992年） US \$1,000

月例	殺虫剤	殺ダニ剤	殺菌剤	除草剤	その他	計
1	10,748	6,531	6,682	15,857	1,598	41,416
2	8,071	5,024	7,929	18,919	6,344	46,287
3	8,816	4,958	10,641	24,376	2,372	51,163
4	10,134	3,593	11,478	21,882	3,024	50,111
5	12,344	6,729	12,853	45,331	3,898	81,155
6	12,432	4,210	12,628	47,787	1,341	78,398
7	19,200	5,000	14,900	56,300	1,000	96,400
8	18,500	5,800	16,300	73,300	1,500	115,400
9	23,300	4,800	19,300	75,900	900	124,200
10	20,000	5,600	13,500	66,900	900	106,900
11	25,836	4,341	9,501	39,301	8,610	87,589
12	18,328	4,307	7,962	22,056	2,084	54,737
計	187,709	60,893	143,674	507,909	33,571	933,756

出所：SINDAG

1988～92年の統計をみると農業の中では、除草剤だけが売上げを伸ばしており、全販売高に占めた除草剤の比率は1988年の49%より92年には52%へと伸びた。これは、最大の需要先である大豆の栽培面積が増加したためである。この大豆栽培は、国際価格が上昇した1990年以降大巾に変化しており、この年より国内にインフォーマルな融資すなわち、販売会社や組合と生産者との間に農薬と生産物の交換方式が普及してきたが、この新しい取引形態は生産者の資金事情と緩和し、栽培面積の拡大、ひいては除草剤の需要を高めることとなった。

表 52

農薬別販売高 (1988~92)

US \$100万

年度	殺虫剤	殺ダニ剤	殺菌剤	除草剤	その他	計
1988	233,0	60,6	162,7	447,9	-	904,2
89	234,6	90,8	147,5	507,7	-	980,6
90	273,4	93,4	171,0	546,6	-	1,084,4
91	231,2	56,2	147,1	533,6	19,9	988,0
92	187,7	60,9	143,7	507,9	33,6	933,8

出所：SINDAG

殺虫剤に関しては、1991年まで比較的安定した販売が続いたが、1992年には前年比(-)18,8%の減少があった。この減少は殺虫剤消費の17%を占める綿の生産減少にもとづくものであった。

CONAB (国家供給公社) のデータによると、92年には綿作の栽培面積が全国的に37%減少したことのほか、綿輸入の増大は国産品と直接競合し国内価格を下げたが、これも殺虫剤の購買力を落した理由として加っている。

殺菌剤に関しては年によって販売額に大きな変動があるが、1988~92年間は売上げの急激な減少はなかった。最大の需要先である小麦栽培が縮小したため、殺菌剤市場にネガティブな影響を与えたが、野菜生産部門よりの需要が安定していたため最低限度の販売は維持されてきた。

殺蟻剤はかんきつ栽培と深い関係を持つところから、作物とくにオレンジを原料とする濃縮オレンジ・ジュースの国際価格の変動によって販売高が変化する特性をもっている。1990年にはこのオレンジ・ジュース市場が悪く、国際価格が下降したため、91年の殺蟻剤販売高を落したが、92年にはオレンジ・ジュース価格の回復により、販売高も又増加したあとがある。

農薬価格は、1992年7月より93年7月間にインフレ率とほぼ同等の変動があった。この期間中、サンパウロ州の生産者が16種の農薬に対して支払った価格は(-)15,3%の値下りがあったが、民間部門がより多くの作物と農薬について行った調整によると、ドル換算でほとんど変化のない値動きであったことが確認されている。

表 53

サンパウロ市における農薬価格 (実質価格)

農薬別	単位	92年7月	93年7月	変動率 (%)
殺ダニ剤				
KELTHANE EC	リットル	1.794.613	2.200.000	22,59
NEORON	800ミリリットル	1.860.173	1.452.187	(-) 21,93
殺蟻剤				
MIREX	0,5Kg	40.565
殺菌剤				
BAYFIDAN	Kg	2.926.491	2.824.750	(-) 3,48
DITHANE-M45	Kg	473.591	432.053	(-) 8,77
MANZATE BR	25Kg	10.076.383	10.120.937	0,44
除草剤				
KARMEX 800	5Kg	3.497.627	3.062.288	(-) 12,45
PRIMEXTRA 500FW	5リットル	3.018.839	2.470.783	(-) 18,15
ROUNO UP	5リットル	4.873.816	4.230.759	(-) 13,19
SEPTER	5リットル	20.643.743	11.890.500	(-) 42,40
殺虫剤				
AMBUSH 500CE	リットル	5.339.873	5.192.457	(-) 2,76
FURABAN 5G	10Kg	1.882.774	1.929.976	2,51

MUVACRON 400	リットル	757.364	518.517	(-) 31,54
--------------	------	---------	---------	-----------

出所：IEA

1993年中農業部門では、前年を上回る売上げがみられており、上半期の実績において3,3%の売上げ増加があった。販売高がもっとも大きい除草剤では、大豆作における早目の買付け、砂糖キビ部門における需要の増加によって満足すべき状況にあり、米とかんきつの価格低下から販売を落した5月を除いて全般に前年を上回る販売が続いた。中でも大豆栽培面積の増加は、93年の除草剤市場に活気を与えた最大の要因であった。

殺虫剤に関しては、93年の1～6月間に前年同期とほとんど変化のない販売が行われている。殺虫剤部門の第2番目の市場である綿作において栽培面積の減少があり、これが殺虫剤需要にブレーキをかける要因となっている。年末までに国内の綿市場が好転する見通しはなく、年間を通じて除草剤需要は前年を下回るものと推定されている。

殺菌剤は93年の上半期や前年同期と比較してもっとも販売を伸ばした部門で20%の増加をみている。これは冬期作物（ジャガイモ、小麦、フェイジョン）及びトマトを始めとした野菜類全般の殺虫剤需要が増加したためである。

殺ダニ剤の場合は、かんきつ部門における前年の不況を反映した売上げの減少がみられている。しかし、オレンジ・ジュース工場と生産者との間に多年契約による生産者受取価格の安定が図られているところから、今後の農業需要も安定していくものと見通されている。

全体的に農業部門は、93年中に前年比8%の販売増加が期待されている。現在まで明らかとされている上半期の売上げが前年を3%以上上回っていることから、本格的な販売時期となる7～10月には、これを倍加する売上げが期待されるからである。

表 54 農業：93年上半期の販売状況 100万ドル

農 業 別	92年上半期	93年上半期	増 減 (%)
殺 虫 剤	62,5	63,6	1,65
殺ダニ剤	31,0	28,7	(-) 7,63
殺 菌 剤	62,2	74,8	20,22
除 草 剤	174,2	175,3	0,64
そ の 他	18,6	17,9	(-) 4,00
計	348,5	360,3	3,33

出所：SINDAG

なお、メルコスール（南部共同市場）の設置に関する交渉の中で、メンバー国間の農業の取扱い方を統一しようとする論議が続けられており、その為の専門委員会が設置されている。メンバー国の中では、ブラジルの法規がもっともきびしく完全なものといわれている。

2・2・3 農業機械

1993年は農業機械部門にとって良好な年であった。1986年以降長期にわたって販売の減少を続け、したがって生産も同様に減少してきた業界が久し振りに回復の兆をみたからである。ただし、販売の増加は前年との対比であり、前年が最近最悪の年であったことを考えると良好といえるものではないが、いづれにしても生産がやや上向きに変わったことに業界は活気をとり戻している。次表にみられる通り、販売台数は87年の53,34台より92年の19,3千台にいたるまで連続して下降してきた。

表 5.5 トラクター及び農業用機械の販売台数

(耕 運 機)

年 度	国 内 販 売	輸 出	計
1987	3,593	641	4,234
88	1,859	357	2,216
89	2,617	223	2,840
90	1,911	551	2,462
91	1,983	174	2,157
92	1,570	164	1,734
93 (1-7月)	703	236	939

(ブルドーザ)

1987	2,010	599	2,609
88	1,452	946	2,398
89	1,496	888	2,384
90	1,134	539	1,673
91	589	365	954
92	534	495	1,029
93 (1-7月)	471	330	801

(車輪トラクター)

1987	39,802	6,658	46,460
88	30,613	9,300	40,363
89	26,958	6,347	33,305
90	22,010	2,862	24,872
91	13,896	3,171	17,067
92	12,054	4,446	16,500
93 (1-7月)	10,881	1,545	12,426

(農 業 機 械)

1987	45,405	7,898	53,303
88	33,924	10,603	44,977
89	31,071	7,458	38,529
90	25,055	3,952	29,007
91	16,468	3,710	20,178
92	14,158	5,105	19,263
93 (1-7月)	12,055	2,111	14,166

出所：ANFAVEA

過去数年間、農業機械の販売が減少した理由として、次の事項があげられている。まず第1に農産物価格が生産者にとって有利に展開しなかったことが、決定的な要因としてあげられる。不安定な国内経済が国内消費農産物の需要を落し、他方、海外市場も、又リセッションによる需要の減退から世界在庫の増加～価格の低下というプロセスを辿ったこと、又、高度のインフレ下で外国の通貨や金融市場への投資に関心が向けられ、農業機械への投資が避けられたこと。

第2に80年代より開始された農業融資利息の引上げがある。長年にわたって続けられてきた農業部門への

補助の打ち切りと、ひんぱくした財政事情の中で農業投資に対する融資が減少したことも農業機械の販売を落した大きな理由であった。

最後に91年以降実質価格における農業機械の値上りがあった。これに対しサンパウロ州では、同年農業機械の販売にかかわる税の引下げが行われており、機械価格の値上り分が幾分にもカバーされてきた。すなわち91年5月20日付州条令38.224によりICMS（商品流通サービス税）が18%より12%に引き下げられ、後日工業界との協定により、これを更に減率した結果、93年下半年期では州内取引の場合7%、北部、東北部及び中西部地方との取引の場合5.1%、南部、南東地方の場合8.75%となった。

又、連邦政府は国内市場における農業機械価格の低減を図る他の手段として、輸入関税の引下げを行っている。すなわち、1990年8月までトラクターの輸入関税は、65%であったが、同月以降これを40%に落とし、以後段階的に引下げていき、93年下半年期には20%に達した。政府としては、外国製品の輸入によりその競争に勘えるべく国内工業の効率を高めること、国産品価格を国際価格に平行させることを図ったものであるが、工業界では外国製品は本国においてブラジルよりもはるかに租税が低く、高いブラジルの租税制度下では、競合出来ないとの理由で関税を35%引上げを要求してきた。しかし、輸入関税の引下げは国内の農業機械需要を喚起しており、93年には大巾な販売の増加がみられている。前年の上半期と比較すると販売台数は7,575台より10,881台に飛躍、43,64%の増加であった。トラクターの中では、50~199馬力のものが販売数を増加しており、49馬力以下のものは(-)27%の減少であった。収穫機の場合も大巾な販売の増加がみられており、同じく上半期の比較で32,6%の増加であった。

93年に農業機械に対する投資が増加したのは、1)年間を通じて農産物価格とトラクター価格の関係が好転したこと、1例として綿の場合、61馬力のトラクター1台を購入するのに92年に7,615アローバを必要としたものが、93年には5,248アローバに減少しており、コーヒーの場合などは前年の2,339俵よりわずか488俵に落ちており、トラクターの購入が容易となったことが数字に現われている。次にFINAME（機械購入融資）資金が十分準備されたことがあげられる。92年には14億ドルが機械類の購入のために準備されていたものが、93年には20億ドル増額されており、購入を容易としたこと、及び一部の工場で大豆、砂糖キビ、及び牛乳の場合、収穫物との交換方式によるインフォーマルな販売方法が採用され、生産者が安心して購入出来るようにしたことも販売を伸ばした理由の1つに数えられる。

表 56 トラクター（61CV）1台を購入するために必要とした作物の量

作物別 年度別	綿 (15Kg)	米 (60Kg)	ジャガイモ (60Kg)	コーヒー (40Kg)	砂糖キビ (t)	トウモロコシ (60Kg)	大豆 (60Kg)
1988	4.189	2.020	1.820	1.085	2.540	3.420	1.354
89	3.477	2.001	721	792	2.662	3.139	2.004
90	5.924	3.159	1.905	1.689	5.111	4.782	3.816
91	3.777	1.477	854	1.197	2.311	3.191	2.262
92	7.615	3.521	3.825	2.339	3.187	5.579	3.073
93	5.248	2.927	1.520	488	3.000	4.110	2.562

(指数)

1988	100	100	100	100	100	100	100
89	83	99	40	73	105	92	148
90	141	156	50	156	201	140	282
91	90	73	47	110	91	93	167
92	182	174	210	215	125	163	227
93	125	145	83	45	118	120	189

出所：IEA

表 57 農業機械92、93年の生産、販売、輸出比較(1-7月間) 台

種 類 別	1992	1993	増 減 (%)
生産量			
トラクター 49 CVまで	737	568	(-) 22,9
〃 55~99 CV	6.484	8.169	25,9
〃 100~199 CV	3.315	3.773	13,8
収 穫 機	13.763	15.984	16,1
国内販売量			
トラクター 49 CVまで	584	516	(-) 11,6
〃 55~99 CV	4.476	7.068	57,9
〃 100~199 CV	2.510	3.288	31,0
収 穫 機	1.127	1.495	32,6
輸出量			
トラクター 49 CVまで	176	49	(-) 72,1
〃 55~99 CV	1.919	1.086	(-) 43,4
〃 100~199 CV	858	409	(-) 52,3
収 穫 機	385	298	(-) 22,6

出所: ANFAVEA

2・2・4 種 子

ブラジル種子生産者協会のデータによると、1993/94農年における改良種子の生産は、過去数年間にみられた減少傾向を反転しており、供給量を増加する見込みである。サンパウロ市場も主要種子の綿、米、フェイジョン、とうもろこし及び大豆の場合、全国の生産傾向に平行しており、これらを合わせた供給総量は前年の79、300トンに対し、93/94農年は87、140トンに達する予想である。

表 58 ブラジルの改良種子生産量 1.000 t

年 度	綿	落花生	フェイジョン	トウモロコシ	大豆	小麦	計
1987/88	44,0	211,5	21,9	118,5	1.014,2	671,4	2.081,5
88/89	44,9	220,2	23,0	172,6	1.192,1	642,4	2.295,2
89/90	41,5	108,3	18,6	152,6	983,0	474,3	1.778,3
90/91	43,7	127,9	29,1	140,3	853,0	359,1	1.553,1
91/92	30,2	159,6	24,5	131,5	823,1	333,4	1.502,3
92/93 (A)	28,6	167,8	27,9	155,0	977,5	314,6	1.671,4
92/93 サンパウロ州 (B)	10,5	1,5	6,5	41,6	27,0	-	-
B/A (%)	37	1	23	27	3	-	-

出所: ABRASEM. IEA

93/94農年に対するサンパウロ州内の種子生産及び供給状況は次の通りである。

綿 : 93/94農年の改良種子需要量は、栽培面積が前年と同様で、改良種子の使用比率が90%の場合5、527トンと推定されている。州内生産量は、約10、500トンと推定されているので5、000トン前後の余剰があり、いかなる面積の増加があっても対応出来る態勢にある。

落花生: 落花生種子市場は、2、660トンの需要に対し、供給量は4、300トンあり、余裕のある自給態勢にある。この分野では農務局の生産比率が前年の25%より7%減少した。改良種子の使用比率も従来の70%より35%に下がっている。

水 稲: 93/94年の改良種子需要量は、24、000ヘクタールの栽培面積に対し、改良種子の使用比

率を75%として1,821トンと推定されているが、州内の供給総量は890トンで需要に応じる態勢にない。農務局の調整によると州内では、生産者間に公認されていない種子の取引があり、又、収穫物をそのまま種子として使用している傾向がある。ただし量的な把握は困難とされている。

陸 稻： 水稲の場合と同様の状況にある。

フェイジョン： 栽培面積が前年並みの場合、州内の需給は均衡する見込み。

とうもろこし： 93/94農年における州内のとうもろこし供給量は、41,600トン、これに対する需要は12,868トンで、28,732トンが残る見込みである。種子価格と作物価格の比率は、前年が、17,24:1、93年は13,75:1となっており供給過剰を反映している。

表 59 サンパウロ州の改良種子需給 1993/94

区 分	綿	落花生	水 稻	陸 稻	フェイジョン	トモロコシ	大 豆
面積 1,000ha	142,82	54,30	24,28	146,75	318,07	919,20	500,15
使用比率 (%)	90	35	75	30	20	70	90
1ha当り使用量Kg/ha	43	140	100	30	50	20	90
需要量 t (A)	5,527	2,660	1,821	1,320	3,180	12,868	40,512
州内供給量 t (B)	10,500	4,300	890	650	6,500	41,600	27,000
差引残 (B-A)	4,973	1,640	△931	△670	3,320	28,732	△13,512

出所：CATI, IEA

表 60 サンパウロ州の主要種子生産量 1992/93

種 子 別	生 産 量 (t)			比 率 (%)	
	農務局 (A)	民 間 (B)	計 (C)	農務局A/C	民間B/C
綿	10,500	-	10,500	100	-
落花生	300	4,000	4,300	7	93
陸 稻	650	-	650	100	-
水 稻	890	-	890	100	-
フェイジョン	4,500	2,000	6,500	69	31
とうもろこし	1,600	40,000	41,600	4	96
大 豆	2,000	25,000	27,000	7	93

出所：CATI, IEA

表 61 サンパウロ州の改良種子価格 (CR/Kg)

種 子 別	種 子 価 格		作物価格 (C)	比 率	
	農務局 (A)	民 間 (B)		A/C	B/C
綿	44,-	-	30,-	1,47	-
落花生	146,-	110,-	74,-	1,97	1,49
水 稻	43,-	-	19,-	2,26	-
陸 稻	40,-	-	15,-	2,67	-
フェイジョン	120,-	90,-	50,-	1,33	2,40
トモロコシ (ハイブリッド)	76,-	165,-	12,-	6,33	13,75
〃 (普通種)	38,-	75,-	12,-	3,17	6,25
大 豆	45,-	45,-	19,-	2,37	2,37

出所：CATI, IEA

3. 主要農産物の生産流通状況

3・1 穀類

3・1・1 とうもろこし

イ) 生産

表 6 2

とうもろこし：1992年の生産実績

州 別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000 t	反 収 Kg/ha
パラナ	2.516,4	2.516,4	7.696,9	3.059
マト・グロツド・メルク	2.008,8	2.007,3	5.547,0	2.763
サン・パウロ	1.566,3	1.566,3	4.074,8	2.602
ミナス・ジェライス	1.582,9	1.526,8	3.762,9	2.465
サンタ・カタリーナ	1.087,3	1.078,2	3.261,0	3.025
ゴヤス	804,8	799,6	2.777,2	3.473
マト・グロツド・メルク	362,8	282,0	855,3	3.033
マット・グロツソ	359,4	315,8	800,5	2.535
バイア	527,4	476,3	446,4	937
サン・パウロ	122,0	120,3	268,7	2.234
ロンドニア	149,6	149,6	265,7	1.776
その他	2.866,7	2.550,4	800,2	-
全国計	13.954,4	13.389,0	30.556,6	2.282

出所：IBGE

表 6 3

とうもろこし：1993年の生産状況（1993年10月調査）

州 別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000 t	反 収 Kg/ha
パラナ	2.723,0	2.693,0	8.128,0	3.018
マト・グロツド・メルク	1.741,5	1.741,5	4.605,3	2.644
サン・パウロ	1.430,0	1.430,0	3.838,5	2.684
ミナス・ジェライス	1.479,0	1.476,0	3.801,0	2.575
サンタ・カタリーナ	1.030,9	1.030,5	3.225,3	3.130
ゴヤス	731,9	726,7	2.546,9	3.505
マト・グロツド・メルク	368,8	346,5	919,3	2.653
マット・グロツソ	353,4	342,7	912,5	2.663
バイア	517,2	296,8	388,3	1.309
ロンドニア	168,4	168,4	305,7	1.815
サン・パウロ	122,6	122,6	302,1	2.463
その他	2.414,4	1.667,4	1.084,7	-
全国計	13.081,1	12.042,1	30.057,6	2.496

出所：IBGE

92/93農年におけるとうもろこしの生産量は、第1収穫、第2収穫を合わせて30,0百万トンの予想で前年を(-)1,9%下廻る見込みである。この中、夏期に行われる第1収穫は、26,8百万トンで前年を(-)9%減少、面積も(-)16%の減少となる。これは主に前年の市場価格が低かったこと、及び最低価格が(-)5%引下げられたのをその理由としている。

これに対しサフリニャと呼ばれる第2収穫は、大巾な増産で前年を41%増加する200万トンに達する見込みである。中でも中西部地方における大巾な増産が特筆される。

中央南部地方、とくにパラナ、サンパウロ、中西部の各州では、春から夏にかけて栽培される第1期収穫では早生の大豆を選び、その収穫後、夏から秋にかけてサフリニャにとうもろこしを栽培するものが増えており、サフリニャの生産量を増加させている。

サフリニャの栽培は天候に左右されるため、非常にリスクの大きい栽培方法であるが、これらの問題を克服する場合は、高い収益性が保証されており、農家の関心を集めている。又年間を通じて同一作物を継続して栽培する場合、植物衛生上多くの問題を生ずるため、このような輪作の形態が求められている。

表 6 4 とうもろこし：過去5ヶ年間の生産推移 1,000 t

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
パラナ	5,268.0	5,160.8	4,827.1	7,696.9	8,128.0
リオ・グランデ・ド・メル	3,583.8	3,957.4	2,053.8	5,547.0	4,605.3
サン・パウロ	3,756.0	2,766.0	4,070.8	4,074.8	3,838.5
ミナス・ジェライス	3,333.3	2,272.8	3,816.7	3,762.9	3,801.0
サンタ・カタリーナ	2,376.0	2,674.4	1,523.6	3,261.0	3,225.3
ゴヤス	3,693.6	1,848.4	2,886.4	2,777.2	2,546.9
その他	4,562.9	2,661.4	4,760.6	3,436.8	3,912.6
全国計	26,572.6	21,341.2	23,939.0	30,556.6	30,057.6

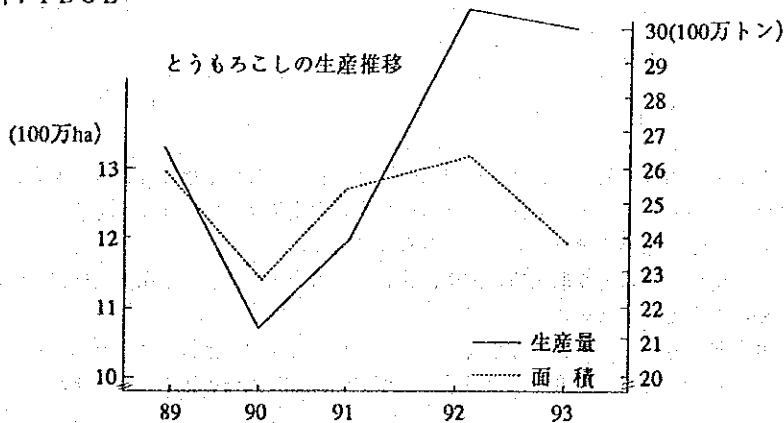
収穫面積 1,000ha	12,931.8	11,390.7	13,109.8	13,389.0	12,042.1
--------------	----------	----------	----------	----------	----------

出所：IBGE

表 6 5 とうもろこし：主要生産地の反収 Kg/ha

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
パラナ	2,494	2,481	2,046	3,059	3,018
リオ・グランデ・ド・メル	2,279	2,404	1,136	2,763	2,644
サン・パウロ	2,832	2,403	2,811	2,602	2,684
ミナス・ジェライス	2,249	1,611	2,431	2,465	2,575
サンタ・カタリーナ	2,412	2,644	1,583	3,025	3,130
ゴヤス	3,225	2,166	3,276	3,473	3,505
全国平均	2,055	1,874	1,826	2,282	2,496

出所：IBGE



ロ) 国際市場

93/94農年における世界のとうもろこし生産量は、前年を(-)10%減少する477,6百万トンに止まる見通しである。USDA(米国農務省)によると世界生産の減少は、米国の生産減少によるもので、その他の国は0,6%の増加が予想されている。

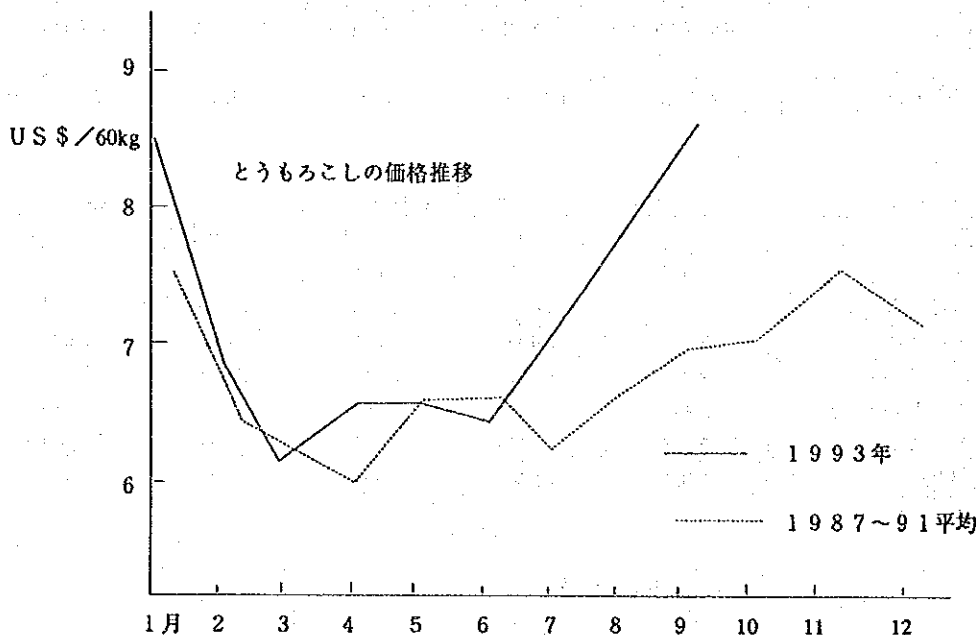
米国の減産は前年の生産量240,08百万トンを(-)22%落すものと予想されている。主要生産地帯における洪水や、天候不順のため反収を落したこと、作付面積の減少があったことをその理由としている。

93/94農年における世界のとうもろこし消費量は、前年と同レベルを維持する見込みである。米国の輸出は、生産の減少を反映して(-)12%の減少、他の生産国の輸出量は前年並みと予想されている。

米国を中心として世界の供給量が減少(-4%)したため93/94農年末(94年9月30日)の世界在庫量は74,9百万トンに落ち(-2,7%)、この中、米国の在庫は35,8百万トン(-34%)と予想されている。このような情勢下でとうもろこし価格は92/93農年と同等、又はそれ以下(ブッシェル当りU\$2,00、\$2,10、トン当り\$78,74-、\$82,67)となろうと予想されている。

ハ) 国内市場

1992/93農年度とうもろこしの販売は、高価格のため前年よりも有利な状況にあった。サンパウロ州におけるとうもろこしの季節別、ドル換算価格の変動をみると、93年の最初の8ヶ月間は87~91年と同様の価格水準にあったが、7月以降価格の上昇がみられた。



供給量が増加した92年の場合と異って、93年の価格推移は4~6月にかけて政府の市場介入(政府在庫の放出)に敏感に反応している。3~6月の間、サンパウロ州の生産量は1俵あたり平均\$6,37の価格を受取っているが、これは前年の価格水準を16%上回るものであった。

サンパウロ州及びパラナ州の生産者受取価格の推移、政府の市場介入価格(最低保証価格、在庫放出価格等)については次の事項が明らかとされている。

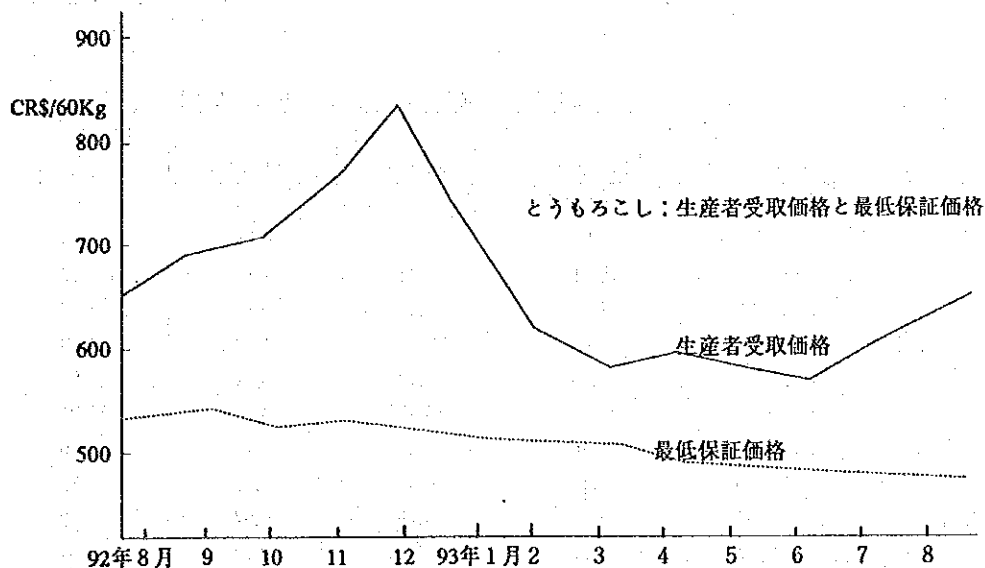
イ) 92年8月~93年8月間、最低保証価格及びPLE(政府在庫放出価格)は、それぞれ-16%及び-19%低下した。これは新しく設定された調整指数TRが完全に通貨価値の修正を行わなかったことによる。

ロ) 92年8月に設定された92/93農年の最低価格は、新期の作付けをセーブするため実質5%の引下げが行われたが、それでもパラナ州やゴヤス州では市場価格を上廻るものであった。

ハ) サンパウロ市の卸市場価格は、サンパウロ州内の生産者価格に平行し、93年7月以降はPLEを上廻った。この状態は94年2月まで続いたが、現行の規定によると市場価格がPLEを上廻る場合、政府は商品取引所を通じ、政府在庫の販売を行うことになっており、この規定に従う競売が実施された。

実質価格の上昇は、生産の減少と国内消費の増加を反映するものであるが、このほか、消費者価格を構成する販売コスト(貯蔵及び輸送コスト)の上昇をもその要素としている。ゴヤス州のとうもろこしを購入する東北地方の飼料工場などがこの例に相当する。

93年の最低価格は前年並みにCR\$438,60/60Kg(0,4394UREF)を基準価格とした。(南部、南東部、中西部-マツト・グロツソ州を除く-及びバイア州南部)93年には、地域別の最低価格制度が再び採用されており、マツト・グロツソ州ではCR416,40/60Kgでサンパウロ州などより5,06%低い価格となっている。



とうもろこしの輸入関税は、メルコスール諸国の場合0%、その他の国の場合は10%が課税されるが、他地域よりの供給に依存する東北地方では、米国よりの輸入関税を免除するよう政府との交渉を行っている。この場合、米国産コストはアルゼンチン産品や国内ではゴヤス州産品を購入するよりも低いものとなる。

表 6 6

とうもろこし：需給状況

1,000 t

項 目	1988/89	89/90	90/91	91/92	92/93
期首在庫	2,798,0	3,097,7	1,237,1	822,7	3,433,5
生産量	26,266,8	22,257,4	24,041,4	30,770,8	28,819,9
輸入量	154,9	700,0	832,2	340,0	980,0
供給量計	29,219,7	26,037,1	26,110,7	31,933,5	33,233,4
消費量	26,140,0	24,800,0	25,288,0	28,500,0	30,000,0
輸出品	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0
期末在庫	3,079,7	1,237,1	822,7	3,433,5	3,233,4

出所：CONAB

93/94年度は生産の減少、消費の増加、とくに鶏、豚、卵部門の需要増加や生産資材との交換係数の好転などから、とうもろこしの生産分野は、経済的に良好な条件下にある。とうもろこし生産の収益に大きな影響を与える生産資材部門では、93年3~6月間の肥料の平均価格は前年と比較してトン当たり(-)18,2%~(-)15,2%低く、種子価格も(-)1%低かった。

中央、南部地方ではとうもろこしの栽培が、市況のいい大豆に切り換えられる予想であるが、病害の蔓延予防のため大豆も輪作を必要とするところから、とうもろこしの栽培面積が全面的に大豆作に切り換えられる訳ではない。大豆のほか、砂糖キビも、とうもろこしより切換えられる可能性のある作物である。

二) 生産コスト

IEA (サンパウロ州農務局、農業経済研究所) が発表した93/94農年のとうもろこし生産コスト予想は下表の通りである。これによると州内リベイロン・プレット地方の場合、93年8月時点において1ヘクタール当たりのコストはUS\$332,55、1俵(60Kg)当たりUS\$4,16、アシスの場合、1ヘクタール当たりのコストはUS\$238,50、1俵当たりUS\$3,18となっている。いづれも中大農場での機械耕作の場合である。

表 67 とうもろこし：生産コスト予想 (93/94) (A)

項 目	C R		US\$		構 成 比 (%)
	1 haあたり	1 俵あたり	1 haあたり	1 俵あたり	
労 務 費	1,344,00	16,80	15,99	0,20	4,81
種 子	1,882,75	23,53	22,41	0,28	6,74
肥料 石灰	7,880,59	98,51	93,78	1,17	28,20
農 薬	1,026,00	12,83	12,21	0,15	3,67
機械維持費	6,714,71	83,93	79,91	1,00	24,03
運 搬 費	2,952,00	36,90	35,13	0,44	10,56
小 計	21,800,05	272,50	259,43	3,24	78,01
機械償却費	2,756,41	34,46	32,80	0,41	9,86
金融費用	761,89	9,52	9,07	0,11	2,73
社会保障費	443,52	5,54	5,28	0,07	1,59
保 險 料	1,220,80	15,26	14,53	0,18	4,37
諸 税	961,31	12,02	11,44	0,14	3,44
合 計	27,943,98	349,30	332,55	4,16	100,00

出所：IEA サンパウロ州 リベイロン・プレット地方
機械耕作により1ha当り80俵(60Kg入)収穫の場合
交換レート 1993年8月 US\$1,00=CR 84,03

表 68 とうもろこし：生産コスト予想 (93/94) (B)

項 目	C R		US\$		構 成 比 (%)
	1 haあたり	1 俵あたり	1 haあたり	1 俵あたり	
労 務 費	444,75	5,93	5,29	0,07	2,22
種 子	2,224,10	29,65	26,47	0,35	11,10
肥料 石灰	5,833,85	77,78	69,43	0,93	29,11
農 薬	4,419,21	58,92	52,59	0,70	22,05
機械維持費	3,148,11	41,97	37,46	0,50	15,71
運 搬 費	-	-	-	-	-
小 計	16,070,02	214,27	191,24	2,55	80,19

機械償却費	1,461.55	19.49	17.39	0.23	7.29
金融費用	561.63	7.49	6.68	0.09	2.80
福利費	146.77	1.96	1.75	0.02	0.73
保険料	899.92	12.00	10.71	0.14	4.49
社会保障基金	901.23	12.02	10.73	0.14	4.50
合計	20,041.12	267.21	238.50	3.18	100.00

出所：IEA サンパウロ州 アシス地方
 機械耕作により1ha当り75俵(60Kg入)収穫の場合
 交換レート 1993年8月 US\$1.00=CR 84.03

3・1・2 米
 イ) 生産

表 69 米：1992年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	単 収 Kg/ha
ピタゴラデ・ド・スル	899.7	898.1	4,568.3	5.087
マット・グロッソ	616.4	571.7	850.7	1.488
ミナス・ジェライス	435.9	430.8	726.9	1.687
サンタ・カタリーナ	150.9	149.8	689.1	4.599
ゴヤス	430.5	416.5	591.3	1.420
マラニョン	799.7	760.9	400.9	527
サン・パウロ	189.5	189.5	337.2	1.780
トカンチンス	213.2	200.3	319.2	1.593
マト・グロソ・ド・スル	145.8	129.0	225.6	1.749
パラナ	127.5	127.5	214.1	1.679
その他	837.2	812.9	1,038.6	-
全国計	4,846.3	4,687.0	9,961.9	2.125

出所：IBGE

表 70 米：1993年の生産状況 (93年10月調査)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	単 収 Kg/ha
ピタゴラデ・ド・スル	981.5	981.5	4,965.2	5.059
ミナス・ジェライス	417.1	402.7	705.2	1.751
マラニョン	788.5	739.9	651.7	881
マット・グロッソ	551.2	501.4	605.9	1.208
サンタ・カタリーナ	146.5	146.1	599.4	4.104
ゴヤス	349.6	304.4	383.7	1.260
サン・パウロ	164.2	164.2	311.1	1.895
トカンチンス	174.0	165.8	305.4	1.842
パラナ	194.3	193.4	285.1	1.474
マト・グロソ・ド・スル	116.7	109.5	220.2	2.010
その他	775.8	734.8	1,153.0	-
全国計	4,659.4	4,443.7	10,185.9	2.292

出所：IBGE

92/93農年の国内生産量については、政府の調査機関によって可成りの相違があり、IBGEが10、18百万トンと推定しているのに対し、CONABの調査結果は9、9百万トンで1百万トンの違いがある。CONABによると、中西部地方における長期乾燥の被害は大きく、前年と同様の気象条件下であったが、IBGEはこれを過少評価したために両者の推定量が大きく異ったものであるとしている。

いづれにしても92/93農年の国内生産量は、ほぼ10百万トンで5年前に達した11百万トンを下廻ったことは確かである。92/93農年の栽培面積は、4、44百万ヘクタールで前年を(-)5、5%減少していたが、反収が前年を(+)8%上廻ったことから生産量の増加となった。栽培面積は中西部地方において(-)15%の大巾な減少をみたが、反収の高いリオ・グランデ・ド・スール州の水田栽培面積が増加(6%)したのが全体の生産量を増やした理由の1つとなっている。

表 7 1

米：過去5ヶ年間の生産推移

1,000 t

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
リオ・グランデ・ド・スール	3,968,9	3,194,4	3,809,8	4,568,3	4,965,2
ミナス・ジェライス	764,7	580,1	784,2	726,9	705,2
マラニョン	1,094,3	464,8	970,3	400,9	651,7
マツト・グロッソ	890,2	420,7	466,1	850,7	605,7
サンタ・カタリーナ	555,1	567,7	597,1	689,1	599,4
そ の 他	3,771,3	2,190,8	2,868,4	2,636,0	2,658,7
全国計	11,044,5	7,418,5	9,495,9	9,961,9	10,185,9

収穫面積 1,000ha	5,250,1	3,944,9	4,127,3	4,687,0	4,443,7
--------------	---------	---------	---------	---------	---------

出所：IBGE

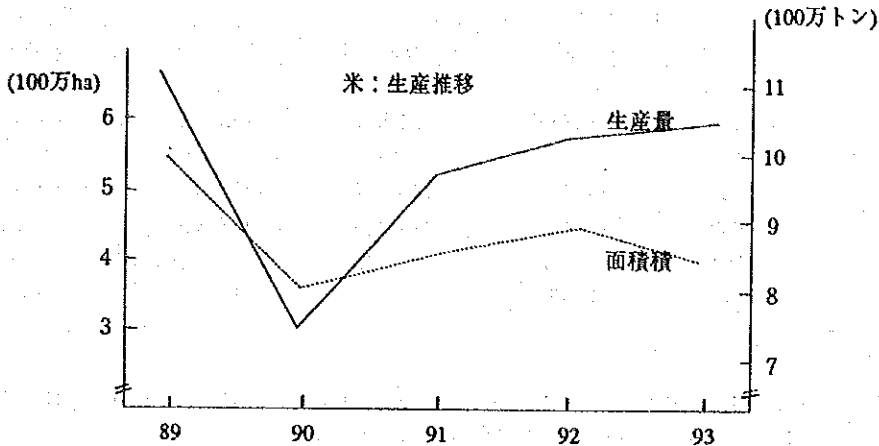
表 7 2

米：主要生産地の反収

kg/ha

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
リオ・グランデ・ド・スール	1,936	4,576	4,738	5,087	5,059
ミナス・ジェライス	1,641	1,373	1,783	1,687	1,751
マラニョン	1,172	684	1,278	527	881
マツト・グロッソ	1,453	1,184	1,534	1,488	1,208
サンタ・カタリーナ	3,585	3,730	4,588	4,599	4,104
全国計	2,104	1,881	2,301	2,125	2,292

出所：IBGE



〔国際市場〕

USDAの推定によると92/93農年(2~1月)における米の世界生産量は、351百万トン、これに対する世界の消費量は354百万トンで、次期への繰越在庫量は54百万トンと算出されている。この在庫量は、世界消費量の15%に相当するもので極めて高いレベルにあり、価格を押える大きな要素となっている。

1993/94農年についてUSDAが93年7月に行った推定によると、世界の生産量は347百万トンと前年を(-)2,0%減少するのに対し、世界の消費量は前年と同水準と思われるので、期末在庫に若干の減少が予想されている。一方、世界の貿易量は約14,5百万トンで前年と同規模である。

米の国際価格は、輸出国間の激しい競争や輸出国における直接間接の補助等に影響されて変動を繰り返しており、タイ国産米価格はバンコック渡して93年中期にトンあたり200ドルを割っているが、これは約300ドルを平均価格としてきた過去20年間最低の価格であった。それでも7月以降は価格の回復がみられ、更に年末にかけて日本の輸入開始により上昇傾向を強めた。

世界の主要輸出国はタイ及びベトナムで米国とパキスタンがこれに続いている。この中、米国政府は輸出補助プログラムを通じ、米の輸出を積極的に押しすすめており、93/94農年に230万トンの輸出を目標としているが、これは前年比130%の増加となる。

FAOのデータによるとメルコスール圏内では、アルゼンチン、ウルグアイ及びパラグアイが輸出国の立場にあり、メルコスール内ではブラジル、その他の国ではペルー、メキシコ、中東諸国への輸出を行っている。92/93農年におけるブラジルの輸入量は、720千トンで、この中670千トンがメルコスール内部による供給量であった。93/94農年についても輸入量及び輸入先国は前年と同様の見込みである。メルコスール圏内では自由貿易の特典があること、距離が近く輸入コストが低いことから優先される市場である。ただし価格はアジア諸国の低い相場が基準とされており、メルコスールよりの輸入価格もこれが基準となっている。

CONABが行ったコスト計算によると、米国でトン当りUS\$165の米は、ブラジルの市場着価格がUS\$11,-/50Kg、これに対して国産米はUS\$9,-以下であるが、アジア産米はトン当りUS\$215,-のものがブラジルでは、US\$12/30Kgで売られており、国産品のUS\$12,60より安い。

この計算は米の輸入関税率15%を設定するために行われたものであるが、同関税率はその直後連邦政府がすすめている関税引下げプログラムにより10%引下げられている。やがて本格的に動き出すメルコスールでは、第3国に対する共通対外関税が設定されることになっている。

国内生産が10百万トンで停滞しているのに対し、消費量は11百万トンであるため、ブラジルは恒久的な輸入国であり、その規模は世界第5位の大型輸入国である。

ハ) 国内市場

表 7 3

米：需給バランス

1,000トン

項 目	8 8 / 8 9	8 9 / 9 0	9 0 / 9 1	9 1 / 9 2	9 2 / 9 3
期首在庫	3,938.4	4,472.9	2,147.3	2,218.6	1,687.0
生産量	11,092.0	7,967.6	9,996.8	10,102.8	9,902.8
輸入量	252.5	717.6	1,296.6	700.0	700.0
供給量計	15,282.9	13,158.1	13,440.7	13,021.4	12,289.8
国内消費量	10,800.0	11,000.0	11,220.0	11,332.2	11,445.5
輸出量	10.0	10.8	2.1	2.2	2.2
期末在庫	4,472.9	2,147.3	2,218.6	1,687.0	842.1

出所：CONAB

国産量の不足から国内供給は、輸入品によって補完されているにもかかわらず供給量は減少傾向にあり、次期繰越在庫量は92/93農年において過去5ヶ年間の最低に落ちている。

国内消費に関しては、年間1%増の計算が行われているが、これは人口の増加率を下廻る増加率である。このように可成りゆとりのない供給状況にあったにもかかわらず、米の生産者受取価格は低く、91年のレベルに戻らず低迷を続けた。93年の場合、南部地方では最低価格以下に落ち、中西部地方も最低価格とほぼ同水準にあった。南部地方では搬出制限を行って価格の反発を試みたが効果はなかった。

表 7 4

米：生産者受取価格（93年8月を基準とした実質価格）

CR

年 度	南 部 地 方	サンパウロ州	中西部地方	最低価格(水稲)	最低価格(陸稲)
1988	744	998	886	927	964
89	780	1,150	909	760	726
90	561	782	607	551	577
91	1,104	938	963	651	561
92	598	721	583	777	687
93	623	800	665	744	657
平均	735	898	769	735	695

出所：FGV

表 7 5

米：サンパウロ州の生産者受取価格

CR/60Kg

月 別	1990	1991	1992	1993	平均
1	1.152	1.644	1.217	1.025	1.247
2	1.112	1.508	985	938	1.145
3	823	1.392	917	818	1.032
4	803	1.389	939	750	1.031
5	907	1.386	1.031	742	1.073
6	945	1.308	1.107	719	1.164
7	936	1.202	910	842	1.110
8	926	1.128	1.004	903	1.097
9	988	1.186	1.074	...	1.185
10	1.102	1.290	1.041	...	1.202
11	1.330	1.231	1.149	...	1.264
12	1.344	1.120	1.060	...	1.224
平均	1.031	1.315	1.036	842	1.148

出所：IEA

収穫期間中、リオ・グランデ・ド・スール州では生産者団体を通じ連邦政府に対し、E G F（政府の販売融資）の貸付け、債務の再交渉、メルコスールよりの輸入に対する輸入関税の設定を要求する動きがあった。この要請事項の中、メルコスールに関連する問題は国内事情のみで変更出来ないで受入れられなかったが、他の事項は受入れられ、E G Fの決済時期の延長、債務のケース・バイ・ケースの交渉と、期日に返済出来ない分の再融資契約等が取決められている。しかし、価格の方は国内価格と競合出来る輸入の可能性が常にあったため、国内価格の上昇は押えられた。

93/94農年に対して定められた最低価格水準は、陸稲の場合、前年をやや下廻っており、生産コストに対するVBC（融資基準額）の割合は陸稲の場合86%、水稲の場合は70%、又生産コストと最低価格との関係は陸稲が80%、水稲が104%で、それぞれ前年の96%及び145%を下廻った。

ハ) 生産コスト

サンパウロ州農務局農業経済研究所が発表した93/94農年の水稲（サンパウロ州サン・ジョゼ・ドス・カンボス地区）及び陸稲（サンパウロ州リベイロン・プレット地区）の生産コスト予想は次表の通りである。

表 76 米の生産コスト予想（93/94）水稲

項 目	C R		U S \$		構 成 比 (%)
	1 haあたり	1 俵あたり	1 haあたり	1 俵あたり	
労 務 費	4.620,42	66,01	54,99	0,79	8,08
種 子	4.300,00	61,43	51,17	0,73	7,52
肥 料	3.880,00	55,43	46,17	0,66	6,79
農 薬	18.923,25	270,33	225,20	3,22	33,11
機械維持費	13.150,37	187,86	156,50	2,24	23,01
風 袋	1.750,00	25,00	20,83	0,30	3,06
小 計	46.624,05	666,06	554,85	7,93	81,57
機械償却費	5.492,02	78,46	65,36	0,93	9,61
金融費用	934,91	13,36	11,13	0,16	1,64
福 利 費	1.524,74	21,78	18,15	0,26	2,67
保 險 料	1.027,92	14,68	12,23	0,17	1,80
社会保障基金	1.553,30	22,19	18,49	0,26	2,72
合 計	57.156,94	816,53	680,20	9,72	100,00

出所：I E A サンパウロ州サン・ジョゼ・ドス・カンボス地区、機械耕作、1 ha当り70俵（60Kg）収穫
 交換レート 93年8月 US\$1,00=CR 84,03

表 77 米の生産コスト予想（93/94）陸稲

項 目	C R		U S \$		構 成 比 (%)
	1 haあたり	1 俵あたり	1 haあたり	1 俵あたり	
労 務 費	2.142,00	79,33	25,49	0,94	8,25
種 子	1.200,00	44,44	14,28	0,53	4,62
肥料・石灰	6.709,21	248,49	79,84	2,96	25,85
農 薬	285,12	10,56	3,39	0,13	1,10
機械維持費	6.755,84	250,22	80,40	2,98	26,03
収穫請負費	3.000,00	111,11	35,70	1,32	11,56
風 袋	675,00	25,00	8,03	0,30	2,60
小 計	20.767,17	769,15	247,14	9,15	80,01
機械償却費	2.589,75	95,92	30,82	1,14	9,98

金融費用	531,02	19,67	6,32	0,23	2,05
福利費	706,86	26,18	8,41	0,31	2,72
保険料	1,362,32	50,46	16,21	0,60	5,25
社会保障基金	442,83	16,40	5,27	0,20	1,71
合計	25,957,12	961,37	308,90	11,44	100,00

出所：IEA サンパウロ州リベイロン・プレット地方、機械耕作、1ha当り27俵(60Kg)収穫の場合

3・1・3 フェイジョン

イ) 生産

表 78

フェイジョン：1992年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
パラナ	582,4	582,4	450,6	774
バイア	818,1	740,3	449,1	607
サンタ・カタリーナ	390,3	385,8	370,4	960
サン・パウロ	332,4	332,4	310,1	933
ミナス・ジェライス	554,2	503,0	284,1	565
ピョーラズ・ド・メル	223,6	223,4	190,6	853
ゴヤス	151,6	147,0	113,3	771
セアラ	651,8	566,2	104,4	184
パライーバ	306,4	306,4	69,2	226
その他	1,521,1	1,355,1	453,2	-
全国計	5,531,9	5,142,0	2,795,0	543

出所：IBGE

表 79

フェイジョン：1993年の生産状況(93年10月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
パラナ	579,2	574,4	458,8	799
ミナス・ジェライス	525,8	521,7	362,1	694
サン・パウロ	274,4	274,4	302,4	1,102
バイア	698,1	628,5	301,3	479
サンタ・カタリーナ	355,3	353,2	293,5	831
ピョーラズ・ド・メル	203,6	203,5	156,2	768
ゴヤス	148,2	141,4	119,6	846
ロンドニア	154,2	154,2	85,8	556
エスピリト・サント	71,7	71,7	57,0	795
その他	1,762,2	1,103,2	349,6	-
全国計	4,772,7	4,026,2	2,486,3	618

出所：IBGE

IBGEの生産状況調査によると92/93農年のフェイジョン収穫量は、2,48百万トンと推定されており、前年の生産量を10%以下減少する見込みである。1989/90農年より92/93農年にいたる4農年の平均生産量は2,6百万トンで、89/90農年の2,2百万トンを最低、91/92農年の2,8百万トンを最高としている。上記2,6百万トンの平均値が市場価格や最低価格の1つの基準とされている。

各農年の始めにその年の融資政策や最低価格制度が発表されるが、生産者の作付意志を決定させるものは、

何といっても市場価格動向であり、これが高ければ作付けは増加し、低ければ減少する変動を続けてきた。又、栽培技術の向上により、より高い生産性と品質が保証され、消費市場に対する供給態勢が作られてきた。

土地や気象条件によって栽培を困難としてきた地域では、かんがい栽培、改良種子の利用、技術指導の契約などが行われており、栽培技術上の問題点が解決されている。国内ではパラナ、ミナス・ジェライス、サンパウロ、パイア及びサンタ・カタリーナ州を主要生産地帯としている。

表 80 フェイジョン：過去5ヶ年間の生産推移 1,000 t

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
パラナ	226,1	279,0	348,3	450,6	458,8
ミナス・ジェライス	252,0	293,4	333,3	284,1	362,1
サン・パウロ	319,3	217,3	282,9	310,1	302,4
パイア	192,1	227,2	359,3	449,1	301,3
サンタ・カタリーナ	268,8	280,8	197,5	370,4	293,5
リオ・グランド・ドゥ・ノルテ	143,5	140,6	99,5	190,6	156,2
その他	908,7	794,3	1.128,4	740,1	-
全国計	2.310,5	2.233,1	2.749,2	2.795,0	2.486,3

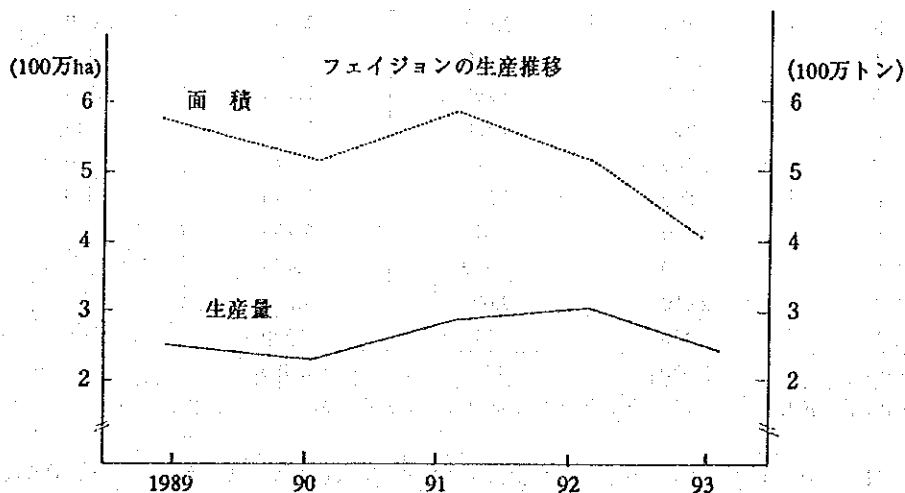
収穫面積 1,000ha	5.181,0	4.680,1	5.442,8	5.142,0	4.026,2
--------------	---------	---------	---------	---------	---------

出所：IBGE

表 81 フェイジョン：主要生産地の反収 Kg/ha

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
パラナ	430	507	558	774	799
ミナス・ジェライス	484	561	604	565	694
サン・パウロ	884	739	905	933	1.102
パイア	312	383	510	607	479
サンタ・カタリーナ	772	695	527	960	831
全国平均	446	477	505	543	618

出所：IBGE



ロ) 国内市場

表 8 2 フェイジョンの需給状況 1,000 t

内 訳	1988/89	89/90	90/91	91/92	92/93
期首在庫	265,3	76,7	116,1	372,8	537,3
生産量	2.386,4	2.339,9	2.806,2	2.902,4	2.402,9
輸入量	25,0	70,3	88,6	57,7	35,0
供給量計	2.676,7	2.486,9	3.010,9	3.332,9	2.975,2
国内消費量	2.600,0	2.370,8	2.638,1	2.759,6	2.795,6
余 剰	76,7	116,1	372,8	537,3	179,6
輸 出 量	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0
期末在庫	76,7	116,1	372,8	537,3	179,6

出所: CONAB

CONAB (国家供給局) のデータによると92/93農年におけるフェイジョンの供給総量は、35千トンの輸入品を加えて2,75百万トンで、推定消費量をわずかに上回る量である。このため期末在庫は前年を大巾に下回るが、消費が急増する要素はないので国内供給に支障はなかった。

サンパウロ州の生産者受取価格を1993年8月の価格を基準とした実質価格でみると、過去4年間の中では、91年がもっとも高く、同年5月に記録されたCR5.200/60Kgを最高の価格としている。もっとも低かったのは、92年で供給過剰による価格の低下があり、同年6月のCR1.810/60Kgは過去4年間でもっとも低い価格であった。93年は5月に、CR4.160/60Kgに達したあとと下降している。92年12月には92/93農年第1回作の販売が開始されているが、その価格は90、91年を上回るものであった。93年の上半期に価格が上昇したのは、東北地方の減産が確定的となったことや、政府在庫の中100千トン为国がすすめた飢餓、貧困対策の中で無料で支給され、政府の在庫を減少させたことなどが影響している。93年5月の価格をドルに換算するとUS\$50/60Kgとなる。

表 8 3 フェイジョン: 生産者受取価格 CR/60Kg

月 例	1990	1991	1992	1993
1	3.130	2.570	1.970	2.440
2	2.260	2.760	2.010	2.310
3	2.690	2.880	2.460	2.680
4	2.920	4.510	2.460	3.590
5	2.950	5.200	2.140	4.160
6	3.290	4.520	1.810	3.250
7	3.260	3.520	2.220	2.330
8	2.690	2.590	2.740	2.570
9	2.720	2.670	3.100	...
10	3.200	2.740	3.420	...
11	2.910	2.020	3.520	...
12	2.430	2.270	2.770	...
平均	2.870	3.190	2.550	...

出所: IEA 1993年8月を基準とした実質価格

93/94農年に対しては、フェイジョンの生産拡大に対する措置はとくにとられていない。融資及び最低保証価格も従来のレベルが維持されており変更はない。1Kgあたりの最低価格(雨期作)は1993年11月

～94年3月の間1,56253 UREF (農産品基準単位) で毎月調整されることとなっている。又、VBC (生産融資基準額) は968,883 UREFで零細農に対し90%、その他の生産者に対し80%の融資が行われた。サンパウロ州の場合、1ヘクタールあたりの反収が601～1,000Kgに対しCR10,505、(93年8月価格)であったが、これは生産コストの直接費 (CR26,504) の39,6%をカバーするにすぎないものであった。

ハ) 生産コスト

サンパウロ州農務局農業経済研究所が発表した93/94農年の生産コスト予想は次表の通りである。

表 84 フェイジョン：生産コスト予想 (93/94)

項 目	C R		US\$		構 成 比 (%)
	1 haあたり	1 俵あたり	1 haあたり	1 俵あたり	
労 務 費	2,164,64	80,17	25,76	0,95	6,34
種 子	4,025,00	149,07	47,90	1,78	11,78
肥料・石灰	8,491,83	314,51	101,06	3,74	24,86
農 薬	3,969,17	147,01	47,24	1,75	11,62
機械維持費	5,513,53	204,21	65,61	2,43	16,14
収 穫	1,665,06	61,67	19,82	0,73	4,88
風 袋	675,00	25,00	8,03	0,30	1,98
直接コスト計	26,504,23	981,64	315,42	11,68	77,60
機械償却費	2,262,60	83,80	26,93	1,00	6,62
金融費用	690,33	25,57	8,22	0,30	2,02
福 利 費	714,33	26,46	8,50	0,32	2,09
保 険 料	2,480,80	91,88	29,52	1,09	7,26
社会保障基金	1,504,57	55,72	17,91	0,66	4,41
合 計	34,156,86	1,265,06	406,50	15,05	100,00

出所：IEA サンパウロ州ソロカバ地区、機械耕作、1haあたり27俵 (60Kg) 収穫の場合
 交換レート 1993年8月US\$1,00=CR 84,03

3・1・4 ソルガム

(生産状況)

表 85 ソルガム：1992年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反 収 Kg/ha
サトウキビ	51,1	51,1	101,6	1.988
サン・パウロ	40,7	40,7	91,5	2.250
バイア	39,5	39,4	48,2	1.223
マトト・グロツソ	14,4	14,4	28,0	1.945
ゴヤス	5,2	5,1	8,8	1.700
サトウキビ	6,3	6,3	4,4	696
パラナ	0,6	0,6	1,3	2.059
その他	2,0	1,5	1,6	-
全国計	159,8	159,1	285,4	1.794

出所：IBGE

表 86 ソルガム：1993年の生産状況（93年10月調査）

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
リオ・グランデ・ド・ノル	43,3	43,3	95,6	2.206
サン・パウロ	36,7	36,7	85,7	2.334
ゴヤス	20,6	20,6	29,8	1.451
バイア	24,4	23,7	28,1	1.188
マット・グロソ	5,5	4,7	6,5	1.370
マト・グロソ・ド・ノル	3,1	2,4	2,5	1.049
パラナ	0,2	0,2	0,5	2.052
その他	0,7	0,5	0,4	-
全国計	134,5	132,1	249,1	1.886

出所：IBGE

表 87 ソルガム：過去5ヶ年間の生産推移 1,000 t

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
リオ・グランデ・ド・ノル	75,9	97,8	63,1	101,6	95,6
サン・パウロ	83,9	94,4	92,7	91,5	85,7
ゴヤス	17,4	8,7	9,1	8,8	29,8
バイア	11,7	9,3	13,8	48,2	28,1
その他	52,2	17,7	75,8	35,3	9,9
全国計	241,1	227,9	254,5	285,4	249,1

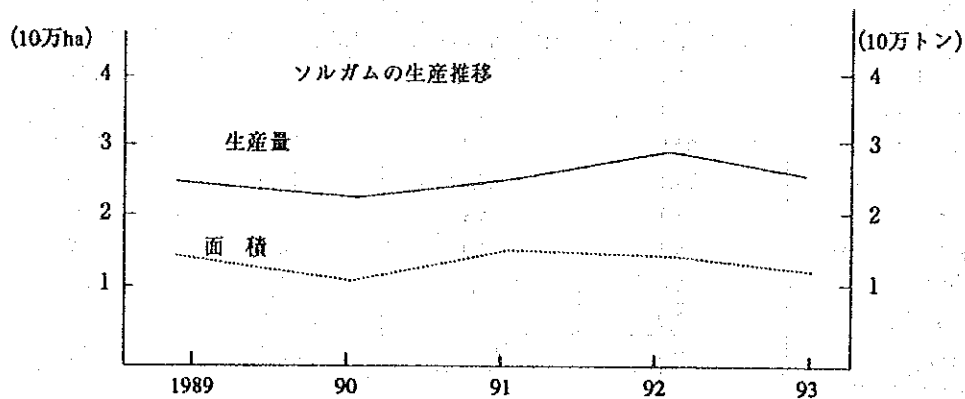
収穫面積 1,000ha	164,6	133,4	171,8	159,1	132,1
--------------	-------	-------	-------	-------	-------

出所：IBGE

表 88 ソルガム：主要生産地の反収 Kg/ha

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
リオ・グランデ・ド・ノル	1.650	1.964	1.467	1.988	2.206
サン・パウロ	2.155	2.064	2.090	2.250	2.334
ゴヤス	1.878	1.616	1.918	1.700	1.451
バイア	830	633	669	1.223	1.188
全国平均	1.465	1.708	1.481	1.774	1.886

出所：IBGE



3・1・5 小麦

イ) 生産

表 89 小麦：1992年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
パラナ	1,183.1	1,183.1	1,556.0	1,315
リオ・グランデ・ド・メル	489.3	489.3	905.3	1,850
マト・グロソ・ド・メル	156.9	139.7	114.3	818
サンタ・カタリーナ	72.1	72.1	106.3	1,476
サン・パウロ	68.3	68.3	102.0	1,486
ミナス・ジェライス	2.8	2.8	8.7	3,086
その他	2.5	19.7	3.4	-
全国計	1,975.0	1,975.0	2,796.0	1,428

出所：IBGE

表 90 小麦：1993年の生産状況（93年10月調査）

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
パラナ	930.0	565.0	1,023.0	1,811
リオ・グランデ・ド・メル	596.3	596.3	1,015.4	1,703
サンタ・カタリーナ	78.9	78.9	116.6	1,478
サン・パウロ	43.6	43.6	73.1	1,677
マト・グロソ・ド・メル	83.3	64.5	70.1	1,088
ミナス・ジェライス	5.2	4.6	17.0	3,674
その他	3.8	3.8	8.4	-
全国計	1,741.1	1,356.7	2,323.6	1,713

出所：IBGE

IBGEが93年10月時点で行った調査結果によると、93年度における小麦の国内生産量は2,3百万トンで、前年を(-)7,0%下廻っており、すでに長年にわたっている生産減少の傾向を続けている。

生産量の減少は栽培面積の減少(-14)にもとづくものであるが、生産者が小麦栽培への関心を失っているのは、ブラジル-アルゼンチンの両国間協定による小麦輸入の増大、国内販売の民営化、輸入の自由化などにより、国産小麦の競争力が落ちているためである。

表 91 小麦：過去5ヶ年間の生産推移

州 別	1,000 t				
	1989	1990	1991	1992	1993
パラナ	3,100.0	1,394.1	1,825.9	1,556.0	1,023.0
リオ・グランデ・ド・メル	1,174.1	1,168.4	682.7	905.3	1,015.4
サンタ・カタリーナ	115.2	108.3	103.5	106.3	116.6
サン・パウロ	355.8	203.0	141.8	102.0	73.1
マト・グロソ・ド・メル	360.6	204.0	155.9	114.3	70.1
その他	447.1	15.7	11.5	12.1	25.4
全国計	5,552.8	3,093.5	2,921.3	2,796.0	2,323.6

収穫面積 1,000ha	3,281.4	2,680.9	1,994.8	1,975.0	1,356.7
--------------	---------	---------	---------	---------	---------

出所：IBGE

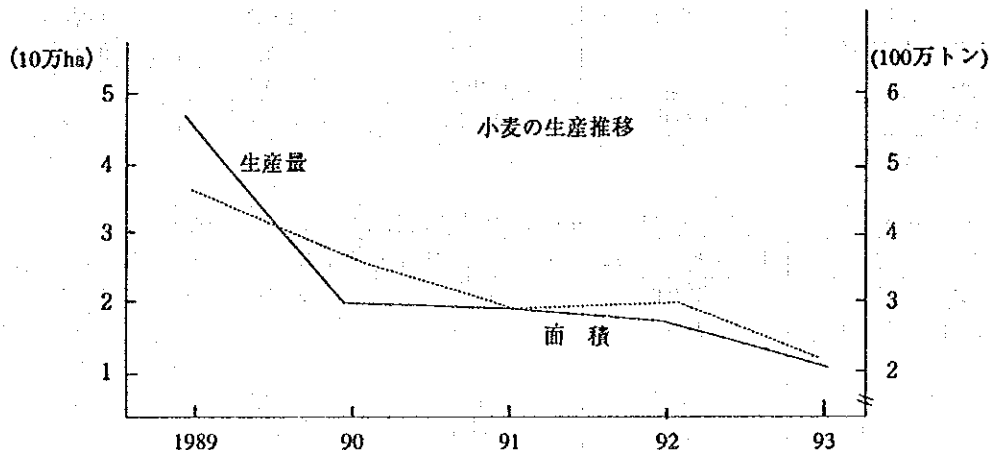
表 9 2

小麦：主要生産地の反収

Kg/ha

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
パラナ	1.610	1.164	1.687	1.315	1.811
リオ・グランデ・ド・メル	1.548	1.183	1.106	1.850	1.703
サンタ・カタリーナ	1.200	1.026	1.291	1.476	1.478
サン・パウロ	1.622	1.015	1.445	1.486	1.677
マト・グロソ・ド・メル	1.138	1.106	1.382	818	1.088
全国平均	1.692	1.154	1.464	1.428	1.713

出所：IBGE



ロ) 国内市場

最近の国内生産量は国内需要の30%程度を満たしているにすぎない。1987年頃600万トンの生産をあげて90%の需要を満たしていたのと比較して大きな変化である。小麦の国内消費量もここ3年間減少をたどっており、90年の7,6百万トンより93年は6,7百万トンに落ちたものと推定されている。この傾向は国民の購買力低下を反映したものと解釈されている。

93/94農年における小麦の輸入必要量は約5百万トンと推定されている。輸入必要量は国内需要の増減によって変化するので、政府の経済政策によって影響を受けるものであり、過去にも1986年のクルザードプランの時のように爆発的に消費が増加したこともあるが、現政府の経済政策下では目下のところ急激に消費が増加する予想もなく、大巾な輸入の増加も考えられていない。

国産小麦の品質は、輸入品と比較して劣るため製粉工場では外国品を求めており、これも輸入を増加させる理由の1つとなっている。政府の研究分野では、反収の増加を図るとともに品質を向上させる新しい品種の開発を今後の課題としている。

輸入品の中では、カナダ産小麦がもっとも品質が高く好まれている。カナダ産品はFOBUS\$104,-/tがブラジルに着くとUS\$174,-となるのに反し、アルゼンチン産品の場合はバイア・ブランカ港渡しUS\$120,-/tのものがブラジル着価格\$165,-と低く、価格面ではアルゼンチン産品の競争力が強い。これはメルコスール協定国のため関税が低いこと、近距離のため輸送コストが低いことをその理由としている。

3・1・6 大麦

表 93 大麦：1992年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
リオ・グランデ・ド・スール	41,9	41,9	73,0	1.744
パラナ	19,4	19,4	43,4	2.229
サンタ・カタリーナ	5,9	5,9	11,3	1.924
全国計	67,2	67,2	127,6	1.900

出所：IBGE

表 94 大麦：1993年の生産状況

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
リオ・グランデ・ド・スール	36,7	36,7	62,4	1.699
パラナ	24,0	24,0	55,2	2.300
サンタ・カタリーナ	7,4	7,4	14,2	1.923
全国平均	68,1	68,1	131,7	1.935

出所：IBGE

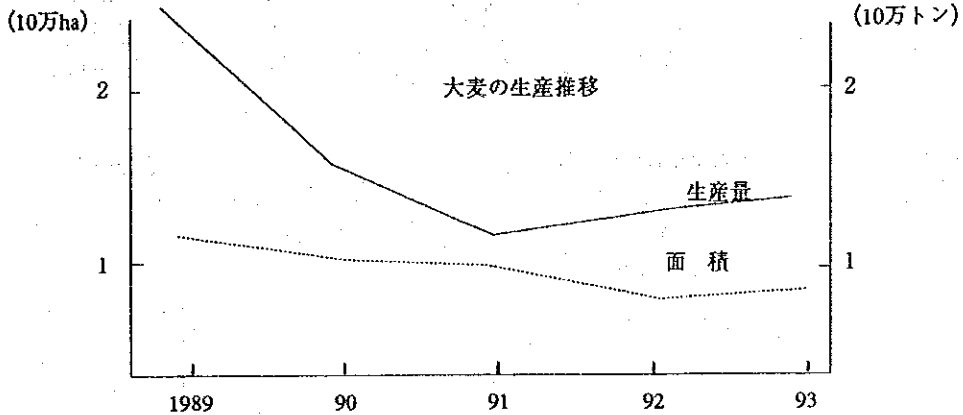


表 95 大麦：過去5ヶ年間の生産推移

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
リオ・グランデ・ド・スール	98,7	88,8	67,3	73,0	62,4
パラナ	80,0	50,8	31,1	43,4	55,2
サンタ・カタリーナ	45,7	17,7	12,1	11,3	14,2
全国計	248,2	157,4	110,5	127,6	131,7

1,000 t

収穫面積 1,000ha	113,4	105,1	97,2	67,2	68,1
--------------	-------	-------	------	------	------

出所：IBGE

表 96 大麦：主要生産地の反収

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
リオ・グランデ・ド・スール	1.774	1.394	1.016	1.774	1.699
パラナ	2.000	1.802	1.352	2.229	2.300

Kg/ha

サンタ・カタリーナ	1.891	1.346	1.527	1.924	1.923
全国平均	2.188	1.498	1.137	1.900	1.935

出所：IBGE

3・1・7 からす麦

表 97 からす麦：1992年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
リオ・グランデ・ド・ノール	207,5	207,5	217,2	1.046
パラナ	66,7	66,7	67,2	1.008
サンタ・カタリーナ	9,8	9,8	10,9	1.112
全国計	284,0	284,0	295,3	1.040

出所：IBGE

表 98 からす麦：1993年の生産状況（93年10月調査）

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
リオ・グランデ・ド・ノール	213,4	213,4	233,0	1.092
パラナ	41,0	41,0	49,2	1.200
サンタ・カタリーナ	8,4	8,4	10,0	1.179
全国平均	262,8	262,8	292,2	1.112

出所：IBGE

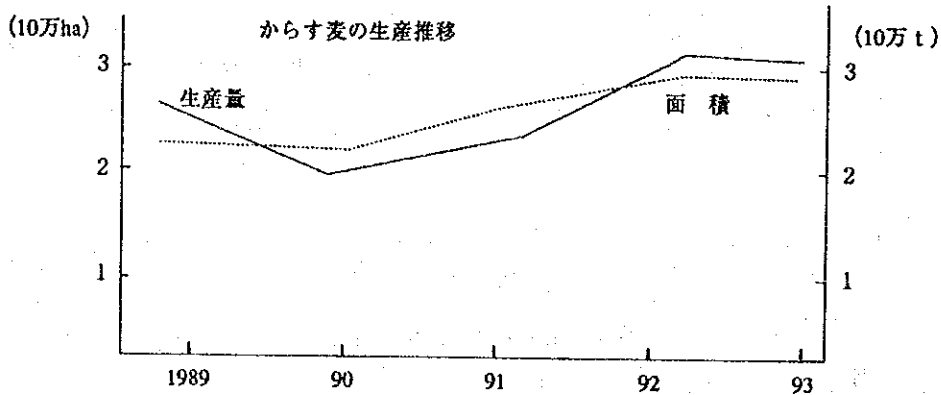


表 99 からす麦：過去5ヶ年間の生産推移 1,000 t

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
リオ・グランデ・ド・ノール	162,4	127,6	136,1	217,2	233,0
パラナ	54,4	34,3	74,1	67,2	49,2
サンタ・カタリーナ	22,6	12,3	18,2	10,9	10,0
全国計	253,9	174,2	228,4	295,3	292,2

収穫面積 1,000ha	203,8	188,9	263,4	284,0	262,8
--------------	-------	-------	-------	-------	-------

出所：IBGE

表 100

からす麦：主要生産地の反収

Kg/ha

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
リオ・グランデ・ド・スール	1.159	864	762	1.046	1.092
パラナ	1.700	1.088	1.051	1.008	1.200
サンタ・カタリーナ	1.200	1.283	1.270	1.112	1.179
全国平均	1.158	922	867	1.040	1.112

出所：IBGE

3・1・8 ライ麦

表 101

ライ麦：1992年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
リオ・グランデ・ド・スール	3,3	3,3	4,2	1.243
パラナ	3,2	3,2	2,7	836
サンタ・カタリーナ	0,1	0,1	0,1	923
全国計	6,7	6,7	7,0	1.041

出所：IBGE

表 102

ライ麦：1993年の生産状況

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
リオ・グランデ・ド・スール	3,9	3,9	4,7	1.189
パラナ	1,2	0,7	0,8	1.100
サンタ・カタリーナ	0,1	0,1	0,1	923
全国平均	5,3	4,8	5,6	1.168

出所：IBGE

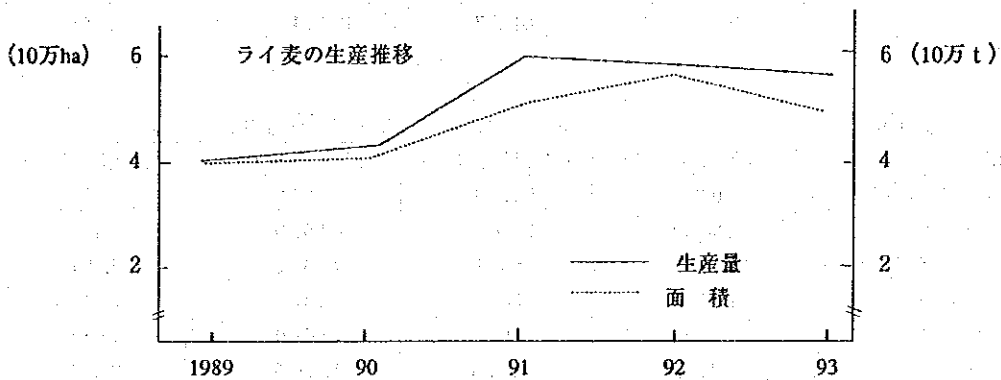


表 103

ライ麦：過去5ヶ年間の生産推移

1,000 t

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
リオ・グランデ・ド・スール	2,1	3,0	2,6	4,2	4,7
パラナ	3,1	1,4	3,6	2,7	0,8
サンタ・カタリーナ	0,6	0,2	0,1	0,1	0,1
全国計	4,0	4,5	6,3	7,0	5,6
収穫面積 1,000ha	3,9	4,4	5,2	6,7	4,8

出所：IBGE

表 104

ライ麦：主要生産地の反収

Kg/ha

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
リオ・グランデ・ド・スル	1.384	791	1.216	1.243	1.189
パラナ	1.400	1.224	1.217	836	1.100
サンタ・カタリーナ	1.516	846	693	923	923
全国平均	1.043	1.032	1.203	1.041	1.168

出所：IBGE

3・2 油脂原料作物

3・2・1 大豆

イ) 生産

表 105

大豆：1992年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
リオ・グランデ・ド・スル	2.876,9	2.876,6	5.629,5	1.957
マツト・グロツソ	1.459,2	1.453,7	3.642,7	2.506
パラナ	1.810,7	1.810,7	3.440,5	1.900
リオ・グランデ・ド・スル	949,1	940,9	1.871,2	1.989
ゴヤス	825,3	822,9	1.797,7	2.185
ミナス・ジェライス	492,3	471,7	974,1	2.065
サン・パウロ	465,6	465,6	853,8	1.834
バイア	320,0	320,0	480,0	1.500
サンタ・カタリーナ	205,3	203,7	367,4	1.803
ブラジリア	42,0	42,0	92,8	2.210
その他	28,0	27,9	35,2	-
全国計	9.474,4	9.435,7	19.184,9	2.033

出所：IBGE

表 106

大豆：1993年の生産状況（93年10月調査）

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	反収 Kg/ha
リオ・グランデ・ド・スル	3.078,3	3.078,3	6.067,5	1.971
パラナ	2.080,0	2.076,0	4.867,0	2.344
マツト・グロツソ	1.685,3	1.684,1	4.132,2	2.454
リオ・グランデ・ド・スル	1.071,0	1.066,1	2.287,0	2.145
ゴヤス	983,5	982,0	2.001,9	2.039
ミナス・ジェライス	553,8	552,7	1.120,6	2.027
サン・パウロ	490,0	490,0	976,2	1.992
バイア	380,0	380,0	590,7	1.554
サンタ・カタリーナ	220,2	220,2	435,2	1.976
ブラジリア	44,8	44,8	95,2	2.126
その他	58,9	59,0	115,0	-
全国計	10.645,8	10.633,2	22.688,5	2.134

出所：IBGE

IBGEのデータによると92/93農年の国内生産量は22,69百万トンで前年と18,3%上廻って

いる。これは栽培面積における6, 9%増に加え1ヘクタール当りの反収が前年の2, 033Kgより2, 134Kgへと大巾に向上したためである。

過去5ヶ年間の推移でみると、栽培面積、生産量とも1989年の12, 2百万ha、24, 1百万トンを最高とし、91年に大巾に落ちたあと再び増加傾向に入っており、89年の記録に近づきつつある。

表 107 大豆：過去5ヶ年間の生産推移 1,000 t

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
リオ・グランデ・ド・メル	6,296,3	6,313,5	2,220,5	5,629,5	6,067,5
パラナ	5,060,0	4,649,8	3,531,2	3,440,5	4,867,0
マツト・グロツソ	3,795,4	3,064,7	2,738,4	3,642,7	4,132,2
マト・グロツソ・ド・メル	2,845,8	2,038,6	2,017,9	1,871,2	2,287,0
ゴヤス	2,155,8	1,258,4	1,661,3	1,797,7	2,001,9
ミナス・ジェライス	1,169,0	748,8	976,8	974,1	1,120,6
その他	2,749,1	1,813,8	1,792,0	1,829,2	2,204,3
全国計	24,071,4	19,887,6	14,938,1	19,184,9	22,680,5

収穫面積 1,000ha	12,211,2	11,481,1	9,618,3	9,435,7	10,633,2
--------------	----------	----------	---------	---------	----------

出所：IBGE

表 108 大豆：主要生産地の反収 Kg/ha

州 別	1989	1990	1991	1992	1993
リオ・グランデ・ド・メル	1,716	1,796	712	1,957	1,971
パラナ	2,106	2,050	1,790	1,900	2,344
マツト・グロツソ	2,228	2,006	2,351	2,506	2,454
マト・グロツソ・ド・メル	2,191	1,622	1,895	1,989	2,145
ゴヤス	2,057	1,294	2,082	2,185	2,039
ミナス・ジェライス	1,992	1,341	2,057	2,065	2,027
全国平均	1,971	1,732	1,553	2,033	2,134

出所：IBGE

